

よ かた あら や  
**富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書**

－富山北消防署和合出張所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2014

富山市教育委員会

## 正誤表

よ かた あら や  
**富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書**

- 富山北消防署和合出張所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2014

富山市教育委員会



四方荒屋遺跡遠景（東から）



四方荒屋遺跡（上層）全景（上から）



四方荒屋遺跡（下層）全景（北から）



四方荒屋遺跡出土天王山式土器

## 例 言

- 1 本書は富山市四方荒屋地内に所在する四方荒屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は富山北消防署和合出張所新築工事に伴うものである。富山市土地開発公社（理事長老月邦夫）の委託を受け、富山市教育委員会の監理のもと株式会社上智富山支店が担当した。
- 3 試掘調査・発掘調査・整理調査期間及び発掘調査面積・調査担当者は以下のとおりである。

試掘調査	平成25年 2月15日～2月25日
試掘調査対象面積	2960.415m <sup>2</sup>
監理担当者	近藤顕子（富山市教育委員会埋蔵文化財センター 主査学芸員）
試掘調査担当者	藤田慎一（株式会社上智 空間情報課係長）
現地発掘調査	平成25年10月 2日～平成25年12月20日
発掘調査面積	1052m <sup>2</sup> （上層 1052m <sup>2</sup> 、下層1004.2m <sup>2</sup> ）
監理担当者	近藤顕子（富山市教育委員会埋蔵文化財センター 主査学芸員）
発掘調査担当者	藤田慎一（株式会社上智 空間情報課係長） 吉田有里（株式会社エイ・テック 調査員）
整理調査	平成25年11月22日～平成26年 3月28日
監理担当者	近藤顕子（富山市教育委員会埋蔵文化財センター 主査学芸員）
整理調査担当者	藤田慎一（株式会社上智 空間情報課係長）
- 4 調査及び報告書作成にあたり、次の方々よりご協力・ご助言を賜った。記して謝意を表します。  
岡田 一広 辻本 裕也 久田 正弘 藤井 秀明 （敬称略 五十音順）
- 5 自然科学分析はC14年代測定、微化石分析、胎土分析、微細物分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果を第Ⅳ章に掲載した。
- 6 本書の執筆は第Ⅰ章第1節および第Ⅱ章を近藤が、それ以外を藤田が担当した。
- 7 出土品及び原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。

## 凡 例

- 1 方位は座標北、水平水準は東京湾平均海面海拔高である。
- 2 公共座標は平面直角座標世界測地系（第Ⅷ系）を使用し、南北をX軸、東西をY軸とした。
- 3 遺構表記は以下の記号を用いた。  
P：ピット SK：土坑 SD：溝・畑跡 SE：井戸 SX：不明遺構
- 4 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』（2004年版）に準拠している。

## 目 次

第Ⅰ章 調査の経過 .....	1
第1節 調査にいたる経過 .....	1
第2節 試掘調査の経過 .....	1
第3節 発掘調査にいたる経過 .....	1
第4節 発掘調査の経過 .....	1
第5節 整理調査の経過 .....	2
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 .....	3
第1節 地理的環境 .....	3
第2節 歴史的環境 .....	3
第Ⅲ章 調査の概要 .....	5
第1節 試掘調査 .....	5
第2節 発掘調査の方法 .....	8
第3節 基本層序 .....	10
第4節 遺構 .....	12
第5節 遺物 .....	41
第Ⅳ章 自然科学分析 .....	45
第1節 放射性炭素年代測定 .....	45
第2節 古環境および植物利用 .....	46
第3節 胎土分析 .....	53
第Ⅴ章 総括 .....	61
第1節 烟跡について .....	61
第2節 泥面子の出土について .....	61
第3節 平地式建物について .....	64
第4節 神通川下流域の弥生時代 .....	67
第5節 天王山式土器について .....	67
引用・参考文献 .....	70
写真図版 .....	
報告書抄録 .....	

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	4	第17図 地震痕跡を確認した遺跡	29
第2図 試掘調査出土遺物実測図（弥生土器）	6	第18図 地震痕跡位置図	30
第3図 試掘調査全体図	7	第19図 出土遺物実測図（上層遺物 古代～近世）	43
第4図 調査区位置図	9	第20図 出土遺物実測図（下層遺物 弥生時代中期・後期）	44
第5図 調査区基本層序位置図	11	第21図 本遺跡とその周辺で出土した泥面子・ 加工円盤	
第6図 烟跡の群構成	13	第22図 四方荒屋遺跡竪状遺構集中部分	62
第7図 調査区全体図	14・15	第23図 中世～近世にかけての四方荒屋遺跡	63
第8図 烟跡平面図・断面図（1）	16	第24図 富山県内で確認された平地式建物の一例	64
第9図 烟跡平面図・断面図（2）	17	第25図 平地式建物を伴う弥生遺跡（1）	65
第10図 烟跡平面図・断面図（3）	18	第26図 平地式建物を伴う弥生遺跡（2）	66
第11図 烟跡平面図・断面図（4）	19	第27図 最近出土の天王山式土器	69
第12図 土坑・井戸平面図・断面図	20	第28図 天王山式土器出土地	69
第13図 下層遺構平面図・断面図（1）	23		
第14図 調査区全体図	24・25		
第15図 下層遺構平面図・断面図（2）	26		
第16図 下層遺構平面図・断面図（3）	27		

## 表目次

表1 遺構観察表（1）	31	表7 遺構観察表（7）	37
表2 遺構観察表（2）	32	表8 遺構観察表（8）	38
表3 遺構観察表（3）	33	表9 遺構観察表（9）	39
表4 遺構観察表（4）	34	表10 遺構観察表（10）	40
表5 遺構観察表（5）	35	表11 遺物観察表	42
表6 遺構観察表（6）	36	表12 遺跡消長表	67

## 図版目次

写真図版1 調査区遠景	写真図版8 下層遺構（2）
写真図版2 調査区全景	写真図版9 下層遺構（3）
写真図版3 上層遺構（1）	写真図版10 下層遺構（4）
写真図版4 上層遺構（2）	写真図版11 地震痕跡
写真図版5 上層遺構（3）	写真図版12 出土遺物（1）
写真図版6 上層遺構（4）	写真図版13 出土遺物（2）
写真図版7 下層遺構（1）	写真図版14 出土遺物X線写真

## 第Ⅰ章 調査の経過

### 第1節 調査にいたる経過

四方荒屋遺跡は、昭和63年～平成3年に富山市教育委員会（以下、市教委）が実施した分布調査により、新たに発見された遺跡である。平成5年市教委刊行の『富山市遺跡地図』に登載し、周知の埋蔵文化財包蔵地（市No.201109）として取り扱うこととなった。平成25年、「富山市遺跡地図」改訂にあたり、「四方荒屋遺跡」（市No.2010014）とした。

平成24年4月20日、富山市消防局総務課（以下消防局）から市教委へ富山北消防署と合出張所の移転・新築工事予定地について埋蔵文化財包蔵地の該当の有無の問い合わせがあった。当該地が埋蔵文化財包蔵地内であるため、同年5月1日に2者で協議を行った。工事予定範囲2,960.415m<sup>2</sup>を対象に試掘調査を実施することとし、現地が作付け中であることから、作付け終了後の冬期に調査を行うこととした。平成24年12月28日付けで消防局から文化財保護法94条第1項に基づく通知が提出された。

### 第2節 試掘調査の経過

試掘調査は、消防局から株式会社上智富山支店が受託し、市教委埋蔵文化財センターが監理を行った。現地調査を平成25年2月12日から2月25日まで実施した。調査対象面積2,960.415m<sup>2</sup>に対し調査トレンチを6ヶ所設定し、重機によって遺構面までの掘削を行い、人力による検出作業によって遺構の有無を確認した。また下層遺構の存在の可能性も想定されていたことから、トレンチの一部にサブトレンチを設けて下層遺構の確認作業を行った。その結果、調査対象部分の大半に2層の遺構面があることが確認された。上層遺構は調査対象面積全域に、中世～近世の畝跡、土坑や柱穴と考えられるピットが、下層は2,485.581m<sup>2</sup>で弥生時代と考えられる遺構が確認された。調査の終了後、出土品の整理を3月29日まで実施した。

### 第3節 発掘調査にいたる経過

試掘調査結果に基づき、消防局、造成工事を担当する土地開発公社と整備工事にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、基礎の掘削工事による遺跡の破壊が免れない出張所建物・擁壁2,678.2m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することとし、発掘調査にかかる監理依頼文が平成25年8月1日付けで消防局から埋蔵文化財センターへ提出された。

消防局が造成工事完了までの業務を土地開発公社に委託していることから、発掘調査は土地開発公社から発注され、同年10月2日から12月20日を業務期間として株式会社上智富山支店が受託した。市教委埋蔵文化財センターの監理のもと、10月2日から現地発掘調査に着手し、並行して洗浄・注記等の基礎整理を実施した。12月20日に調査を完了し、現地を引き渡した。

整理調査についても土地開発公社から発注され、平成25年11月22日付で株式会社上智富山支店が受託し、出土品の復元・実測・写真撮影・自然科学分析等を行い、発掘調査報告書を印刷配布し、平成26年3月28日に完了した。  
(近藤)

### 第4節 発掘調査の経過

監理担当者および消防局との現地での打合せ、調査範囲の確認の後、平成25年10月2日に重機による表土掘削作業を開始した。表土掘削の終了の後、遺構検出、掘削作業を行い、10月22日にA区、11月7日にB区の空中写真撮影、測量を実施した。若干の補足の後、下層遺構調査のための包含層掘削

を行い、下層遺構面を確認した後、検出作業、遺構掘削作業を行い、A区は11月30日、B区は12月11日に空中写真撮影、測量を実施し補足作業の後、12月18日からB区の埋め戻し作業を実施し、12月20日に埋め戻しの終了をもって調査を完了した。

今回の発掘調査における成果は、上層では溝、井戸、土坑、ピット、下層では溝、土坑、ピット、不明遺構を確認した。遺物は弥生土器、須恵器、陶磁器、石製品等でコンテナケース（50×30×15cm）に換算して2箱であった。

## 第5節 整理調査の経過

現地発掘調査終了後、出土品の水洗、注記、接合作業を実施し、その終了後、実測、復元作業を実施した。これらの調査の経過にあわせて報告書の執筆作業を実施した。埋蔵文化財センターとの校正作業を経て3月28日に確認調査報告書の印刷、製本および成果品の納入を完了した。 (藤田)



試掘調査作業状況



試掘調査検出状況



表土掘削



A地区遺構掘削（上層）



B地区遺構掘削（下層）



R Cヘリによる空中写真測量

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境（第1図）

本遺跡は富山市北部に位置し、富山市市街地から北へ約7kmの富山市四方荒屋地内に所在する。標高は2.5～3mである。

四方荒屋地区は現在の神通川から西へ約1.5km、海岸汀線からは約600mの神通川左岸の海岸砂丘内側の低湿地上に立地する。神通川左岸を開拓して作られた婦負郡荒屋村を起源とし、「四方」の地名はかつて周辺に存在していた4つの潟湖に由来し、字名の背戸割は江戸初期の田地割に由来すると伝えられる。

神通川の河口付近は過去に大きくその流れを変えており、神通川は万治元年（1658）の大洪水で東岩瀬に流路ができ、その後の寛文8～9年（1668～69）の洪水以降、東岩瀬側を本流とし、ほぼ現在の流路となった。西岩瀬側の川は神通古川と呼ばれ、現在は細い流れとなって残る。遺跡の東側はその旧流路であり、シルト・砂を主体とする河川堆積物が広がる。現在は海岸線の浸食が進んでいるが、寛文年間（1661～1673）には西岩瀬町域の北端から海岸まで400間あったとされ、貞観年間（1684～1688）の『西岩瀬古図』によると、現在の汀線付近が当時の本通りで、さらに北側へ町屋・道路が延びている様子が描かれている。

草島地区では、昭和38年（1953）以降に行われた北陸電力富山火力発電所建設工事で神通川底から約2,000年前の埋没林が見つかり、その付近で縄文時代から江戸時代の遺物が出土した。

遺跡の周辺は近年、宅地開発が著しいが、かつては村落と水田が広がる田園地帯であった。現地形は平坦であるが、試掘調査では多くの旧河道跡が検出されている。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺には、縄文時代から中世に各時代の遺跡が存在する。

縄文時代は、前述した神通川底からの出土遺物に縄文時代前期初め（約6,000年前）の土器が含まれ、この他に前期中頃～後半、中期中葉～後葉、磨製石斧が出土した（古川2005）。本遺跡でも後期～晚期の土器、神通川対岸に位置する千原崎遺跡で中期～晚期の土器、今市遺跡で中期・後期の土器、打出遺跡で晚期の土器が出土した。いずれも遺構が検出されておらず、集落の形成は確認されていない（富山市教委1999・2004・2013）。

弥生時代から古墳時代は、本遺跡のほか複数の遺跡で集落の存在を確認した。隣接する四方背戸割遺跡では地域性の高い「北陸型台付葬篋壹」が出土した（富山市教委1999・2006）。

古代では、本遺跡で平安時代前期（9世紀後半）以前の掘立柱建物や土坑を確認したほか、四方北窪遺跡でも奈良時代（8世紀前半）以降の集落を確認した（富山市教委1999）。打出遺跡では平安時代の直線道路を確認した（富山市教委2006）。

中世では、本遺跡で区画溝による屋敷地の区分が明らかになっているほか、周辺の四方背戸割遺跡・四方北窪遺跡で集落跡が確認した（富山市教委1998・1999・2006）。打出遺跡では室町時代の区画溝や土坑墓を確認し、中世以降に栄えた港町西岩瀬の様子が明らかになりつつある。

近世では、中世末から近世前期の港町と推定される千原崎遺跡で鉄滓や炭・焼土を伴う方形堅穴状遺構を検出し、宿場的な性格に加え、鍛冶関連の作業場を併設していたと考えられる。（富山市教委1999・2001）  
（近藤）



- 1 四方荒屋遺跡      2 四方北堀遺跡      3 四方西野洞遺跡      4 四方背戸洞遺跡      5 打出遺跡  
 7 草島遺跡      8 千原崎遺跡      9 今市遺跡      10 宮尾遺跡      11 百塚住吉B遺跡      6 江代洞遺跡  
 13 八町II遺跡      14 八ヶ山C遺跡      15 八ヶ山B遺跡      12 八ヶ山A遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 第1節 試掘調査

#### 試掘調査の方法

調査区は想定される建物の配置場所を考慮して設定した。調査対象は2960.415m<sup>2</sup>で試掘調査の掘削面積は142.5m<sup>2</sup>、調査トレンチは6ヶ所である。表土掘削はバックホウ（平爪）を使用し、遺構検出面と考えられる深さまで慎重に掘削した。表土掘削の後、鋤簾等を用いて遺構検出を行った。検出によって確認された遺構等についてはマーキングを行った後、トータルステーションによる平面図の計測作業を行った。下層遺構の確認作業については遺構が確認出来なかった部分にサブトレンチを人力で掘削し、遺構の検出作業を行った。遺構掘削は土量の確認ため、部分的に実施し、掘削は移植ゴテを使用して行った。土層図は各トレンチで約10mごとに柱状図の作成を行った。写真撮影については現地調査で35mmサイズのカメラを使用し、フィルムはカラーネガおよび白黒を使用した。

整理作業については、遺物の洗浄、注記、接合作業、実測図を実施し、調査概要を作成した。洗浄作業は土器が傷つかないように柔らかい刷毛、筆等で水洗した。注記作業については、遺物量が少ないことから接合作業と並行してを行い、遺跡名、出土地、出土日等を面相筆で出来るだけ小さく記入し、接合については接着剤を用いて作業を実施した。実測は1/1で遺物を作図し、観察内容も図面に記入している。調査概要については現地調査の結果をもとづき、遺跡の所在範囲を想定した。

#### 基本層序（第3図）

調査区で確認された基本の堆積層は以下のとおりである。

- I層…表土
- II層…耕作土 5Y6/1灰色粘質土（黄橙色粒まじる）耕作機械による攪拌を受けていない層。
- III層…耕作土 2.5Y6/1黄灰色粘質土（灰黃褐色土まじる）耕作機械による攪拌を受けていない層。
- IV層…耕盤層 2.5Y6/2灰黄色粘質土（黄橙色粒多くまじる）いわゆる床土である。I層からIV層までが表土層にあたる。各トレンチに若干の様相はことなるが平均30cm程の堆積である。
- V層…包含層 10YR3/1黒褐色粘質土（各トレンチで若干の様相が異なる。稲架穴の影響による搅乱を受けている部分も見られる）中世から近世にかけての堆積層であり若干の近世遺物等を含む。層厚は8~15cm程度となる。
- VI層…上層遺構面（畑跡などの検出面となる）・弥生時代の包含層？ 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト（黒褐色粘質土、褐灰色土まじる）畑の畝跡、溝、土坑、柱穴等が確認された。時期は中世～近世にかけてのものと考えられる。また、溝の埋土やVI層埋土からは弥生土器が出土しており、下層遺構面までの遺物包含層を形成している。
- VII層…下層遺構面 2.5Y7/2浅黄色粘質シルト（しまりあり、にぶい黄橙色粒が斑状にまじる 粒子はかなり小さい）ピットや土坑を確認している。今回の調査では遺物の包含は確認されなかつたが、上面のVI層からは弥生土器が出土しており、周辺での調査を含めてその時期の遺構が存在する可能性がある。
- VIII層…無遺物層 2.5Y7/1浅黄色粘質シルト（VII層とあまり変わらないが、しまりが強い）

#### 検出遺構（第3図）

各トレンチでの状況を示す。

### 1 ドレンチ

東側で畝跡とみられる畝状遺構を多く確認した。西側に向かって若干、上層遺構は希薄となる。下層の確認ドレンチからはピット等が確認され、全域に下層遺構が存在すると想定出来る。遺物は近世陶磁等が出土した。

### 2-1 ドレンチ

東側で畝状遺構を多く確認した。西側に向かって若干、上層遺構は希薄になる。下層の確認ドレンチからはピット、土坑が確認され、全域に下層遺構が存在すると想定する。溝や上層検出面となるVI層からは弥生土器が出土した。

### 2-2 ドレンチ

畝状遺構等を確認した。中央部のみ畦畔ブロックによって擾乱を受けている部分がある。下層の確認ドレンチからはピットが確認され、全域に下層遺構が存在すると想定する。遺物は近世陶磁等が出土した。

### 2-3 ドレンチ

東側で畝状遺構を多く確認した。西側に向かって若干、上層遺構は希薄になる。西側部分は稲架穴によって擾乱を受けている部分が顕著である。下層の確認ドレンチからはピット、土坑が確認され、全域に下層遺構が存在すると想定する。

### 3 ドレンチ

ドレンチ全体に流路あるいは落ち込みの中と考える。遺物は近世陶磁が出土した。

### 4 ドレンチ

ドレンチ全体に流路あるいは落ち込みの中と考える。3ドレンチで検出したものと同様と想定する。遺物の出土は無い。

## 出土遺物（第2図）

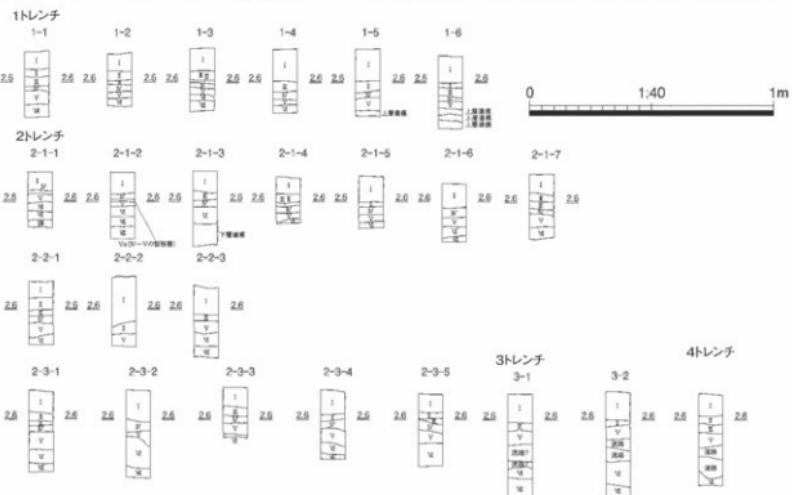
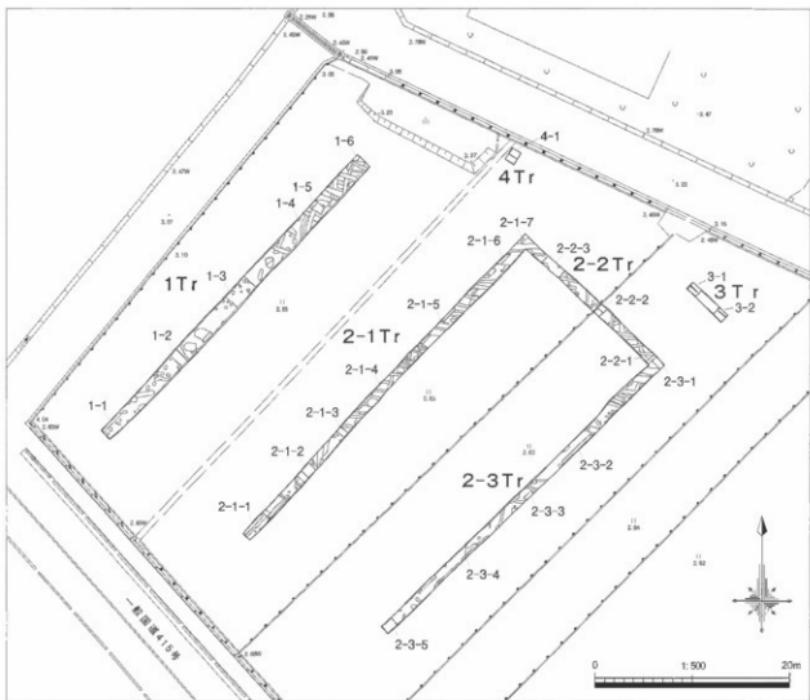
試掘調査では少量ではあるが、弥生土器、越前、近世陶磁が出土している。図示した弥生土器は甕で口縁部の内面に羽状文が刻まれている。弥生時代中期後半と考えられる。越前は破片であるが16世紀代と推定される。近世陶磁については18世紀代とみられる。弥生土器はVI層の検出構造や埋土より出土しているため、下層遺構の時期が弥生時代中期を前後する時期と想定することが出来る。

## 試掘調査の結果

今回の調査では調査対象地の大半に2層の遺構面が存在することが想定され、1層の部分については西側の一部にとどまる。この部分については下層のⅣ層のみが遺構面となる部分である。2層の部分については上層が中世から近世、下層が弥生時代の遺構面と想定出来る。周辺の四方背戸割遺跡の調査においては、同様の2層の遺構面を確認しており、近接する当該調査区においても同様の様相を示すと考えられる。



第2図 試掘調査出土遺物実測図（弥生土器）



第3図 試掘調査全体図

## 第2節 発掘調査の方法

### (1) 発掘調査（第4図）

調査区は工事用に設計段階で設置された座標を基にして設定した。調査面積は1052m<sup>2</sup>である。調査区の振り分けについては道路に面したコの字状の調査区をA区、調査地中央の調査区をB区とした。遺構番号・遺物取上げ番号についてはA区、B区に関係なく通し番号を付している。

表土掘削はバックホウ（平爪）を使用し、試掘調査の結果を基にして上層の遺構検出面まで掘削し耕作土を除去した。表土掘削の後、鋤簾等を用いて遺構検出を行った。検出によって確認された遺構等についてはマーキングを行った後、掘削を実施した。遺構掘削は移植ゴテを使用し、搅乱や試掘のサブトレレンチについては剣先スコップ等によって掘削を行った。遺構は溝については土層観察用のベルトを設けて掘削し、土坑、ピット等は基本、半裁による土層確認を行った。土層の確認後、主要なものについては断面の写真撮影、実測等を行い、その他のものについては土色の確認を行ってから、遺構の完掘を実施した。この工程内の記録作業については、図面は平面図・断面図・遺物出土状況図を作成し、縮尺を1/20を基本として作成した。写真撮影については現地調査で35mm・プローニー(6×7)サイズのカメラを使用し、フィルムは35mmのカラーねがおおよび白黒、プローニーはカラーリバーサルと白黒を使用した。上層の遺構の完掘後、調査区ごとに空中写真撮影、測量を行い、終了後、下層遺構の確認を行った。

下層遺構については、上層の確認面でもある包含層を鋤簾、スコップ等で掘削し確認面まで掘り下げた後、検出作業を実施した。検出から完掘までの作業については上層と同じ作業工程、記録作業を実施し、完掘後、調査区ごとの空中写真撮影、測量を行った。下層遺構の調査終了後にはB区の埋め戻し作業を実施した。上層遺構、下層遺構の排土については事業地内の調査区そばに仮置きし、調査終了時に事業地の中央に位置するB地区の埋め戻しに用いた。

### (2) 自然科学分析

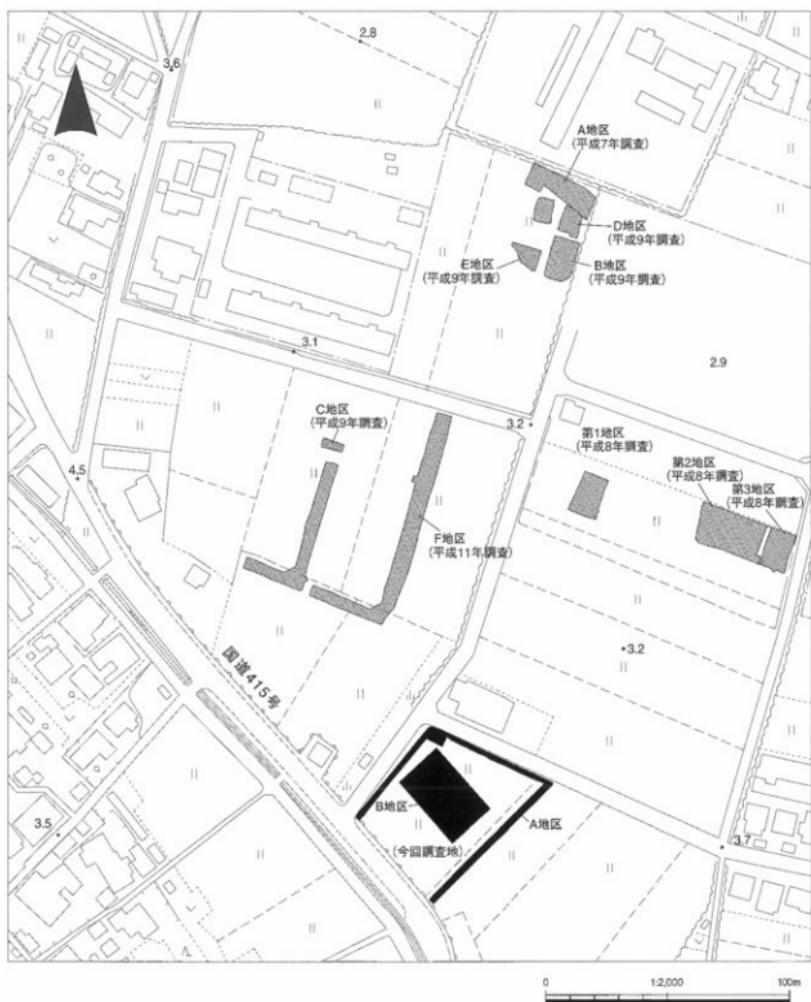
自然科学分析については放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、微細物分析、樹種同定、胎土分析を実施した。以上の分析項目をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。試料のサンプリングについてはパリノ・サーヴェイ株式会社の担当が調査地に赴き採取し、調査のスケジュール上、採取出来なかった試料については調査担当が採取し、依頼先への提供を行った。放射性炭素年代測定については、遺物は伴わないが、埋土中の炭化物が顯著であった遺構2ヶ所を対象とした。珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、微細物分析、樹種同定については上層遺構で歯状遺構の性質および上層、下層各時期の周辺環境を考察するために実施した。胎土分析については出土した弥生土器の産地等を考えるために実施した。

### (3) 整理調査

整理調査については、遺物の洗浄、注記、接合作業、復元の進捗と並行しながら、実測、遺物写真撮影を実施した。報告書作成については図面をデジタルトレースし、版組を作成して入稿した。

洗浄作業は土器が傷つかないように柔らかい刷毛、筆等で水洗した。注記作業については、遺物量が少ないとから接合作業と並行して行い、遺跡名、出土地、出土日等を面相筆で出来るだけ小さく記入し、接合については接着剤を用いて作業を実施した。復元については補強が必要な遺物を選定し、充填剤を利用して土器片間の隙間を埋めて補強した。実測は1/1で遺物を作図し、観察内容も図面に記入した。遺物写真撮影については高画素数のデジタルカメラを使用して撮影を行った。遺物

実測図や発掘調査中に作図した図面はイラストレーター等の作図ソフトを利用してデジタルトレースを行った。報告書の作成についてはこれまでの成果を基にして執筆を実施した。



第4図 調査区位置図

### 第3節 基本層序（第5図）

調査区で確認された基本の堆積層は試掘調査時と同様であり、試掘調査での見解と少し異なる部分についてはここに記載する。また、下層構構の調査において地震痕跡が確認されたため、その変成状況を確認するためにⅦ層より下層まで掘削を行った。その状況を記載する。

I層…表土 現況の耕作土である。

II層…耕作土 5Y6/1灰色粘質土（黄橙色粒まじる）耕作機械による攪拌を受けていない層。

III層…耕作土 2.5Y6/1灰黄色粘質土（灰黄褐色土まじる）耕作機械による攪拌を受けていない層。

IV層…耕盤層 2.5Y6/2灰黄色粘質土（黄橙色粒多くまじる）いわゆる床土である。I層からIV層までが最近の耕作による層にあたる。各トレンチに若干の様相はことなるが30cm～40cm程の堆積となる。

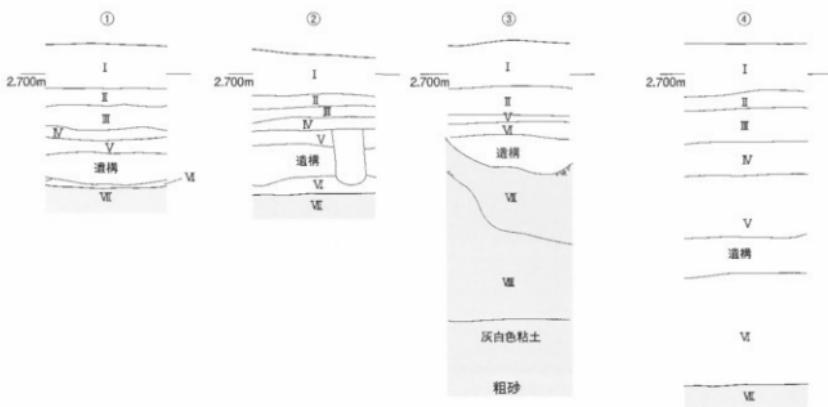
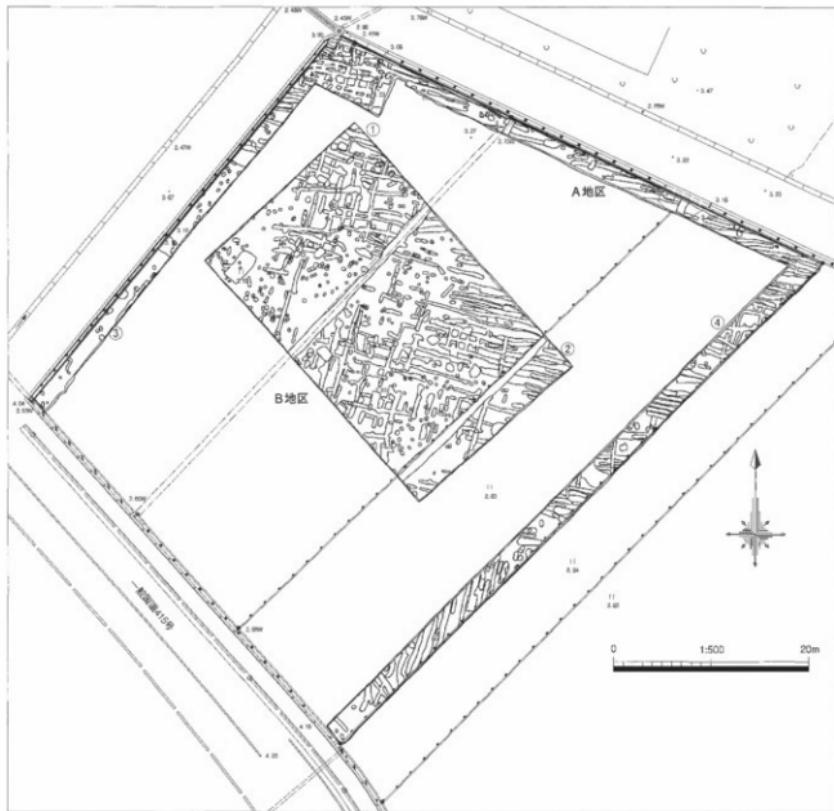
V層…包含層 10YR3/1黒褐色粘質土（各トレンチで若干の様相が異なる）稲架穴の影響による搅乱を受けている部分も見られる）中世から近世にかけての堆積層であり若干の近世遺物等を含む。層厚は8～20cm程度となる。かなり人為的な攪拌を受けており、近世において耕作利用されていた土が耕地整理以前に改変を受けた部分になると考えられる。

VI層…上層遺構面（烟跡などの検出面となる）・弥生時代の包含層となる。10YR6/2灰黄褐色粘質シルト（黒褐色粘質土、褐灰色土まじる）烟の歛跡、溝、土坑、柱穴等が確認された。時期は中世～近世にかけてのものと考えられる。また、溝の埋土やVI層埋土からは弥生土器が出土しており、下層遺構面までの遺物包含層を形成している。堆積層は5cm以下の中層も見られるが30cm以上の厚さが確認出来た部分も存在する。

VII層…下層遺構面 2.5Y7/2浅黄色粘質シルト（しまりあり、にぶい黄橙色粒が斑状にまじる 粒子はかなり小さい）ピットや土坑、溝を確認している。

Ⅷ層…無遺物層 2.5Y7/1浅黄色粘質シルト（VII層とあまり変わらないが、しまりが強い）で30～40cmの堆積がある。この層の下には鉄分を含んだ灰白（8N）色粘土層があり、さらに下には鉄分を多く含んだ粗砂があるとみられ噴砂の供給層となっている。

以上が本調査区での堆積状況である。深度は確認出来なかつたが噴砂で下層遺構面まで吹きあがつた粗砂の確認によって弥生時代以前は海あるいは河道内であったと考えられる。その後、弥生時代中期頃までの間に起こった氾濫等によって土砂が供給、堆積することで安定した微高地が形成され下層遺構面となるVII層となつたとみられる。VI層は上層遺構面で下層遺構の遺存状況も含め考えるとVII層の一部を大きく改変して形成されたとみられる。近世までの間に耕作等の土地利用や洪水等のよって形成されており均質な層となっていない。この層を掘削し、主として耕作地として土地利用がされている。V層はVI層の改変により形成された層で上層の包含層となる。I～IV層は現代の耕作利用によつて形成された層で客土あるいは改良土とみられる。



第5図 調査区基本層序位置図

## 第4節 遺構

今回の調査で上層、下層の2層の遺構面が確認され、上層では溝、土坑、井戸、ピット等を、下層では土坑、溝、ピット等を確認した。

### 1. 上層遺構

上層遺構は確認された遺構の大半が歓状遺構であり、烟跡と見られる。煙跡については歓溝群として記述する。その他の遺構については主要なものの記載し、このほかは遺構観察表に記述する。

#### (1) 煙跡（第6、8～11図 写真図版3～5）

A地区、B地区の東側に集中しており、西側に向かって希薄になる傾向がみられる。上層で確認された歓溝は300基を超える。主軸方向から概ね2タイプに分かれ、A、B群とする。

A群は主軸方向をN-15°～20°-Eをとり、その方向へと直線的に伸びる歓溝群である。深さは概ね5～20cmの範囲である。検出状況は概ねA地区、B地区の中央部に集中し、A地区的東端部分では散発的、西側では希薄になる。A地区的南側で確認されたものはA群単独で、ほぼ同一方向で群をなすが、A地区的北端や東端、B地区で検出された溝については後述するB群が交差している。各溝の埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無い。

B群は主軸方向をN-75°～80°-Wをとり、その方向へと直線的に伸びる溝である。深さは概ね5～20cmの範囲である。検出状況については概ねA地区的北側、東側、B地区に集中し、A地区的南側、西側では希薄になる。A地区的北東部分で確認したものは単独で、ほぼ同一方向で群をなすが、A地区の北端や東端、B地区で検出した溝についてはA群を交差する。各溝の埋土はA群と同じく黒褐色粘質シルトでやや色見が異なる。遺物の出土は無い。

A群とB群はほぼ直交して確認しており、その新旧関係はB群がA群より新しい。しかし遺物が伴っていないため両群の年代、時期差については検証出来ない。A群、B群ともに一定の規格性をもつ溝であり、煙の歓溝であったと考えられる。また、歓溝群の検出状況から耕作地において幅20m前後の区画が想定される。これまでの本遺跡での調査でも歓溝群が確認されており、これらとの検討については第5章の総括で述べる。また自然科学分析では良好な植物遺体が検出されず、何を栽培していたかを特定することは出来なかった。

#### (2) 土坑（第12図 写真図版4）

A、B両地区で23基を確認した。ほとんどのものが5～10cmと浅く、單層である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物などを伴わないため機能は不明である。主要なものとしてはSK632がある。

#### SK632

B地区の中央付近で検出した。平面形状は方形で、規模は長軸1.55m、短軸1.10m、深さは0.21mである。埋土は黒褐色粘質土で、灰黄褐色土が少し混入する。遺物の出土は無い。主軸方向が歓溝と異なり、耕作に伴う施設ではないと考える。

#### (3) 井戸（第12図 写真図版4）

A、B両地区で2基確認した。掘削時に湧水はなく現在が当時より地下水位が下がっているためか、井戸としてではなく肥溜の甕や溜め枡や入れる施設の可能性もある。

#### SE140

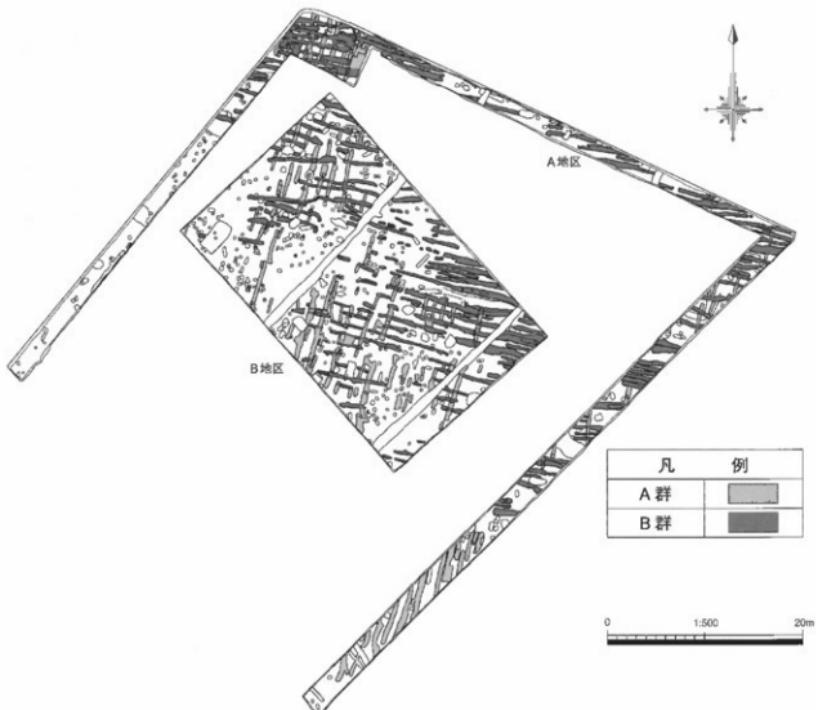
A地区の西側で検出した。北西部の一部が調査区外へ伸びる。平面形状は円形であると推測され、規模は確認部分で長軸1.10m、短軸0.95m深さ0.53mである。素掘りの井戸で埋設物等は確認出来ない。埋土は灰色粘質シルトであり、掘り込んだVI層、VII層の堆積土がブロックや粒子として混入している。遺物の出土は無い。

#### SE258

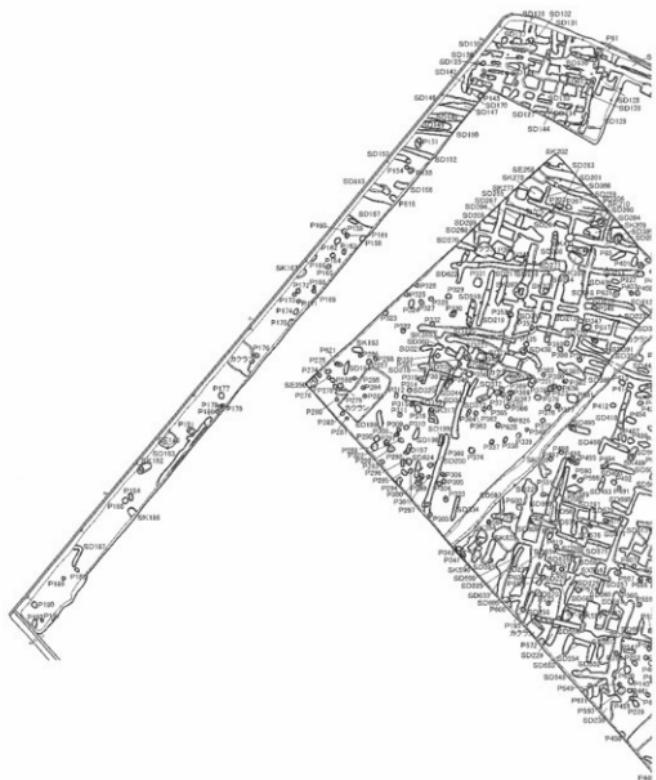
B地区の北西隅で検出した。北西部の一部が調査区外へ伸びる。平面形状は椭円形と推測され、規模は確認部分で、長軸0.86m、短軸0.70m深さ0.48mである。素掘りの井戸で埋設物等は確認出来ない。埋土は灰色粘質シルトであり、掘り込んだVI層、VII層の堆積土がブロックや粒子として混入する。遺物の出土は無い。

#### (4) ピットについて

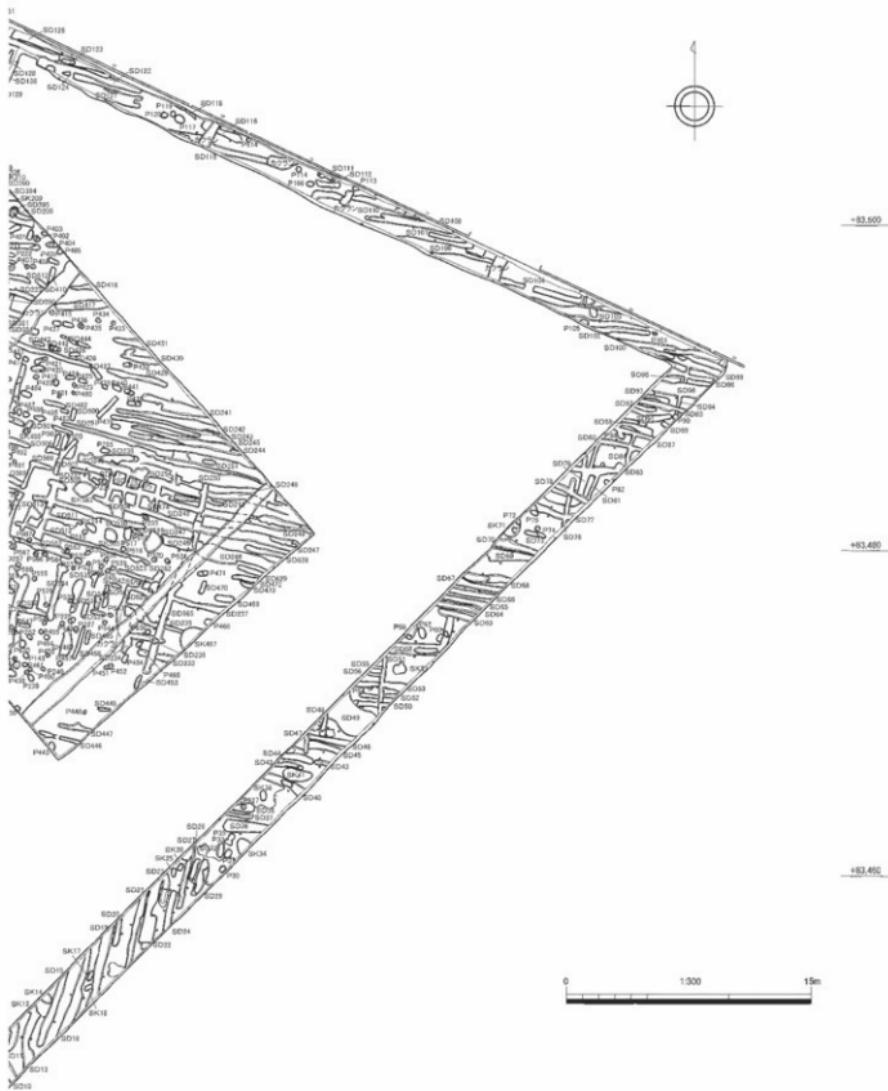
A地区、B地区ともに約300基のピットを確認した。直径30cm前後、深さ10~20cm前後のものが多い。埋土は単層で褐色、黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無い。建物の柱穴を構成するものは確認出来ず、耕作に伴う穴であると想定する。



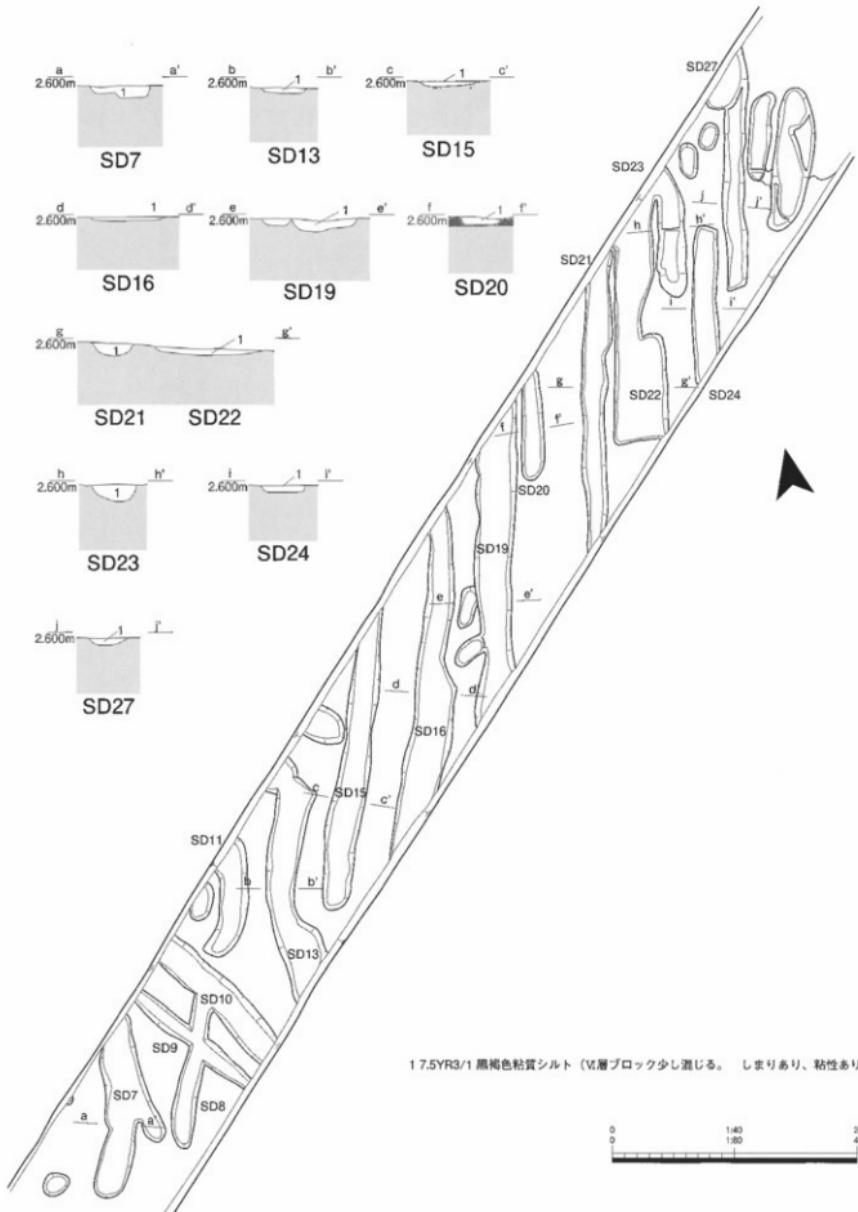
第6図 畑跡の群構成



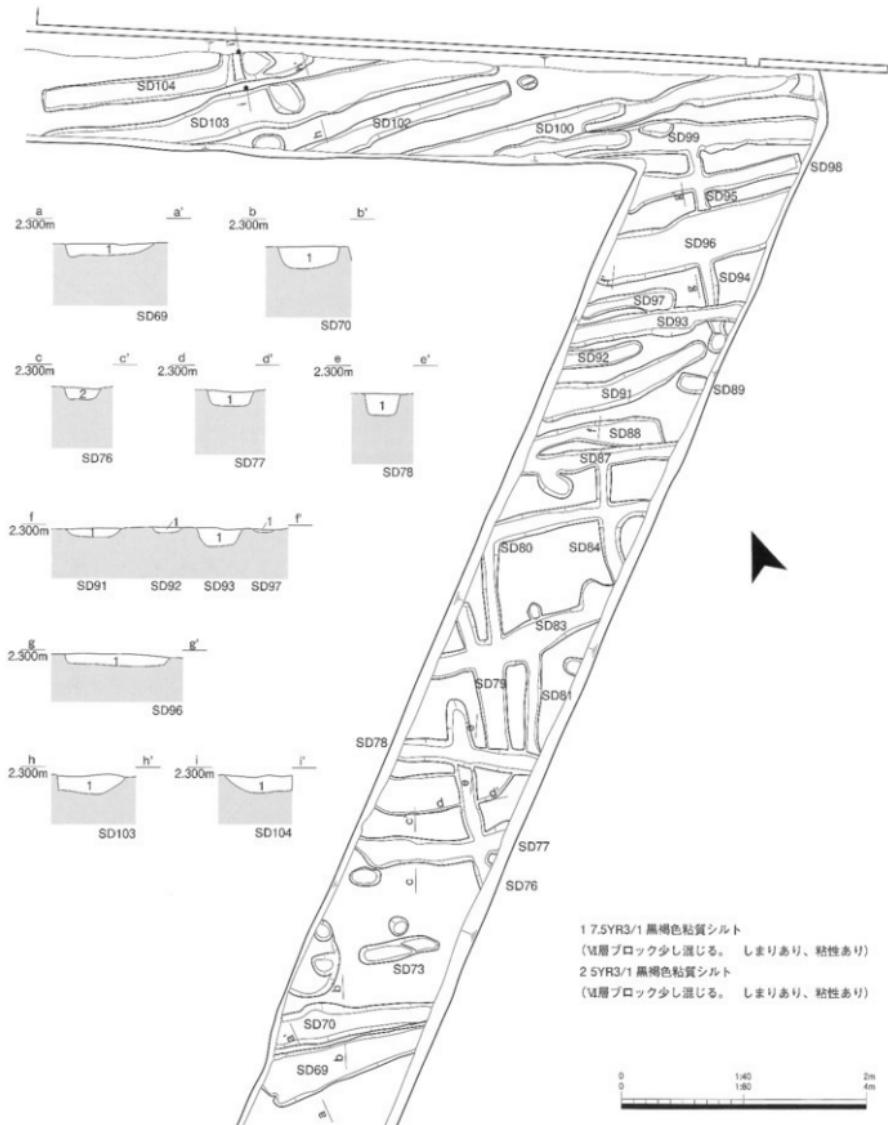
- 14 -



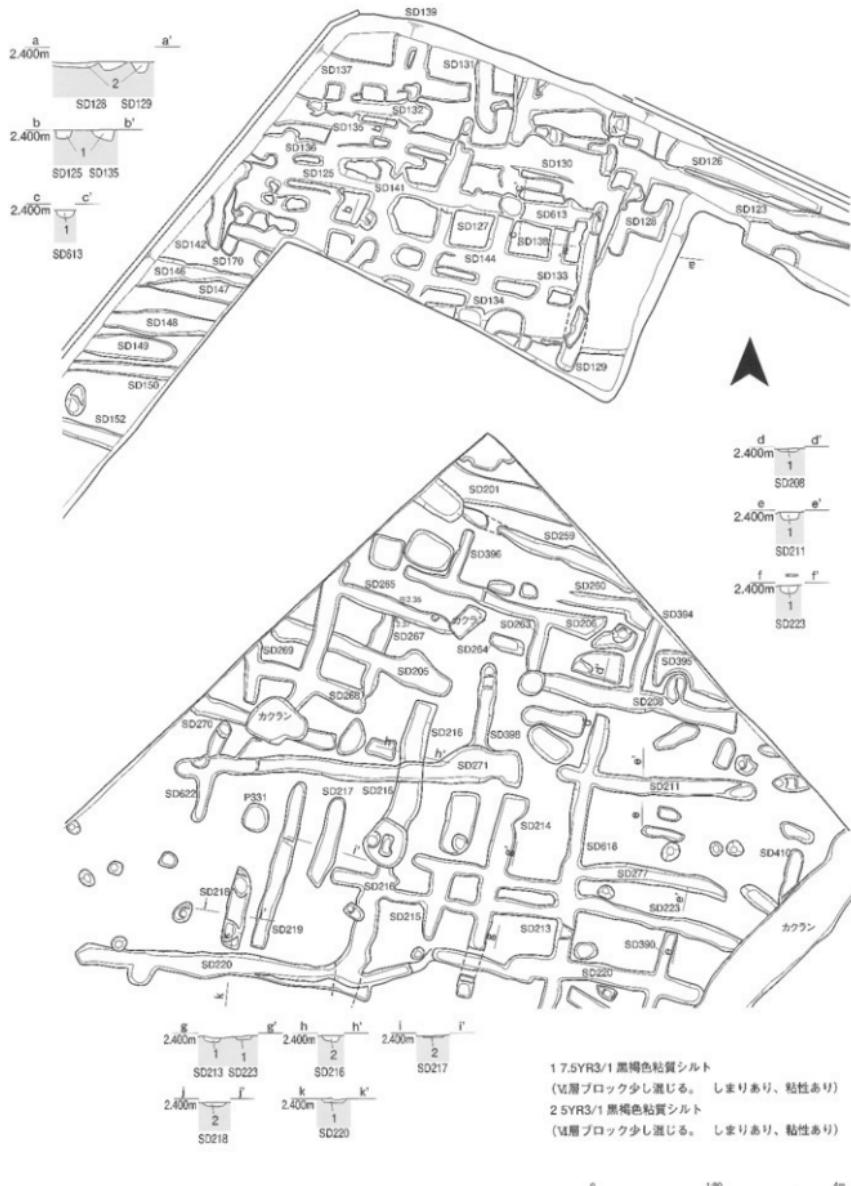
第7図 調査区全体図（上層 1/300）



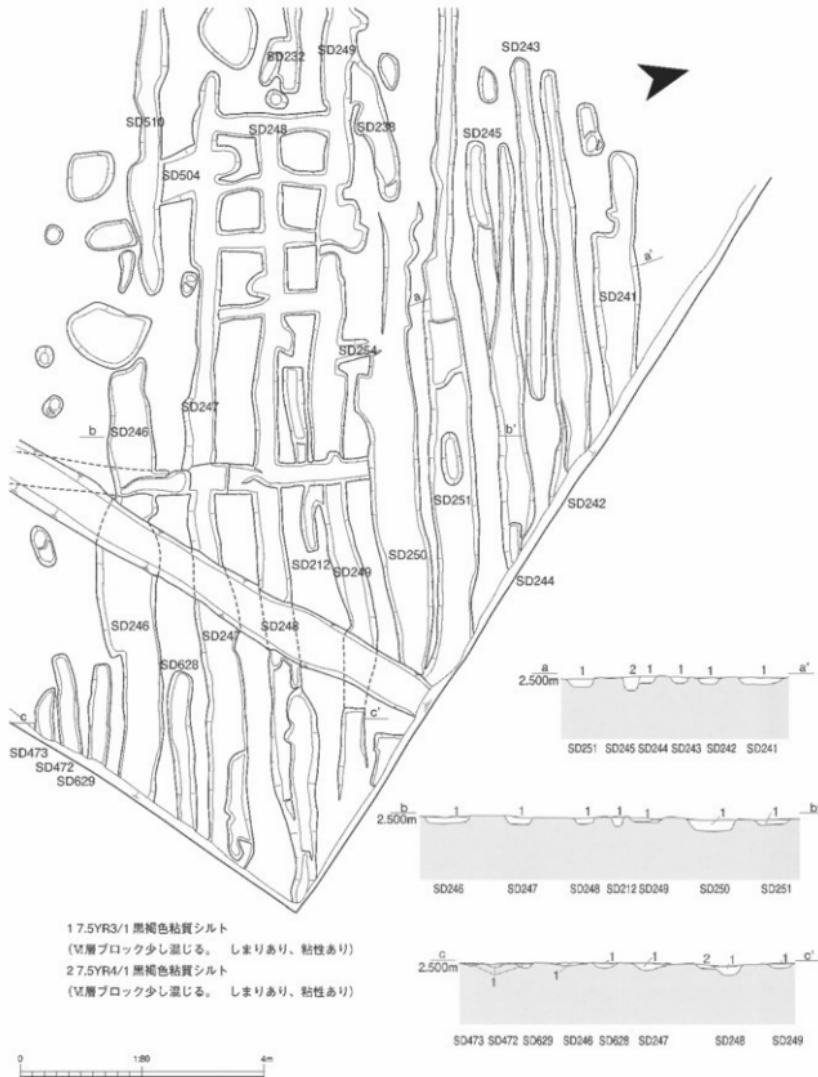
第8図 烟跡平面図・断面図(1)(平面1/80断面1/40)



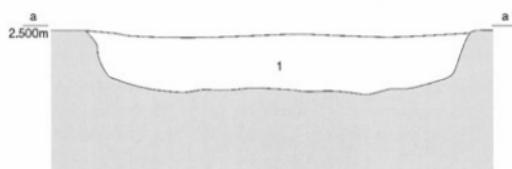
第9図 煙跡平面図・断面図（2）（平面1/80断面1/40）



第10図 煙跡平面図・断面図（3）（平面1/80断面1/80）

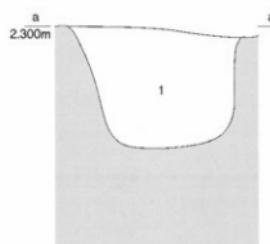
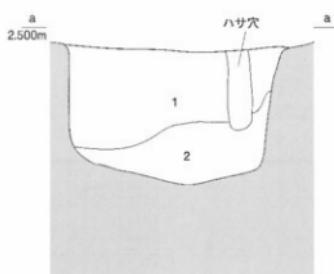
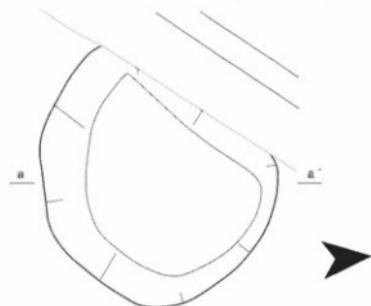


第11図 煙跡平面図・断面図(4)(平面1/80断面1/80)



SK632

1 7.YR3/1 黒褐色粘質シルト (V2層ブロック少しある。しまりあり、粘性あり)



SE258

1 5Y4/1 灰色粘質シルト VI、VII層ブロックφ2~20mm 10% 混じる。

2 7.5Y4/1 灰色粘質シルト VII層ブロックφ2~20mm 20% 混じる。

SE140



第12図 土坑・井戸平面図・断面図 (1/20)

## 2. 下層遺構

下層遺構は355基を確認した。遺構の多くは溝とピットであり、B地区の西側から集中して確認した。このほかの遺構としては溝、土坑、不明遺構を確認した。下層遺構についても上層遺構と同様に主要なものを記載し、このほかについては遺構観察表で記述する。また、下層遺構面で地震痕跡を4ヶ所確認した。

### (1) 溝（第13、15図 写真図版7～9）

下層遺構では13条の溝を確認した。時期は遺物を伴うものがSD965のみであるが弥生時代中期から後期の遺構と考える。

#### SD800

B地区の北側で検出した。東西方向の溝で、東側にあるSD804、北側にあるSD802より新しい溝である。規模は全長、12.25m、幅は0.58～1.22m、深さは最深で0.10mである。埋土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物の出土は無い。遺構の時期は弥生時代に属する。この溝より北側では、遺構が希薄となるため区画溝的な機能と推測する。

#### SD802

B地区の北側で検出した。南側にあるSD800より古い溝である。全長は確認部分で4.98m、幅は0.58～1.10m、深さは0.05mである。埋土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物の出土は無い。遺構の時期は弥生時代に属する。

#### SD804

B地区の北側で検出した。東西方向の溝で、東側のSD80より古い溝である。全長は確認部分で3.80m、幅は0.40～0.60m、深さは0.10mである。埋土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物の出土は無い。遺構の時期は弥生時代の範疇とみられる。SD800と同じく区画溝的な機能と推測する。

#### SD959・960

A地区の南側で確認した。部分的な検出であるが、環状にめぐる溝と想定される。各溝の規模と埋土は、SD959は幅0.70m前後、深さは0.08m、SD960は幅0.60m前後、深さ0.09mである。埋土はともに灰褐色粘質シルトである。SD959は調査区内で1/4周廻ったような状況と確認しており、隣接するSD960にめぐる周溝となる可能性がある。溝内側で施設の確認は出来なかったが平地式建物跡の一部の可能性があり、その場合、直径9～10m程度の規模の住居跡と推測される。本遺跡とその周辺では四方背戸割遺跡で同様のものが確認されている（富山市教委2006）。遺物の出土は無いが時期は弥生時代に属する。

#### SD965

A地区北西、南東側、B地区の南側で検出した。北西～南東方向へ流れる溝である。調査区外へ伸びており、確認部分での全長は51.60m、幅は1.6～2.0m、深さは最深で0.55mである。上部を削平されており、本来は深い溝であった可能性が高い。埋土は上面が灰褐色粘質シルトであり、中層に明褐色粘質シルト、下層は黄灰色、暗灰色の粘質シルトが堆積する。断面および遺構底面で噴砂の痕跡を確認した。また、堆積土に有機質を含んだ黒色土の堆積等がないため短い期間に廃絶された可能性が高い。

遺物は上層、中層と肩部で弥生土器が出土した。遺物は弥生時代中期後半、後期の北陸系および後期の天王山式土器であり、溝の埋没時期は弥生時代後期前半と考えられる。集落の区画あるいは、用排水的な機能が考えられる。

## SD976

A地区の東側で確認した。やや西にふれた南北方向を流れる溝である。両側が調査区外へ伸びていると考えられる。確認部分で全長は2.20m、幅は0.40～0.50m、深さは0.10mである。埋土は灰褐色粘質シルトの単層で炭化材の小片を多く含む。遺物の出土は無い。遺構の時期は炭化材の年代測定によってBC358～BC173の年代とされており、最近の弥生時代の暦年代の成果（小林 2009）によると弥生時代中期となる。

### （2）土坑（第16図 写真図版10）

12基の土坑を確認した。主なものとしてSK855を取上げる。この他の土坑については概ね、単層で灰褐色粘質シルトが埋土である。遺物の出土は無い。

## SK855

B地区の中央部で確認された土坑である。不明遺構SX856の下面より確認した。上層は褐灰色粘質シルト、下層は黄灰色、暗黄色粘質シルトで、各層に多くの炭化材の小片を含む。規模は長軸0.90m、短軸0.60m、深さは0.26mである。遺物の出土は無い。遺構の時期は炭化材の年代測定によってBC362～BC203の年代とされており、最近の弥生時代の暦年代の成果（西本 2009）によると弥生時代中期となる。

### （3）不明遺構（第16図 写真図版10）

## SX864

B地区の中央部の東寄りで検出した。平面形状は椭円形で規模は長軸1.85m、短軸0.95m、深さ0.18mである。埋土は灰褐色粘質土の単層である。遺物の出土は無い。

## SX900

B地区の中央部の南寄りで検出した。南西側にあるSD965より古い遺構である。規模は長軸4.10m、短軸2.70m、深さ0.12mである。埋土は灰褐色粘質土の単層である。平面形状は不整円形である。底面より穴や土坑などを検出しており、堅穴住居跡の可能性もある。遺物の出土は無いが、時期は弥生時代後期前半以前と推測する。

## SX905

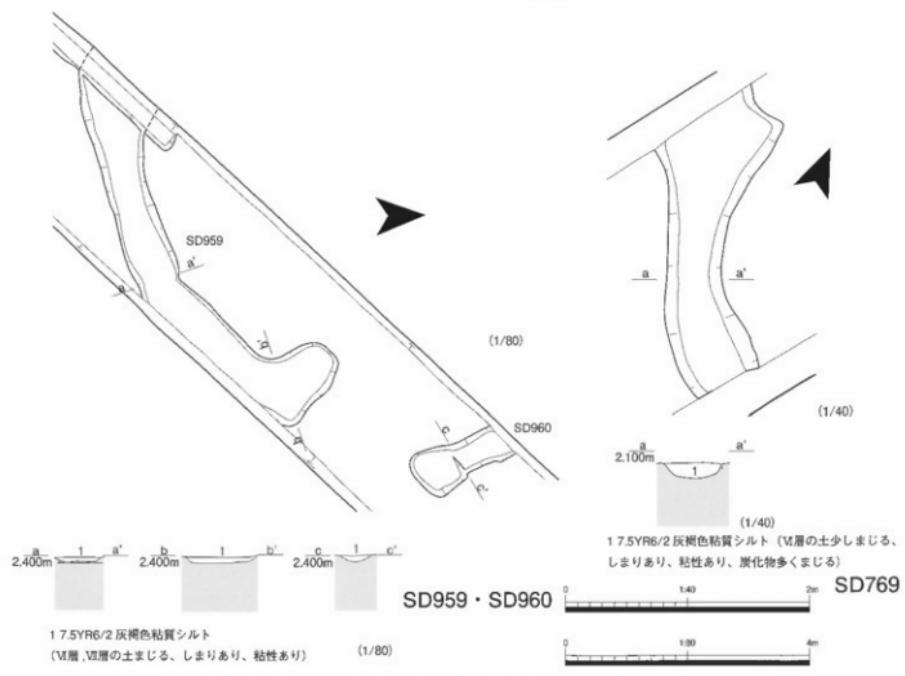
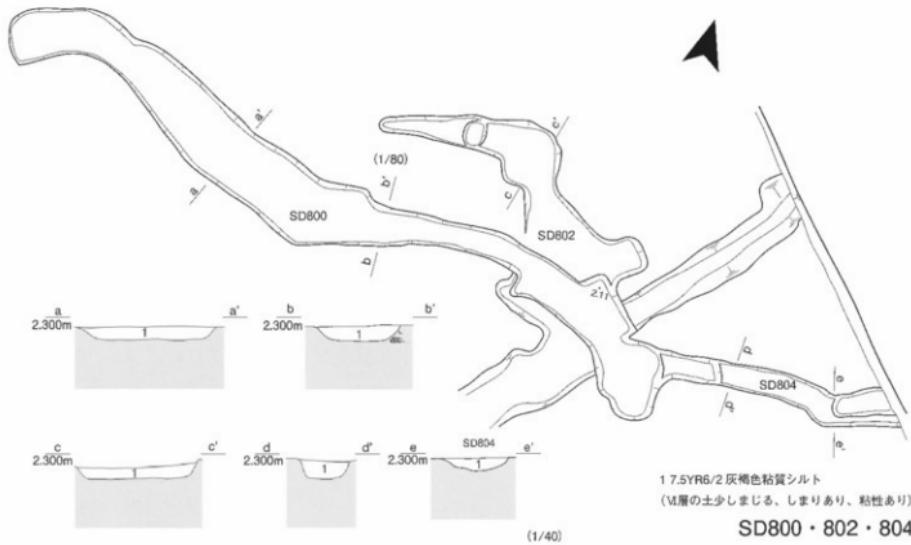
B地区の中央部の南寄りで検出した。規模は長軸2.15m、短軸1.92m、深さ0.16mである。埋土は灰褐色粘質土の単層である。平面形状は不定形で、底面は起伏のある形状である。遺物の出土は無いが付近より天王山式土器が1点出土した。

## SX907

B地区の中央部の南寄りで検出した。規模は長軸1.80m、短軸1.50m、深さ0.17mである。埋土は灰褐色粘質土の単層である。遺物の出土は無い。

### （4）ピット群について

B地区の西側に集中して検出した。埋土は単層で灰褐色粘質シルトである。直径30～50cm、深さ20～30cm程度のものが多い。遺物の出土は無い。建物跡を構成する穴の可能性もある。

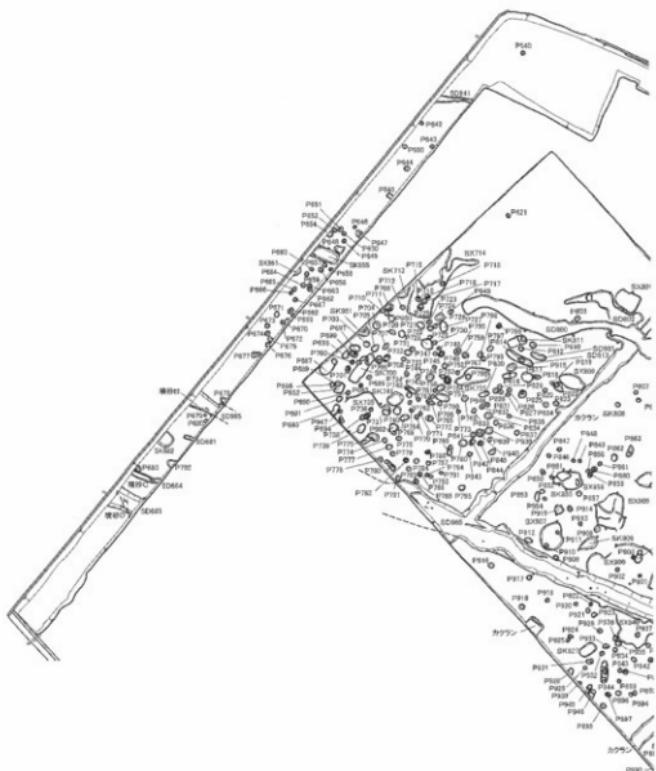


第13図 下層造構平面図・断面図（1）（平面1/40, 1/80, 断面1/40, 1/80）

\*03.620

43 (54)

+803.500

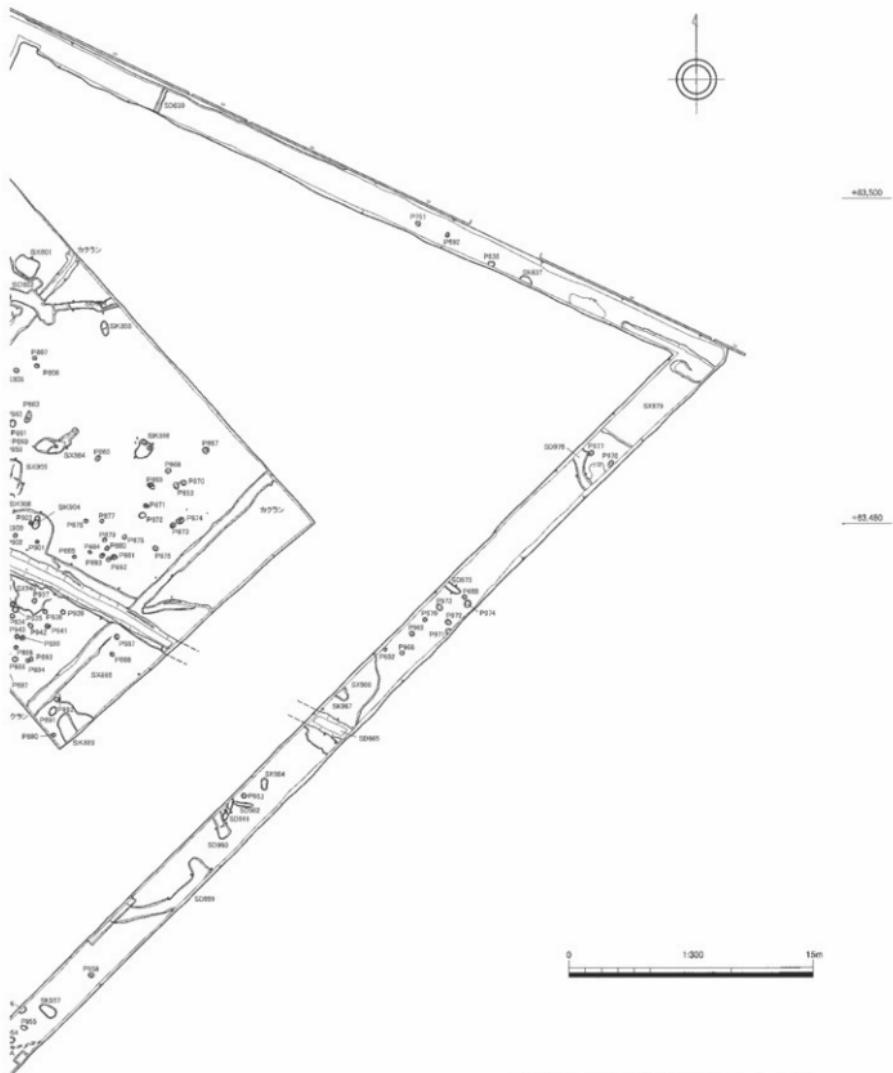


483,450

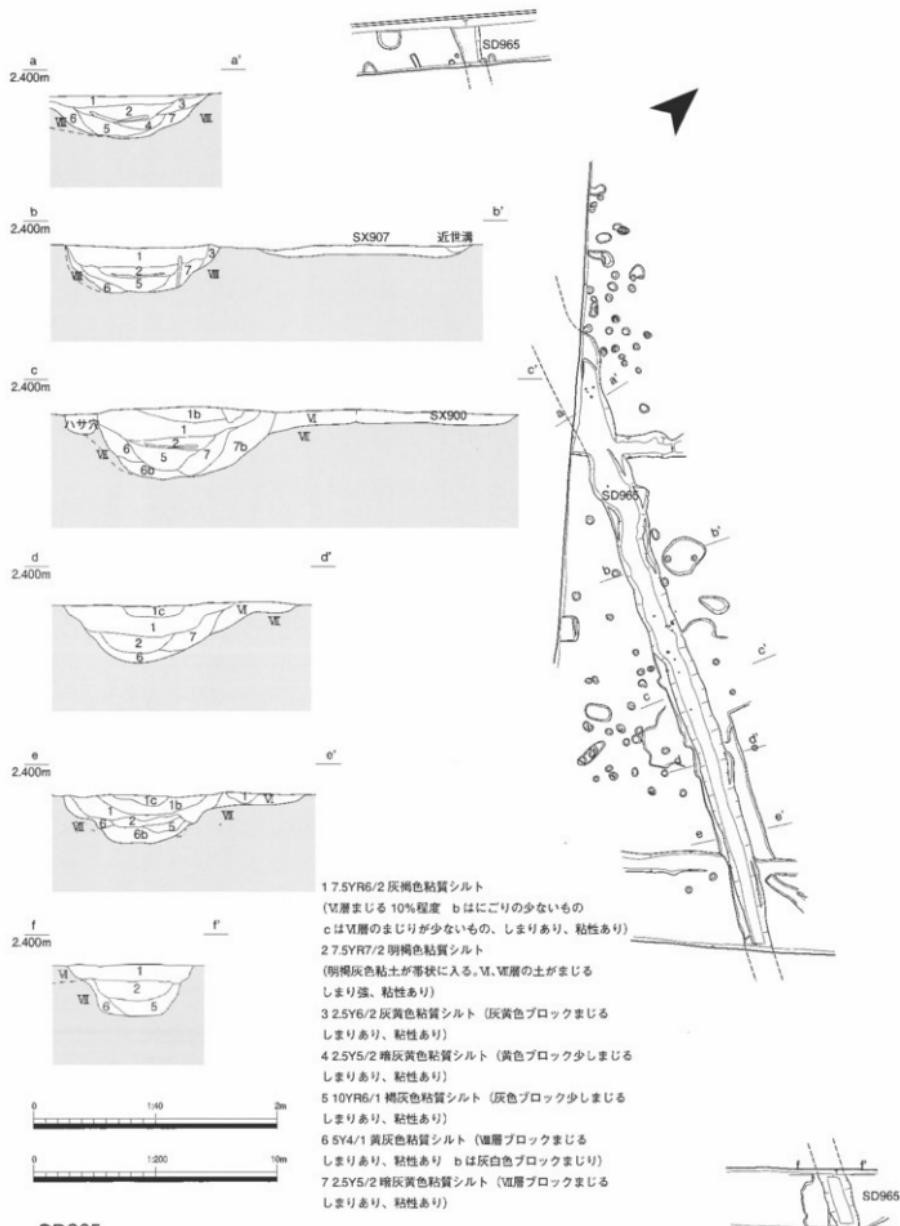
686

- 482-440

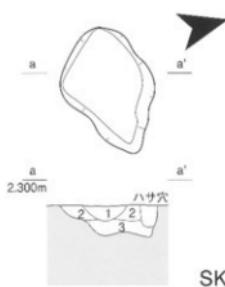
13



第14図 調査区全体図（下層 1/300）



第15図 下層遺構平面図・断面図（2）(平面1/200断面1/40)

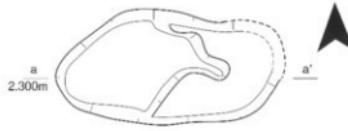


SX855

1 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト (V層の土少しまじる、しまりあり、粘性あり、炭化物まじる)

2 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト (V層の土少しまじる、しまりあり、粘性あり、炭化物まじる)

3 7.5YR7/2 明褐色粘質シルト (V層の土少しまじる、しまりあり、粘性あり、炭化物多くまじる)



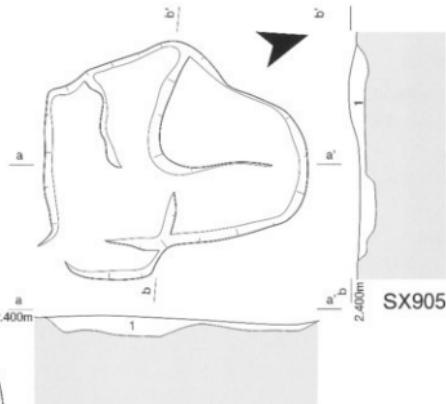
SX864

1 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト  
(V層の土少しまじる、しまりあり、粘性あり)



SX900

(V層の土まじる、しまりあり、粘性あり)



SX905



SX907

1 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト

(V層の土少しまじる、しまりあり、粘性あり)

SX907



第16図 下層造構平面図・断面図 (3) (平面1/40断面1/40)

## (5) 地震痕跡

今回の調査では4ヶ所で地震痕跡を確認した。本遺跡とその周辺ではいくつかの地震痕跡が調査で見つかっており、これらとの関連も検証する。

### 1. 確認された地震痕跡について（第18図 写真図版11）

#### 噴砂A

A地区の南側で確認した。砂脈は東西方向に伸びると考えられる。先端の噴き出し部分については削平を受けており、VI層直下で止まった状態で確認した。供給層はⅤ層よりさらに下層に存在する粗砂層であり、上方へ向かって砂粒が細かくなる細粒化現象が進んでいる。VI層直下まで伸びるため中世後半以前、天正地震以前の地震痕跡とみられる。

#### 噴砂B

SD965内でB地区の中央部からA地区の西側にかけて確認した。砂脈は東西方向に伸びると考えられる。先端の噴き出し部分は削平を受けており、VI層直下で止まった状態で確認した。供給層はⅤ層よりさらに下層に存在する粗砂層とみられる。他の噴砂と同じく上方に向かって砂粒が細かくなる細粒化現象が進んでいる。VI層直下まで伸びているため中世後半以前、天正地震以前の地震痕跡とみられる。

#### 噴砂C

A地区的西側で確認した。砂脈は東西方向に伸びると考えられる。先端の噴き出し部分は削平を受けており、VI層直下で止まった状態で確認した。供給層はⅤ層よりさらに下層に存在する粗砂層であり、上方へ向かって砂粒が細かくなる細粒化現象が進んでいる。VI層直下まで伸びるため中世後半以前、天正地震以前の地震痕跡と見られる。

#### 噴砂D

A地区的南側で確認した。北西から南東方向に伸びるものと東西方向に伸びるもの2つ以上の砂脈を確認している。先端の噴き出し部分については削平を受けており、VI層直下で止まった状態のものと、10cmと幅が広いがⅤ層中で止まるものを確認した。供給層は他のものと同じくⅤ層よりさらに下層に存在する粗砂層であり、上方へ向かって砂粒が細かくなる細粒化現象が進んでいる。VI層直下まで伸びるものは中世後半以前、天正地震以前の地震痕跡であり、Ⅴ層でとどまるものはかなり古い地震のものか、同じ時期で上方まで噴き出すことなく、作用が治まったものと見られる。また、地割れの跡も見られ、Ⅴ層や上層埋土とは異なる黒褐色土の存在も確認出来る。中世後半以前に起こった地震によって沈降した堆積土の一部と考えられる。

### 2. 本遺跡の周辺遺跡で確認された地震痕跡

#### 四方背戸割遺跡

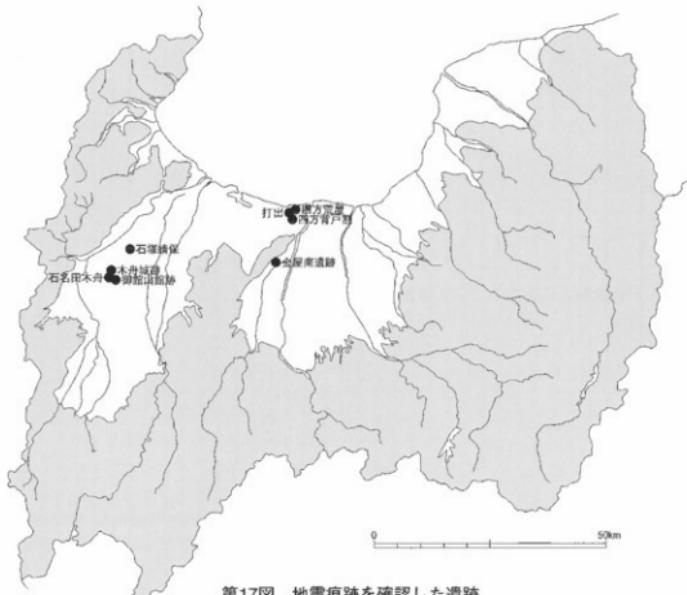
1998年の調査で確認した地震痕跡は、橙褐色を呈する砂脈と灰褐色を呈する砂脈がある（富山市教委1999）。年代測定を実施していないが砂脈の新旧と文献記事から燈褐色の砂脈を1586年の天正地震、灰褐色の砂脈を1858年の飛越地震のものとしている。砂脈の新旧があるものとしては金屋南遺跡（富山市教委2006）や砺波市御館山館跡（砺波市教委2014）などで同様に天正地震と飛越地震の砂脈の新旧関係を確認している。ことからも両地震の可能性は高いものとみられる。また、2005年の調査では近世とされる噴砂を報告しており、飛越地震のものと推測した（富山市教委2006）。

## 打出遺跡

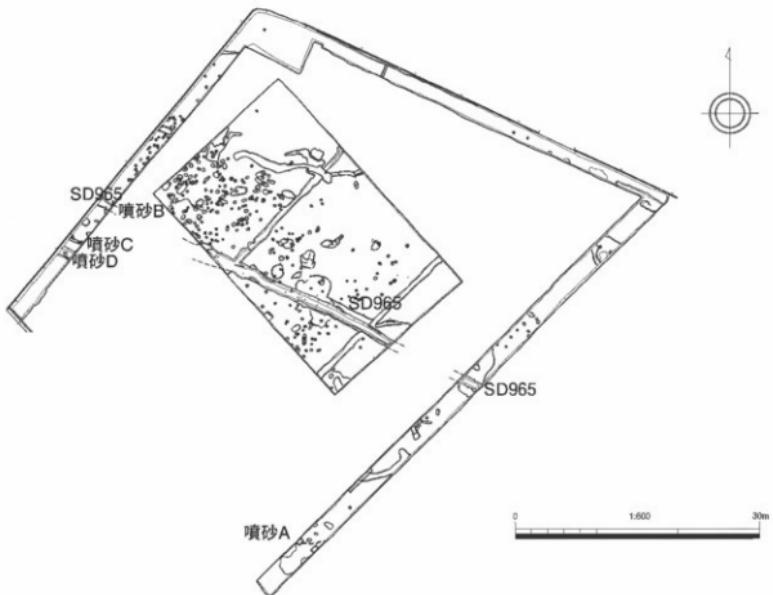
2003年の調査で、A地区で確認された神通古川の河道付近で噴砂を確認した。年代的検討はなされていないが飛越地震と推測している。B-1地区でも噴砂が確認し、噴砂あるいは地割れによって弥生時代後期後半の甕が落ち込んでいる。層序や遺物包含層との新旧関係から、弥生時代後期後半以降の天正地震あるいは飛越地震の痕跡であると推測している（富山市教委2004）。2004年の調査でも地震痕跡をいくつか確認しており、こちらについても天正地震あるいは飛越地震と推測した（富山市教委2006）。

### 3. 地震痕跡のまとめ

今回の調査では下層の遺構検出面で地震痕跡を確認した。弥生時代後期に埋没した遺構の埋土を破っていることから弥生時代後期以降、天正地震（1586年）以前の地震と考えられる。当該時期の大きな地震としては貞觀地震があげられる。貞觀地震に関する文献史料として、「日本三代実録」に「貞觀五（863）年六月十七日戊申、越中越後等の國、地大いに震いき。陵谷處をかえ、水泉湧き出て、民の廬舎を壊し、圧死する者多かりき。これより後、日毎に常に震いき。」とあり、863年に越中、越後で大きな地震が起こり丘や谷が入れ替わるほどの変動が起こり、噴砂等の液状化現象をはじめ、家屋の倒壊による圧死などの大きな被害があったと記されている。多くの地震痕跡が広範囲にみられることも含めてかなり大きな地震であり、今回の地震痕跡はこの貞觀期に起きた地震によるものと考えられる。県内における貞觀期の地震痕跡は、砺波市御館山館跡では堆積状況等から確認されており（砺波市教委2014）、高岡市石塚靖保遺跡でもこの時期と想定される噴砂列が確認された面がある（高岡市教委2013）。今回の調査で見つかった地震痕跡はより貞觀地震が史料に見える被害の大きさを裏付ける事例となった。より鮮明にしたのではないかと考える。



第17図 地震痕跡を確認した遺跡



第18図 地震痕跡位置図

表1 遺構觀察表（1）

出場回	地名	登場順番	平面形状	断面形状	舗石列	計量( m )		土色・上質	地号	出土遺物
						長軸( 定尺 )	短軸( 定尺 )			
上層	A SK	1	桝門	弧状		0.62	0.39	0.03 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A P	2	円門	弧状		0.30	0.28	0.06 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A P	3	楕門	弧状		0.50	0.36	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	4		N-50°E		1.84	0.35	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A P	5	楕門?			0.45	0.35	0.06 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A P	6	楕門?			0.15	0.15	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	7		N-50°E		2.00	0.30	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	8		N-20°W		2.43	0.35	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	9		N-40°W		2.30	0.38	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	10		N-60°W		2.35	0.36	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	11		N-80°W		2.20	0.36	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SK	12	楕門?			0.70	0.25	0.09 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	13		N-35°E		3.50	0.46	0.04 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SK	14	楕門	弧状		0.60	0.58	0.14 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	15		N-10°E		4.63	0.61	0.06 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	16		N-30°E		1.90	0.62	0.10 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SK	17	楕門	弧状		0.70	0.50	0.11 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	18	楕門	弧状		0.58	0.58	0.11 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	19		N-10°E		1.46	0.53	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	20		N-35°E		1.16	0.34	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	21		N-60°E		1.35	0.42	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	22		N-80°E		3.60	0.63	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	23		N-10°E		3.70	0.67	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	24		N-30°E		2.50	0.40	0.08 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SK	25	楕門	弧状		0.58	0.28	0.05 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SK	26	楕門	弧状		0.43	0.20	0.05 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	27		N-15°E		2.60	0.35	0.06 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	28		N-35°E		2.20	0.35	0.07 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	29		N-50°E		2.40	0.64	0.11 7.5YR 4/1 黒褐色砂利シルト	A群	無
上層	A P	30	楕門	弧状		0.63	0.34	0.09 7.5YR 4/1 地中河川砂利シルト	無	
上層	A P	31	楕門	弧状		0.57	0.39	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	32		N-15°E		0.92	0.40	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A P	33	楕門	弧状		0.53	0.28	0.04 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SK	34	楕門	弧状		1.09	0.42	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A P	35	楕門	弧状		0.42	0.27	0.08 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	36		N-25°W		2.56	0.25	0.09 10YR 4/2 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	37		N-35°W		1.60	0.20	0.10 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	38		N-70°W		1.25	0.20	0.04 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SK	39	楕門	弧状		0.70	0.35	0.05 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	40		N-25°W		2.43	0.30	0.13 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SK	41		楕門		1.84	0.48	0.06 7.5YR 4/1 三輪砂利シルト	無	
上層	A SD	42		N-25°W		1.70	0.39	0.09 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	43		N-35°W		0.90	0.20	0.16 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	44		N-70°W		1.93	0.45	0.05 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	45		N-80°W		2.60	0.42	0.06 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	46		N-10°E		1.80	0.40	0.09 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	47		N-35°E		1.13	0.28	0.07 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	48		N-55°E		1.31	0.38	0.10 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	49		N-75°E		2.31	1.88	0.13 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	50		N-95°E		2.12	0.20	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	51		N-10°E		0.93	0.18	0.11 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	52		N-30°E		2.29	0.26	0.08 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	53		N-50°E		2.90	0.40	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A P	54	楕門	手前門		0.33	0.18	0.23 7.5YR 4/1 三輪砂利シルト	無	
上層	A SD	55		N-5°W		0.50	0.18	0.04 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	56		N-35°W		0.80	0.22	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	57		N-55°W		0.84	0.24	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	58		N-75°W		0.58	0.22	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SK	59	楕門?			1.05	0.38	0.12 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A P	60	楕門	弧状		0.41	0.26	0.08 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A P	61	楕門	弧状		0.50	0.27	0.18 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	62	楕門	弧状		0.73	0.44	0.07 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	63		N-25°W		2.12	0.12	0.11 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	64		N-35°W		3.60	0.36	0.10 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	65		N-70°W		2.04	0.40	0.07 10YR 4/2 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	66		N-80°W		2.60	0.40	0.06 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	67		N-10°E		2.60	0.40	0.07 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	68		N-30°E		2.70	0.40	0.18 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	69		N-50°E		2.54	0.45	0.12 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SK	70		N-70°E		2.50	0.40	0.16 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A P	71	楕門	弧状		1.04	0.62	0.20 7.5YR 4/1 三輪砂利シルト	無	
上層	A P	72	楕門	弧状		0.32	0.20	0.12 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	73		N-70°W		1.26	0.23	0.13 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A P	74	楕門	弧状		0.43	0.20	0.15 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A P	75		N-50°W		0.69	0.20	0.13 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	76		N-35°W		3.40	0.22	0.12 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	77		N-25°W		2.40	0.42	0.15 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	78		N-35°W		2.20	0.40	0.20 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	79		N-70°W		4.84	0.48	0.11 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	80		N-80°W		2.80	0.48	0.13 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	81		N-10°E		2.54	0.48	0.13 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	82		N-30°E		3.41	0.24	0.09 7.5YR 4/1 三輪砂利シルト	A群	無
上層	A SD	83		N-50°E		2.89	0.28	0.07 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	84		N-70°E		2.90	0.55	0.08 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	85	楕門	弧状		1.60	0.25	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A P	86		N-5°W		0.90	0.20	0.05 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	87		N-35°W		2.46	0.35	0.08 10YR 4/1 三輪砂利シルト	上层	無
上層	A SD	88		N-55°W		2.12	0.40	0.06 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	89		N-75°W		0.45	0.20	0.07 10YR 4/1 三輪砂利シルト	上层	無
上層	A P	90	楕門	弧状		0.32	0.28	0.08 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	無	
上層	A SD	91		N-75°W		2.83	0.40	0.10 7.5YR 4/1 三輪砂利シルト	上层	無
上層	A SD	92		N-55°W		1.15	0.20	0.07 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	93		N-35°W		0.90	0.25	0.06 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	94		N-15°W		2.93	0.40	0.10 7.5YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	95		N-5°W		2.56	0.48	0.10 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	A群	無
上層	A SD	96		N-25°W		1.50	0.20	0.09 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	97		N-45°W		2.09	0.40	0.09 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	98		N-65°W		2.30	0.40	0.09 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無
上層	A SD	99		N-75°W		2.30	0.48	0.07 10YR 4/1 黑褐色砂利シルト	上层	無

表2 遺構観察表 (2)

地盤番号	地区	遺構名	平面形状	偏方向	法面 (m)			土色・土性	番号	土壤性状
					長軸 (N-S)	短軸 (E-W)	高さ			
上層	A SD	100	弧状	N 75°-W	0.60	0.23	0.20	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	101	複洞	弧状	0.30	0.25	0.18	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	無	無
上層	A SD	102	弧状	N 25°-W	3.20	0.25	0.04	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	103	弧状	N 25°-W	7.20	0.70	0.15	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	104	弧状	N 25°-W	6.80	0.60	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	105	複洞	弧状	0.30	0.25	0.02	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	106	弧状	N 25°-W	6.13	0.60	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	107	弧状	N 25°-W	2.38	0.20	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	108	弧状	N 25°-W	5.65	0.67	0.11	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	109	複洞	弧状	0.52	0.24	0.10	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	110	弧状	N 25°-W	6.80	0.65	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	111	弧状	N 25°-W	1.13	0.20	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	112	複洞	N 25°-W	0.50	0.25	0.07	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	113	不規則	弧状	0.50	0.28	0.06	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	115	複洞	弧状	0.30	0.24	0.22	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	116	弧状	N 25°-W	2.79	0.45	0.15	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	117	複洞	弧状	0.70	0.30	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	118	弧状	N 45°-W	1.54	0.12	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	119	円形	弧状	0.31	0.22	0.06	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	120	複洞	弧状	0.40	0.26	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	121	死孔	N 25°-W	5.70	0.28	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	122	複洞	弧状	0.60	0.25	0.08	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	123	複洞	N 25°-W	8.00	0.50	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	124	弧状	N 35°-E	0.30	0.28	0.09	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	125	弧状	N 25°-W	1.93	0.50	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	126	弧状	N 25°-W	7.60	0.50	0.11	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	127	複洞	N 35°-E	3.15	0.50	0.11	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	128	複洞	N 35°-E	4.13	0.50	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	129	複洞	N 35°-E	4.90	0.50	0.12	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	130	弧状	N 25°-W	9.90	0.25	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	131	弧状	N 15°-E	1.50	0.33	0.07	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	132	弧状	N 25°-W	2.54	0.45	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	133	複洞	N 25°-W	0.50	0.25	0.14	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	134	複洞	N 25°-W	7.10	0.50	0.12	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	135	複洞	N 25°-W	7.05	0.20	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	136	複洞	N 25°-W	3.80	0.25	0.07	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	137	複洞	N 25°-W	3.25	0.20	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	138	複洞	N 15°-E	2.60	0.28	0.12	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	139	複洞	N 15°-E	1.18	0.20	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	140	円形	複洞	2.20	0.30	0.10	5.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	141	複洞	N 15°-E	2.30	0.30	0.10	5.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	142	複洞	N 15°-E	1.92	0.40	0.16	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	143	複洞	N 25°-W	0.30	0.25	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	144	複洞	N 15°-E	2.85	0.50	0.12	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	145	複洞	N 15°-E	0.95	0.25	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	146	複洞	N 25°-W	2.10	0.20	0.17	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	147	複洞	N 25°-W	1.82	0.40	0.07	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	148	複洞	N 25°-W	2.13	0.55	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	149	複洞	N 25°-W	1.82	0.52	0.05	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	150	複洞	N 25°-W	2.10	0.27	0.06	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	151	複洞	N 25°-W	0.50	0.25	0.23	10YR3/2黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	152	複洞	N 25°-W	1.54	0.35	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	153	複洞	N 25°-W	1.00	0.35	0.25	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	154	圓形	複洞	0.25	0.20	0.18	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	155	複洞	弧状	0.40	0.30	0.21	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	156	複洞	N 25°-W	0.70	0.20	0.10	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	157	複洞	N 25°-W	1.90	1.70	0.11	10YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	158	複洞	複洞	0.43	0.25	0.16	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	159	複洞	複洞	0.60	0.22	0.14	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	160	複洞	複洞	0.35	0.27	0.27	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	161	複洞	複洞	0.34	0.25	0.23	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	162	複洞	複洞	0.35	0.25	0.29	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	163	複洞	複洞	0.30	0.20	0.20	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	164	複洞	複洞	0.35	0.25	0.26	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SK	165	複洞	複洞	0.52	0.20	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	166	複洞	複洞	0.52	0.20	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SK	167	複洞	複洞	0.37	0.20	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	168	複洞	複洞	0.35	0.20	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A SD	170	複洞	N 15°-E	1.20	0.16	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	171	圓形	複洞	0.25	0.23	0.16	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	172	圓形	複洞	0.28	0.25	0.15	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	A P	173	圓形	複洞	0.22	0.24	0.16	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	175	複洞	複洞	0.60	0.20	0.25	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	176	複洞	複洞	0.53	0.20	0.09	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	177	複洞	複洞	0.32	0.29	0.16	4.6Y 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	178	複洞	複洞	0.40	0.20	0.06	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	179	複洞	複洞	0.18	0.16	0.05	10YR3/2黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	180	複洞	複洞	0.36	0.20	0.10	10YR3/2黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	181	複洞	複洞	0.31	0.20	0.09	10YR3/2黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	182	複洞	複洞	0.50	0.10	0.25	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B SD	183	複洞	N 45°-E	0.37	0.40	0.16	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	184	複洞	複洞	0.46	0.22	0.08	10YR3/2黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	185	複洞	複洞	0.33	0.20	0.07	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	186	複洞	複洞	0.50	0.20	0.05	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	187	複洞	複洞	0.50	0.20	0.05	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B SD	188	複洞	N 20°-E	1.80	0.25	0.05	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	189	複洞	複洞	0.32	0.20	0.06	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	190	複洞	複洞	0.29	0.22	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	191	複洞	複洞	0.25	0.29	0.05	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	192	複洞	複洞	0.54	0.28	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B SK	193	複洞	複洞	0.72	0.28	0.17	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B SD	194	複洞	N 80°-W	0.90	0.20	0.11	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	195	複洞	複洞	0.30	0.22	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	196	複洞	複洞	0.21	0.19	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	197	複洞	複洞	0.54	0.28	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	198	複洞	複洞	0.72	0.28	0.17	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B SD	199	複洞	N 35°-E	0.73	0.20	0.09	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	200	複洞	複洞	0.29	0.22	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	201	複洞	複洞	0.21	0.19	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	202	複洞	複洞	0.54	0.28	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	203	複洞	複洞	0.72	0.28	0.17	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	204	複洞	複洞	0.29	0.22	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	205	複洞	複洞	0.21	0.19	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	206	複洞	複洞	0.54	0.28	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	207	複洞	複洞	0.72	0.28	0.17	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無
上層	B P	208	複洞	複洞	0.29	0.22	0.08	7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	上野	無

表3 遺構観察表(3)

検出箇所	地区名	遺構番号	平面形状	軸方向	法面( m )			土色・土質	備考	出土・著物	
					北側( H.S.)	南側( H.S.)	深さ( m )				
上層	B SD	200	楕円	N<15°E	-	0.70	0.22	0.13	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	200	楕円	N<15°E	-	1.01	0.40	0.25	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	201	楕円	N<90°E	-	2.46	0.54	0.02	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SK	202	楕円	楕状	-	0.70	0.60	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	203	楕円	楕状	-	0.54	0.28	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	204	楕円	N<15°E	-	2.27	0.47	0.09	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	205	楕円	N<15°W	-	2.73	0.60	0.09	8.9T3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	206	楕円	N<75°W	-	4.23	0.30	0.08	8.9Y3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SK	207	楕円	楕状	-	1.30	0.60	0.15	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	208	楕円	楕状	-	1.02	0.44	0.12	8.9Y3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SK	209	楕円	楕状	-	1.01	0.26	0.09	8.9Y3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	210	楕円	楕状	-	0.97	0.24	0.25	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	211	楕円	N<80°W	-	4.19	0.35	0.13	8.9Y3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	212	楕円	N<75°W	-	3.03	0.28	0.15	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
下層	B SD	213	楕円	N<75°W	-	8.40	0.70	0.05	10.YR3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	214	楕円	N<15°E	-	4.30	0.45	0.06	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	215	楕円	N<15°E	-	3.79	0.45	0.06	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	216	楕円	N<15°E	-	3.53	0.50	0.11	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	217	楕円	N<45°E	-	1.92	0.40	0.07	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	218	楕円	N<45°E	-	1.19	0.39	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	219	楕円	N<45°E	-	3.53	0.33	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	220	楕円	N<75°W	-	12.85	0.63	0.09	10.YR3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	221	楕円	N<75°W	-	1.26	0.26	0.09	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	222	楕円	楕状	-	0.90	0.26	0.09	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	223	楕円	N<75°W	-	3.09	0.30	0.07	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	224	楕円	N<45°E	-	10.30	0.35	0.15	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	225	楕円	N<45°E	-	7.70	0.63	0.06	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	226	楕円	N<45°E	-	7.72	0.35	0.11	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	227	楕円	楕状	-	0.91	0.26	0.11	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	228	楕円	楕状	-	0.50	0.33	0.11	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	229	楕円	N<15°E	-	4.60	0.42	0.14	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	230	楕円	N<15°E	-	7.30	0.70	0.07	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	n P	231	楕円	楕状	-	0.38	0.30	0.13	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	232	楕円	N<75°W	-	3.15	0.35	0.06	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	233	楕円	N<75°W	-	2.11	0.35	0.06	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	234	楕円	N<45°E	-	4.26	0.55	0.15	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	235	楕円	N<75°W	-	3.82	0.33	0.09	10.YR3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	236	楕円	N<75°W	-	2.13	0.38	0.13	10.YR2/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	237	楕円	N<75°W	-	3.08	0.32	0.11	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	238	楕円	N<80°W	-	3.53	0.30	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	239	楕円	N<75°W	-	0.45	0.21	0.05	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B P	240	楕円	楕状	-	0.37	0.23	0.09	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	241	楕円	楕状	-	1.20	0.75	0.12	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	242	楕円	N<75°W	-	6.69	0.66	0.12	10.YR3/3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	243	楕円	N<75°W	-	5.63	0.63	0.10	10.YR2/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	244	楕円	N<75°W	-	6.97	0.63	0.13	10.YR2/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	245	楕円	N<75°W	-	3.49	0.38	0.13	10.YR2/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	246	楕円	N<75°W	-	7.05	0.88	0.11	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	247	楕円	N<75°W	-	12.80	0.60	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	248	楕円	N<75°W	-	12.60	0.50	0.11	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	249	楕円	N<75°W	-	13.80	0.50	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	250	楕円	N<75°W	-	12.70	0.50	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	251	楕円	N<75°W	-	12.80	0.70	0.16	10.YR3/1黑褐色粘土シルト	B群	無
上層	B P	252	楕円	楕状	-	0.38	0.26	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	253	楕円	楕状	-	0.43	0.22	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	254	楕円	N<45°E	-	0.65	0.35	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	255	楕円	N<75°W	-	0.65	0.35	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	256	楕円	N<75°W	-	0.65	0.35	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	257	楕円	N<75°W	-	0.65	0.35	0.12	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	258	楕円	N<75°W	-	1.15	0.36	0.07	8.9Y3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	259	楕円	N<65°W	-	0.96	0.29	0.08	8.4V4/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	260	楕円	N<80°W	-	1.00	0.30	0.06	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	261	楕円	N<80°W	-	2.07	0.35	0.06	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	262	楕円	N<80°W	-	1.43	0.50	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	263	楕円	N<80°W	-	1.00	0.32	0.09	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	264	楕円	N<75°W	-	0.74	0.30	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	265	楕円	N<75°W	-	0.43	0.32	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	266	楕円	N<75°W	-	0.33	0.22	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	267	楕円	N<80°W	-	0.57	0.49	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	268	楕円	N<80°W	-	2.23	0.52	0.07	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	269	楕円	N<45°E	-	1.25	0.35	0.07	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	270	楕円	N<75°W	-	2.95	0.36	0.05	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SD	271	楕円	N<80°W	-	7.08	0.73	0.14	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B SK	272	楕円	楕状	-	0.92	0.26	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	273	楕円	楕状	-	0.97	0.24	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	274	円形	楕状	-	0.76	0.24	0.10	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	275	楕円	楕状	-	0.40	0.30	0.20	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	276	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	277	楕円	楕状	-	3.00	0.35	0.10	10.YR3/1黒褐色粘土シルト	B群	無
上層	B P	278	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	279	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	280	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	281	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	282	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	283	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	284	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	285	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	286	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	287	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	288	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	289	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	290	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	291	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	292	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	293	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	294	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	295	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	296	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	297	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	298	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	299	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	300	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	301	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	302	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	303	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	304	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	305	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	306	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	307	楕円	楕状	-	0.25	0.23	0.08	7.5VR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	308	楕円	楕状</td							

表4 遺構観察表（4）

株式会社	地区	沿岸番号	水深形状	断面形状	輪方向	尺輪（m）	底質（m）	溝	上地・土質		備考	水土適合
									左輪（m）	右輪（m）		
上地	B	298	河口	礁状	北	0.40	0.38	0.38	0.39	0.39	無	無
上地	B	299	河門	礁状	北	0.40	0.34		0.39	0.39	無	無
上地	B	300	礁状	礁状	北	0.38	0.30	0.24	0.75YR2/1礁場色粘質シルト	無		
下地	B	301	河門	礁状	北	0.22	0.22	0.28	0.75YR2/17礁場色粘質シルト	無		
上地	B	302	河門	礁状	北	0.40	0.30	0.23	0.75YR2/1礁場色粘質シルト	無		
上地	B	303	河門	礁状	北	0.20	0.20	0.23	0.75YR2/17礁場色粘質シルト	無		
上地	B	304	河門	礁状	北	0.30	0.26	0.26	0.65YR2/1礁場色粘質シルト	無		
上地	B	305	河門	礁状	北	0.34	0.26	0.26	0.33YR2/1礁場色粘質シルト	無		
上地	B	306	河門	礁状	北	0.30	0.27	0.26	0.64YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	307	河門	礁状	北	0.30	0.23	0.26	0.64YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	308	河門	礁状	北	0.30	0.20	0.23	0.64YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	309	河門	礁状	北	0.30	0.20	0.23	0.64YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	310	河門	礁状	北	0.30	0.20	0.23	0.64YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	311	河門	礁状	北	0.30	0.26	0.23	0.66YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	312	礁状	礁状	北	0.35	0.23	0.23	0.66YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	313	礁状	N-72°-W	0.42	0.37	0.11	0.75YR2/1礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	314	河形	礁状	0.30	0.26	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	315	礁状	礁状	0.30	0.26	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	316	礁状	礁状	0.35	0.40	0.15	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	317	礁状		1.00	0.50	0.30	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	318	礁状	N-33°-E	0.63	0.33	0.13	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	A野	無	
上地	B	P	319	河形		0.32	0.20	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	320	礁状	N-12°-E	2.40	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	SD	321	礁状	N-40°-W	0.30	0.20	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	322	河門	礁状	0.30	0.25	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	323	河門	礁状	0.30	0.30	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	324	河門	礁状	0.50	0.30	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	325	河形	礁状	0.27	0.25	0.26	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	326	河形	礁状	0.30	0.25	0.26	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	327	河門	礁状	0.36	0.26	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	328	河門	礁状	0.30	0.27	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	329	河門	礁状	0.39	0.32	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	330	河門	礁状	0.40	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	331	河門	礁状	0.55	0.32	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	332	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	333	河門	礁状	0.30	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	334	礁状	N-15°-E	1.60	0.28	0.30	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	A野	無	
上地	B	P	335	河形	礁状	0.32	0.32	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	SD	336	礁状	N-89°-E	0.85	0.42	0.11	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	337	河門	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	338	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	339	礁状	礁状	0.34	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	340	礁状	礁状	0.26	0.22	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	341	河門	礁状	0.60	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	342	礁状	礁状	0.35	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	343	礁状	N-33°-E	1.80	0.40	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	A野	無	
上地	B	P	344	礁状	N-45°-E	1.35	0.20	0.16	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	A野	無	
上地	B	P	345	河門	礁状	0.00	0.30	0.00	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	346	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	347	河門	礁状	0.48	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	348	礁状	礁状	0.62	0.40	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	349	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SE	350	礁状	礁状	0.20	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	351	河門	礁状	0.72	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	352	礁状	礁状	0.28	0.23	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	353	河門	礁状	0.42	0.27	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	354	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	355	礁状	礁状	0.20	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	356	礁状	礁状	0.36	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	357	礁状	N-22°-W	1.90	0.60	0.30	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	358	礁状	礁状	0.36	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	359	礁状	N-72°-W	0.70	0.40	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	360	礁状	礁状	0.48	0.36	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	361	河門	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	362	礁状	礁状	0.30	0.28	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	363	河形	礁状	0.49	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	364	礁状	礁状	0.34	0.26	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	365	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	366	礁状	礁状	0.34	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	367	河形	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	368	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	369	河形	礁状	0.30	0.30	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	370	礁状	礁状	0.34	0.28	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	371	礁状	N-45°-E	1.00	0.40	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	372	礁状	礁状	0.24	0.24	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	373	礁状	礁状	0.30	0.26	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	374	河門	礁状	0.40	0.35	0.15	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	375	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	376	河形	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	377	礁状	礁状	0.30	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	378	礁状	礁状	0.44	0.35	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	379	河形	礁状	0.20	0.26	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	380	礁状	礁状	0.32	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	381	河門	礁状	0.70	0.54	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	382	礁状	礁状	0.31	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	383	礁状	礁状	0.25	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	384	礁状	N-79°-W	1.00	0.90	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	SK	385	礁状	N-79°-W	1.96	0.76	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	ND	386	礁状	N-79°-W	1.00	0.35	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	387	河形	N-79°-W	0.25	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	388	礁状	N-79°-W	0.24	0.24	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	389	礁状	N-79°-W	0.34	0.20	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	SD	390	礁状	N-45°-E	2.10	0.28	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	SD	391	礁状	N-69°-W	1.56	0.22	0.09	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	392	河門	礁状	0.81	0.60	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	393	礁状	礁状	0.95	0.84	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	無		
上地	B	P	394	礁状	N-79°-E	1.00	0.75	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	P	395	礁状	N-79°-E	1.00	0.75	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	
上地	B	SD	396	礁状	N-79°-E	1.00	0.25	0.20	0.75YR2/3礁場色粘質シルト	△野	無	

表5 造構観察表(5)

地盤番号	地図 種別	通路番号	平面形状	断面形状	輪方向	法線(m)			土色・土質	番号	注記
						北側(左)	南側(右)	西側			
上層	B P	307	桜門	直状	北	0.25	0.30	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	308	桜門	直状	北	0.25	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	309	桜門	直状	北	0.04	0.59	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SK	400	桜門	直状	北	1.35	0.40	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	401	桜門	直状	北	0.65	0.31	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	402	桜門	直状	北	0.45	0.40	0.17	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	403	桜門	直状	北	0.35	0.25	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	404	桜門	直状	北	0.65	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	405	桜門	直状	北	0.40	0.30	0.07	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	406	桜門	直状	北	0.90	0.30	0.05	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	407	桜門	直状	北	0.28	0.26	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	408	桜門	直状	北	0.31	0.30	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	409	桜門	直状	北	0.20	0.20	0.24	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	409	桜門	直状	北	1.09	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B SK	411	桜門	直状	北	0.55	0.53	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	412	桜門	直状	北	0.35	0.26	0.19	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	413	桜門	直状	北	0.40	0.32	0.08	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	414	桜門	直状	北	0.60	0.36	0.08	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	415	桜門	直状	北	0.25	0.25	0.27	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	416	桜門	直状	北	1.30	0.30	0.05	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	417	桜門	直状	北	2.10	0.58	0.09	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	418	桜門	直状	北	3.25	0.45	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	419	桜門	直状	北	0.36	0.37	0.20	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	420	桜門	直状	北	0.92	0.40	0.18	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	421	桜門	直状	北	0.30	0.30	0.17	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	422	桜門	直状	北	0.45	0.40	0.13	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	423	桜門	直状	北	0.31	0.20	0.08	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	424	桜門	直状	北	0.60	0.25	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	425	桜門	直状	北	0.55	0.27	0.08	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	426	桜門	直状	北	2.85	0.35	0.06	9YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	427	桜門	直状	北	0.85	0.30	0.06	9YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	428	桜門	直状	北	0.20	0.25	0.11	9YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	429	桜門	直状	北	3.85	0.40	0.06	9YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	430	桜門	直状	北	2.40	0.45	0.09	9YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	431	桜門	直状	北	2.10	0.42	0.09	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	432	桜門	直状	北	0.50	0.30	0.12	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	433	桜門	直状	北	0.35	0.25	0.17	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	434	桜門	直状	北	0.30	0.26	0.22	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	435	桜門	直状	北	0.40	0.30	0.21	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	436	桜門	直状	北	0.70	0.30	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	437	桜門	直状	北	0.50	0.30	0.03	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	438	桜門	直状	北	0.10	0.10	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	439	桜門	直状	北	0.38	0.28	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	440	桜門	直状	北	0.49	0.32	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	441	桜門	直状	北	0.64	0.30	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	452	桜門	直状	北	0.80	0.33	0.18	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	453	桜門	直状	北	0.72	0.34	0.16	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	454	桜門	直状	北	0.80	0.30	0.15	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	455	桜門	直状	北	0.68	0.34	0.12	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	456	桜門	直状	北	2.58	0.30	0.04	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	457	桜門	直状	北	2.05	0.35	0.05	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	458	桜門	直状	北	0.30	0.20	0.11	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	459	桜門	直状	北	0.53	0.30	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	460	桜門	直状	北	0.38	0.29	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	461	桜門	直状	北	0.25	0.29	0.03	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	462	桜門	直状	北	0.30	0.26	0.27	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	463	桜門	直状	北	0.95	0.26	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	464	桜門	直状	北	0.60	0.32	0.11	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	465	桜門	直状	北	0.60	0.30	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	466	桜門	直状	北	0.60	0.30	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	467	桜門	直状	北	2.14	0.29	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	468	桜門	直状	北	0.33	0.32	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	469	桜門	直状	北	0.30	0.35	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	470	桜門	直状	北	0.38	0.35	0.13	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	471	桜門	直状	北	0.25	0.25	0.13	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	472	桜門	直状	北	0.30	0.26	0.07	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	473	桜門	直状	北	0.86	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SK	463	桜門	直状	北	1.51	0.65	0.10	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	464	桜門	直状	北	0.35	0.32	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	465	桜門	直状	北	0.30	0.26	0.27	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	466	桜門	直状	北	0.30	0.25	0.20	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	467	桜門	直状	北	1.20	0.43	0.10	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	467	桜門	直状	北	1.20	0.41	0.10	10.YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	468	桜門	直状	北	1.51	0.65	0.10	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	469	桜門	直状	北	0.35	0.32	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	470	桜門	直状	北	0.70	0.30	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	471	桜門	直状	北	1.60	0.30	0.12	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	472	桜門	直状	北	0.86	0.30	0.07	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	473	桜門	直状	北	1.60	0.40	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	475	桜門	直状	北	1.53	0.35	0.09	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	476	桜門	直状	北	1.70	0.25	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	477	桜門	直状	北	1.80	0.40	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	478	桜門	直状	北	0.60	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	479	桜門	直状	北	0.85	0.32	0.15	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	480	桜門	直状	北	0.20	0.20	0.16	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	481	桜門	直状	北	0.21	0.20	0.11	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	482	桜門	直状	北	1.40	0.30	0.05	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	483	桜門	直状	北	0.65	0.35	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	484	桜門	直状	北	0.60	0.40	0.07	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	485	桜門	直状	北	0.49	0.40	0.06	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	486	桜門	直状	北	1.20	0.30	0.10	9YR1/3褐色地質質シント	無	
上層	B SD	487	桜門	直状	北	0.85	0.30	0.10	9YR1/3褐色地質質シント	無	
上層	B P	488	桜門	直状	北	0.49	0.40	0.21	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	489	桜門	直状	北	1.73	0.40	0.05	9YR1/3褐色地質質シント	無	
上層	B P	490	桜門	直状	北	0.20	0.20	0.11	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B P	492	桜門	直状	北	0.49	0.30	0.12	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	
上層	B SD	493	桜門	直状	北	0.62	0.30	0.11	7.5YR1/1褐色地質質シント	八郎	
上層	B P	494	桜門	直状	北	0.60	0.36	0.21	7.5YR1/1褐色地質質シント	無	

表6 遺構観察表（6）

検出層	地名	遺構番号	平面形状	断面形状	輪方位	計量 (m)		土色・土質	備考	出土遺物
						長軸 (長 S)	短軸 (幅)			
上層	B SD	403	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.26	0.40	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	404	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.73	0.30	0.15 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	407	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.28	0.25	0.15 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	408	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.43	0.40	0.14 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	409	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.43	0.40	0.14 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	509	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	0.80	0.32	0.11 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	501	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.27	0.39	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	502	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.90	0.30	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	503	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.90	0.35	0.05 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	504	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	1.30	0.36	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SK	505	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.78	0.36	0.12 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	506	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.80	0.50	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	507	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.20	0.39	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	508	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.95	0.40	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	509	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	3.30	0.55	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	510	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	7.25	0.52	0.20 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	511	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	2.15	0.43	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	512	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	8.70	0.60	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	513	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	2.35	0.49	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SS	514	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.78	0.45	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	515	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.32	0.32	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	516	楕円	楕円	—	0.22	0.26	0.11 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	517	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.80	0.46	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	518	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.72	0.39	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SK	519	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.28	0.56	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	520	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.30	0.30	0.07 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	521	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.48	0.38	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	522	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.28	0.26	0.12 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	523	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	2.25	0.30	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	524	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	0.69	0.29	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	525	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.30	0.50	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	526	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.34	0.25	0.17 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	527	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.35	0.25	0.13 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	528	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.30	0.38	0.17 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	529	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.30	0.30	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	530	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.49	0.25	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	531	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.35	0.26	0.16 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	532	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.48	0.22	0.04 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	533	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.26	0.24	0.14 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	534	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	2.62	0.46	0.07 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	535	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	2.20	0.60	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B P	536	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	0.69	0.25	0.20 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	537	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.95	0.25	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	538	楕円	楕円	N $35^{\circ}$ E	0.93	0.35	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B P	539	楕円	楕円	N $35^{\circ}$ E	0.32	0.27	0.15 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	540	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	0.80	0.36	0.04 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	541	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.43	0.36	0.07 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	542	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.02	0.36	0.12 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B P	543	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.64	0.26	0.07 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	544	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.35	0.25	0.20 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B F	545	円形	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.28	0.28	0.21 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B F	546	円形	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.25	0.25	0.21 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	547	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.73	0.35	0.09 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	548	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	2.16	0.69	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	549	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.28	0.26	0.17 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	550	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.40	0.42	0.12 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	551	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	0.90	0.40	0.10 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	552	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.02	0.46	0.12 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	553	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	0.93	0.43	0.09 10YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SD	554	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.30	0.65	0.13 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
上層	B SK	555	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.85	0.63	0.20 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	556	楕円	楕円	N $90^{\circ}$ W	7.30	0.63	0.08 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	557	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.13	0.28	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	558	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	1.09	0.25	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B SD	559	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.30	0.30	0.14 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
上層	B P	560	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.24	0.22	0.16 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	561	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	3.40	0.63	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
下層	B SD	562	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	7.70	0.60	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	563	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.32	0.26	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	564	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.35	0.25	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	565	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.38	0.30	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	566	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.40	0.62	0.20 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	567	楕円	楕円	N $15^{\circ}$ E	6.70	0.42	0.16 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
下層	B SD	568	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.25	0.08 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	569	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.19	0.25	0.06 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SK	571	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.79	0.55	0.23 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	572	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.35	0.30	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	573	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.26	0.24	0.21 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	574	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.33	0.32	0.14 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	575	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	4.00	0.52	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	576	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.40	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	577	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	2.60	0.35	0.17 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	578	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.32	0.30	0.12 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	579	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	1.14	0.30	0.06 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
下層	B SD	580	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.80	0.25	0.07 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	581	楕円	楕円	N $45^{\circ}$ E	4.00	0.55	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A砂	無
下層	B P	582	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.44	0.23	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SK	583	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.30	1.00	0.08 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	584	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.65	1.40	0.11 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	585	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.40	0.09 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	586	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.40	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SD	587	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.40	0.10 10YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	588	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.65	0.40	0.07 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SK	589	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	1.00	0.35	0.05 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	590	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.25	0.25	0.15 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B P	591	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.30	0.25	0.15 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無
下層	B SK	592	楕円	楕円	N $72^{\circ}$ W	0.95	0.63	0.05 7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	白砂	無

表7 遺構観察表(7)

施設番	施設名	遺構番号	平面形状	前面形状	傾斜方向	底面(m)			寸法・寸量	備考	出土調査
						長軸(底面)	短軸(底面)	深さ			
上層	B SD	582	楕円	楕状	N-82'-W	1.30	0.50	0.00	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	584	楕円	楕状	-	0.30	0.33	0.10	7.5YR2/1.1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	585	楕円	楕状	N-15'-E	1.15	0.60	0.09	7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B ISK	596	楕円	楕状	-	0.85	0.50	0.14	7.5YR3/1.3黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	597	楕円	楕状	N-19'-E	0.95	0.25	0.09	7.5YR2/1.3黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	598	楕円	楕状	-	0.20	0.20	0.07	7.5YR2/1.3黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	599	楕円	楕状	N-19'-E	1.30	0.30	0.07	7.5YR2/1.3黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	600	楕円	楕状	-	0.25	0.30	0.11	7.5YR2/1.3黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	601	楕円	楕状	-	0.32	0.20	0.13	7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	602	楕円	楕状	-	0.30	0.20	0.06	7.5YR3/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	603	楕円	楕状	-	0.40	0.30	0.06	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	604	楕円	楕状	-	0.35	0.20	0.07	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	605	楕円	楕状	N-79'-W	0.72	0.35	0.06	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	606	楕円	楕状	-	0.40	0.35	0.15	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	607	楕円	楕状	-	0.28	0.24	0.16	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B SD	608	楕円	楕状	N-69'-W	0.80	0.38	0.09	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B SD	609	楕円	楕状	N-50'-W	1.70	0.30	0.10	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	610	楕円	楕状	-	0.25	0.25	0.08	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	611	楕円	楕状	-	0.70	0.46	0.14	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	612	楕円	楕状	N-79'-W	0.80	0.36	0.07	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	A SD	613	楕円	楕状	N-79'-W	0.93	0.46	0.14	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	A P	614	楕円	楕状	-	0.30	0.28	0.07	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	615	楕円	楕状	N-79'-W	0.80	0.30	0.09	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	616	楕円	楕状	-	0.45	0.35	0.12	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	617	楕円	楕状	-	0.45	0.23	0.23	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	618	楕円	楕状	N-19'-E	6.55	0.35	0.10	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	619	楕円	楕状	-	0.26	0.22	0.12	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	620	楕円	楕状	-	0.50	0.40	0.05	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	621	楕円	楕状	-	0.30	0.20	0.07	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	622	楕円	楕状	N-19'-E	2.18	0.32	0.10	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	623	楕円	楕状	-	0.38	0.30	0.09	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	624	楕円	楕状	N-19'-E	1.00	0.30	0.09	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B P	625	楕円	楕状	-	0.35	0.30	0.17	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	626	楕円	楕状	-	0.25	0.25	0.17	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	627	楕円	楕状	-	0.31	0.24	0.17	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	628	楕円	楕状	N-79'-W	2.52	0.35	0.07	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B SD	629	楕円	楕状	N-79'-W	1.60	0.35	0.14	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B P	630	楕円	楕状	-	0.37	0.30	0.08	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	631	楕円	楕状	-	0.40	0.35	0.25	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B SD	632	楕円	楕状	N-19'-E	0.57	0.30	0.12	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	633	楕円	楕状	N-79'-W	0.60	0.30	0.12	10YR2/1黒褐色粘土シルト	BBP	無
上層	B SD	634	楕円	楕状	N-19'-E	1.35	0.30	0.07	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	A群	無
上層	B SD	635	楕円	楕状	N-43'-W	0.55	0.30	0.14	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	B P	636	楕円	楕状	-	0.30	0.25	0.15	7.5YR2/1黒褐色粘土シルト	無	無
上層	A SK	637	楕円	楕状	-	0.73	0.35	0.06	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
上層	A P	638	楕円	楕状	-	0.35	0.23	0.06	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	639	楕円	楕状	N-22'-E	1.50	0.33	0.16	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	640	楕円	楕状	-	0.28	0.28	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	641	楕円	楕状	N-80'-W	2.00	0.40	0.16	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	642	楕円	楕状	-	0.25	0.22	0.14	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	643	楕円	楕状	-	0.35	0.29	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	644	楕円	楕状	-	0.21	0.21	0.22	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	645	楕円	楕状	-	0.40	0.27	0.08	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	646	楕円	楕状	-	0.31	0.20	0.22	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	647	楕円	楕状	-	0.40	0.35	0.16	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	648	楕円	楕状	-	0.38	0.48	0.25	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	649	楕円	楕状	-	0.35	0.35	0.22	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	650	楕円	楕状	-	0.21	0.22	0.05	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	651	楕円	楕状	-	0.34	0.30	0.23	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	652	楕円	楕状	-	0.22	0.20	0.10	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	653	楕円	楕状	-	0.30	0.26	0.17	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	654	楕円	楕状	-	0.38	0.25	0.10	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	655	楕円	楕状	-	0.27	0.27	0.17	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	656	楕円	楕状	-	0.25	0.30	0.14	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	657	楕円	楕状	-	0.27	0.25	0.21	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	658	楕円	楕状	-	0.32	0.28	0.18	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	659	楕円	楕状	-	0.25	0.20	0.06	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	660	楕円	楕状	-	0.30	0.30	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SK	661	楕円	楕状	-	0.65	0.25	0.23	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	662	楕円	楕状	-	0.29	0.24	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	663	楕円	楕状	-	0.30	0.25	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	664	楕円	楕状	-	0.37	0.30	0.16	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	665	楕円	楕状	-	0.27	0.26	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	666	楕円	楕状	-	0.29	0.29	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	667	楕円	楕状	-	0.30	0.25	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	668	楕円	楕状	-	0.35	0.27	0.21	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	669	楕円	楕状	-	0.25	0.19	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	670	楕円	楕状	-	0.25	0.10	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	671	楕円	楕状	-	0.33	0.20	0.21	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	672	楕円	楕状	-	0.23	0.20	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	673	楕円	楕状	-	0.31	0.25	0.18	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	674	楕円	楕状	-	0.35	0.26	0.23	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	675	楕円	楕状	-	0.38	0.36	0.07	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	676	楕円	楕状	-	0.30	0.23	0.11	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	677	楕円	楕状	-	0.28	0.25	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	678	楕円	楕状	-	0.31	0.20	0.21	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	679	楕円	楕状	-	0.30	0.16	0.07	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	680	楕円	楕状	-	0.24	0.20	0.08	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	681	楕円	楕状	N-60'-W	0.60	0.20	0.14	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A P	682	楕円	楕状	-	0.53	0.28	0.23	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	683	楕円	楕状	-	0.65	0.16	0.11	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	684	楕円	楕状	-	1.70	0.36	0.11	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	A SD	685	楕円	楕状	-	0.18	0.12	0.44	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	B	686	楕円	楕状	-	0.20	0.28	0.13	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	B P	687	楕円	楕状	-	0.33	0.30	0.12	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	B P	688	楕円	楕状	-	0.28	0.27	0.20	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	B P	689	楕円	楕状	-	0.35	0.30	0.29	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無
下層	B P	690	楕円	楕状	-	0.28	0.24	0.11	7.5YR2/28.8褐色灰白色	無	無

表8 遺構觀察表（8）

核立場	地区	道府県等 事務所	面積(ヘクタール)	面積割合	方位角	平均高さ(m)	耕地面積(m²)	耕地面積割合	土壌		山川選定
									耕地面積	未耕地面積	
下層	B	P	691	96%	風向	0.43	0.28	0.17	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	692	96%	風向	0.28	0.20	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	693	96%	風向	0.70	0.22	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	694	96%	風向	0.40	0.22	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	695	96%	風向	0.21	0.21	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	696	96%	風向	0.20	0.25	0.25	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	697	96%	風向	0.67	0.29	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	698	96%	風向	0.53	0.40	0.05	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	699	96%	風向	0.30	0.32	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	700	96%	風向	0.27	0.33	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	701	96%	風向	0.65	0.30	0.27	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	702	96%	風向	0.28	0.26	0.14	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	703	96%	風向	0.61	0.31	0.16	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	704	96%	風向	0.50	0.45	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	705	96%	風向	0.43	0.43	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	706	96%	風向	0.48	0.42	0.08	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	707	96%	風向	0.66	0.27	0.28	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	708	96%	風向	0.30	0.29	0.38	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	709	96%	風向	0.63	0.43	0.16	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	710	96%	風向	0.22	0.33	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	711	96%	風向	0.37	0.37	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	712	96%	風向	0.33	0.27	0.17	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	SK	713	96%	風向	0.92	0.30	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	SS	714	96%	風向	0.60	1.00	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	715	96%	風向	0.32	0.25	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	716	96%	風向	0.38	0.20	0.23	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	717	96%	風向	0.31	0.38	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	718	96%	風向	0.60	0.27	0.28	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	719	96%	風向	0.35	0.32	0.23	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	720	96%	風向	0.45	0.27	0.24	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	721	96%	風向	0.39	0.39	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	722	96%	風向	0.50	0.31	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	723	96%	風向	0.28	0.22	0.17	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	724	96%	風向	0.53	0.21	0.16	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	725	96%	風向	0.33	0.32	0.08	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	726	96%	風向	0.29	0.25	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	727	96%	風向	0.39	0.39	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	728	96%	風向	0.27	0.23	0.10	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	729	96%	風向	0.83	0.62	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	730	96%	風向	0.20	0.24	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	731	96%	風向	0.39	0.20	0.17	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	732	96%	風向	0.41	0.24	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	733	96%	風向	0.28	0.24	0.05	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	734	96%	風向	0.24	0.27	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	SS	735	96%	風向	1.84	1.80	0.10	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	736	96%	風向	0.28	0.26	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	737	96%	風向	0.50	0.37	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	738	96%	風向	0.73	0.27	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	739	96%	風向	0.60	0.40	0.24	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	740	96%	風向	0.38	0.45	0.21	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	SK	741	96%	風向	0.90	0.74	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	742	96%	風向	0.33	0.32	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	743	96%	風向	0.29	0.39	0.10	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	744	96%	風向	0.36	0.36	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	745	96%	風向	0.27	0.20	0.10	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	746	96%	風向	0.46	0.42	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	747	96%	風向	0.29	0.23	0.20	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	748	96%	風向	0.37	0.34	0.20	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	749	96%	風向	0.43	0.43	0.14	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	750	96%	風向	0.65	0.47	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	751	96%	風向	0.32	0.28	0.21	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	752	96%	風向	0.34	0.33	0.16	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	753	96%	風向	0.40	0.25	0.27	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	754	96%	風向	0.21	0.21	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	755	96%	風向	0.20	0.20	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	756	96%	風向	0.36	0.34	0.10	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	757	96%	風向	0.34	0.22	0.14	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	758	96%	風向	0.33	0.22	0.15	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	759	96%	風向	0.42	0.24	0.25	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	760	96%	風向	0.38	0.43	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	761	96%	風向	0.22	0.28	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	762	96%	風向	0.26	0.26	0.14	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	763	96%	風向	0.26	0.29	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	764	96%	風向	0.25	0.22	0.09	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	765	96%	風向	0.25	0.25	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	766	96%	風向	0.25	0.26	0.25	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	767	96%	風向	0.40	0.20	0.30	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	768	96%	風向	0.60	0.24	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	769	96%	風向	0.29	0.29	0.29	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	770	96%	風向	0.25	0.25	0.25	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	771	96%	風向	0.21	0.23	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	772	96%	風向	0.45	0.23	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	773	96%	風向	0.25	0.22	0.12	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	774	96%	風向	0.30	0.30	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	775	96%	風向	1.14	0.60	0.16	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	776	96%	風向	0.21	0.21	0.21	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	777	96%	風向	0.40	0.22	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	778	96%	風向	0.30	0.30	0.26	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	779	96%	風向	0.33	0.30	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	780	96%	風向	0.89	0.20	0.29	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	781	96%	風向	0.21	0.21	0.19	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	782	96%	風向	0.35	0.26	0.18	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	783	96%	風向	0.28	0.28	0.13	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	784	96%	風向	0.36	0.26	0.25	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	J	785	96%	風向	0.20	0.20	0.20	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	786	96%	風向	0.28	0.26	0.04	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	787	96%	風向	0.20	0.26	0.04	7.5%未耕地	96%耕地	無
下層	B	P	788	96%	風向	0.20	0.20	0.11	7.5%未耕地	96%耕地	無

表9 遺構観察表(9)

地質層	地名	岩種番号	平面形状	傾斜状況	傾斜方向	基準(±)			地名	土色・土質	備考	出土遺物	
						基準(±)	実測(±)	差額(±)					
下層	B	P	289	扇形	風狀	0.66	0.30	0.31	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	290	扇形	風狀	0.50	0.43	-0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	291	扇形	風狀	0.27	0.26	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	292	扇形	風狀	0.55	0.45	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	293	扇形	風狀	0.21	0.21	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	294	扇形	三円	0.20	0.25	-0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	295	扇形	風狀	0.40	0.39	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	296	扇形	風狀	0.31	0.28	-0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	297	扇形	半円	0.40	0.32	-0.08	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	298	扇形	半円	0.37	0.32	-0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	299	扇形	半円	0.33	0.29	-0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SD	300	扇形	風狀	16.75°-W	12.20	1.45	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無	
下層	B	SS	301	扇形	風狀	1.47	1.10	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SD	302	扇形	風狀	N 75°-W	4.98	1.00	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無	
下層	B	P	303	扇形	風狀	0.40	0.30	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SD	304	扇形	N 85°-E	3.80	0.42	-0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SK	305	扇形	風狀	0.19	0.15	-0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	306	扇形	風狀	0.28	0.23	-0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	307	扇形	風狀	0.27	0.24	-0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SK	308	扇形	風狀	0.32	0.28	-0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SS	309	扇形	風狀	1.63	0.87	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SS	310	扇形	風狀	0.44	0.25	0.19	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SK	311	扇形	風狀	0.20	0.14	-0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	312	扇形	風狀	0.30	0.20	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	313	扇形	風狀	0.30	0.20	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SD	314	扇形	風狀	1.82	0.45	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	314	扇形	風狀	0.43	0.27	0.16	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	315	扇形	風狀	0.63	0.80	-0.17	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	316	扇形	風狀	0.50	0.51	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	317	扇形	風狀	0.70	0.60	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	318	扇形	風狀	0.44	0.25	0.19	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	319	扇形	風狀	0.28	0.22	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	320	扇形	風狀	0.30	0.25	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	321	扇形	風狀	0.30	0.20	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	322	扇形	風狀	0.37	0.51	-0.14	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	323	扇形	半円	0.35	0.30	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	324	扇形	風狀	0.38	0.30	0.08	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	325	扇形	風狀	0.48	0.46	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	326	扇形	風狀	0.32	0.23	0.09	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	327	扇形	風狀	0.32	0.23	0.09	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	328	扇形	半円	0.37	0.35	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	329	扇形	半円	0.30	0.30	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	330	扇形	半円	0.33	0.22	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	331	扇形	半円	0.36	0.22	0.14	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	332	扇形	風狀	0.34	0.27	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	333	扇形	風狀	0.25	0.29	-0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	334	扇形	風狀	0.41	0.43	-0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	335	扇形	半円	0.25	0.23	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	336	扇形	風狀	0.30	0.28	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	337	扇形	風狀	0.33	0.22	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	338	扇形	風狀	0.40	0.44	-0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	339	扇形	半円	0.30	0.29	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	340	扇形	半円	0.33	0.22	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	341	扇形	風狀	0.33	0.31	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	342	扇形	風狀	0.43	0.32	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	343	扇形	風狀	0.35	0.28	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	344	扇形	風狀	0.33	0.27	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	345	扇形	風狀	0.38	0.30	0.08	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	346	扇形	風狀	0.41	0.34	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	347	扇形	風狀	0.28	0.25	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	348	扇形	風狀	0.32	0.23	0.09	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	349	扇形	風狀	0.27	0.23	0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	350	扇形	風狀	0.21	0.20	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	351	扇形	風狀	0.32	0.23	0.09	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	352	扇形	風狀	0.34	0.27	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	353	扇形	風狀	0.25	0.23	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	354	扇形	風狀	0.30	0.30	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	355	扇形	風狀	0.33	0.22	0.11	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	356	扇形	風狀	0.27	0.23	0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	357	扇形	風狀	0.28	0.25	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	358	扇形	風狀	0.25	0.25	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	359	扇形	風狀	0.26	0.20	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	360	扇形	風狀	0.30	0.26	0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	361	扇形	風狀	0.35	0.32	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	362	扇形	風狀	0.29	0.28	0.01	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	363	扇形	風狀	0.31	0.29	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	364	扇形	風狀	0.34	0.31	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	365	扇形	風狀	0.32	0.27	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	366	扇形	風狀	0.31	0.27	0.04	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	367	扇形	風狀	0.32	0.27	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	368	扇形	風狀	0.73	0.33	0.40	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SK	369	扇形	風狀	1.85	0.93	0.92	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	370	扇形	風狀	0.38	0.28	0.10	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	SK	371	扇形	風狀	1.20	0.82	0.38	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	372	扇形	風狀	0.47	0.42	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	373	扇形	風狀	0.23	0.20	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	374	扇形	風狀	0.45	0.40	0.05	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	375	扇形	風狀	0.30	0.30	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	376	扇形	風狀	0.33	0.25	0.08	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	377	扇形	風狀	0.42	0.35	0.07	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	378	扇形	半円	0.36	0.33	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	379	扇形	半円	0.35	0.35	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	380	扇形	半円	0.36	0.30	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	381	扇形	半円	0.40	0.32	0.08	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	382	扇形	半円	0.28	0.26	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	383	扇形	半円	0.28	0.26	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	384	扇形	半円	0.35	0.35	0.00	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	385	扇形	半円	0.36	0.30	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	386	扇形	半円	0.28	0.26	0.02	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	387	扇形	半円	0.36	0.30	0.06	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	388	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	389	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	390	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	391	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	392	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	393	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	394	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	395	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	396	扇形	半円	0.30	0.27	0.03	7.5Y R 6.2B	褐色粘質シルト	無		
下層	B	P	397	扇形									

表10 遺構観察表(10)

検出層	高さ	遺構番号		平面形状	断面形状	前方角	片深(m)		土色・土質	備考	出土遺物
		層目	番号				長軸(横)	短軸(縦)			
下層	B	P	882	楕円	円内	0.20	0.39	0.38	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	888	楕円	円内	0.30	0.25	0.21	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	889	楕円	楕状	1.45	0.35	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	890	楕円	楕状	0.30	0.24	0.05	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	891	楕円	楕状	0.30	0.24	0.05	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	892	楕円	楕状	0.35	0.28	0.10	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	893	楕円	楕状	0.30	0.22	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	894	楕円	円内	0.17	0.20	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	895	楕円	半円	0.25	0.26	0.21	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	896	楕円	半円	0.27	0.32	0.15	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	897	楕円	半円	0.26	0.30	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	898	楕円	半円	0.35	0.22	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	899	楕円	半円	0.36	0.32	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	900	楕円	楕状	4.10	2.30	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	901	楕円	半円	0.23	0.20	0.27	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	902	楕円	楕状	0.35	0.25	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	903	楕円	楕状	0.29	0.25	0.14	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	904	楕円	楕状	0.83	0.69	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	905	楕円	楕状	2.85	1.92	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	906	楕円	楕状	1.25	0.20	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	907	楕円	楕状	1.80	1.50	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	908	楕円	楕状	0.83	0.25	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	909	楕円	楕状	0.67	0.35	0.21	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	910	楕円	楕状	0.36	0.25	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	911	楕円	楕状	0.33	0.22	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	912	楕円	楕状	0.47	0.28	0.07	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	913	楕円	半円	0.35	0.25	0.18	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	914	楕円	半円	0.40	0.30	0.23	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	915	楕円	半円	0.54	0.52	0.25	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	916	楕円	半円	0.32	0.32	0.28	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	917	楕円	半円	0.32	0.32	0.27	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	918	楕円	半円	0.35	0.33	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	919	楕円	半円	0.29	0.25	0.22	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	920	楕円	半円	0.26	0.24	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	921	楕円	半円	0.30	0.27	0.23	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	922	楕円	半円	0.27	0.28	0.28	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	923	楕円	楕状	0.38	0.28	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	924	楕円	楕状	0.35	0.20	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	925	楕円	楕状	0.29	0.23	0.22	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	926	楕円	楕状	0.39	0.30	0.15	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	927	楕円	楕状	1.10	0.65	0.10	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	928	楕円	楕状	0.35	0.33	0.08	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	929	楕円	楕状	0.23	0.23	0.15	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	930	楕円	楕状	0.33	0.36	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	931	楕円	楕状	0.67	0.37	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	932	楕円	楕状	0.30	0.25	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	933	楕円	楕状	0.42	0.30	0.14	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	934	楕円	楕状	0.30	0.26	0.07	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	935	楕円	楕状	0.42	0.30	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	936	楕円	楕状	0.35	0.30	0.08	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	937	楕円	楕状	0.23	0.25	0.18	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	938	楕円	楕状	0.27	0.25	0.15	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	939	楕円	楕状	0.30	0.24	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	SK	940	楕円	楕状	2.50	1.60	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	941	楕円	楕状	0.31	0.28	0.20	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	942	楕円	楕状	0.22	0.22	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	943	楕円	楕状	0.39	0.28	0.18	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	944	楕円	楕状	1.38	0.43	0.22	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	945	楕円	楕状	0.35	0.27	0.07	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	946	楕円	楕状	0.50	0.45	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	947	楕円	楕状	0.25	0.22	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	948	楕円	楕状	0.15	0.20	0.14	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	949	楕円	楕状	0.37	0.23	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	950	楕円	楕状	6.60	0.26	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	951	楕円	楕状	0.20	0.16	0.20	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	952	楕円	楕状	0.68	0.62	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	953	楕円	楕状	0.42	0.32	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	P	954	楕円	楕状	0.39	0.28	0.09	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	955	楕円	楕状	0.43	0.25	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	956	楕円	楕状	0.50	0.24	0.05	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	957	楕円	楕状	1.30	0.61	0.03	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	958	楕円	楕状	0.35	0.28	0.10	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	959	楕円	楕状	0.77	0.50	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	960	楕円	楕状	0.60	0.50	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	961	楕円	楕状	1.48	0.28	0.15	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	962	楕円	楕状	1.22	0.25	0.10	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	963	楕円	楕状	0.35	0.30	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	964	楕円	楕状	0.74	0.40	0.05	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	965	楕円	楕状	0.19	0.19	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	966	楕円	楕状	2.30	1.00	0.09	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	967	楕円	楕状	0.80	0.70	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	968	楕円	楕状	0.58	0.24	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	969	楕円	楕状	0.31	0.27	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	970	楕円	楕状	0.25	0.25	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	971	楕円	楕状	0.35	0.20	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	972	楕円	楕状	0.35	0.20	0.12	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	973	楕円	楕状	0.40	0.33	0.11	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	974	楕円	楕状	0.43	0.25	0.09	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	975	楕円	楕状	1.00	0.42	0.06	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	976	楕円	楕状	2.20	0.28	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	977	楕円	楕状	0.15	0.15	0.13	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	978	楕円	楕状	0.45	0.27	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	979	楕円	楕状	7.30	6.50	0.19	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	980	楕円	楕状	0.30	0.27	0.18	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	981	楕円	楕状	1.00	0.25	0.16	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	
下層	B	A	982	楕円	楕状	0.70	0.60	0.17	7.5YR 6-25褐色砂質シルト	無	

## 第5節 遺物

本調査区より出土した遺物はコンテナに換算して2箱分である。

### 1. 上層出土（古代～近世）遺物（第19図 写真図版12、14）

須恵器、珠洲、陶磁器、土製品、石製品、金属製品など古代から近世にかけての遺物が出土した。遺構からの出土ではなく包含層となるV層からの出土が大半である。また、上層からは弥生土器の出土もあるが、下層出土（弥生時代）の遺物として紹介する。

1は須恵器の壺ないし壺の胴部片である。外面にはタタキ、内面には同心円の当て具痕がある。時期は8世紀代と推測する。周辺の今市遺跡など古代の遺跡と関連するものと考える。

2は珠洲の壺である。体部上半の破片であり、1単位5条以上の波状文が付される。時期は吉岡編年のⅢ期以降、13世紀～14世紀のものと考える。

3は肥前系磁器の筒型碗である。外面には口縁部に一重の圓線、体部には斜格子状の文様を配している。内面は口縁部付近に格子状の文様帯を巡らせる。時期は18～19世紀と推測する。

4は肥前系磁器の皿である。内面の見込に松林と見られる文様を配する。外面は無文。時期は19世紀である。

5は土師質の製品で蓋状あるいは皿状の面に直径1.5cm程度の穴を複数、穿ったものである。蚊やりの一部とみられる。時期は近世である。

6は越中瀬戸の匣鉢である。窯道具の一つであるが、生産地以外の出土が県内でも普遍的に見られる製品である。見込み部分は中心部が露胎である。底部は糸切り痕が残る。時期は18世紀代とみられる。

7、8は泥面子である。7は円盤状にした粘土に蝶文の型を押している。8は恵比寿あるいは大黒天を型抜きしたものである。時期は18世紀後半～19世紀とみられる。泥面子については近在する打出遺跡でも出土した（富山市教委2006）。

9、10は陶磁器の破片の角をとり円盤状に加工したものである。9は珠洲、10は磁器片を利用して作られている。おはじき等の玩具や弔いのための冥錢として使用したとみられる。9は中世、10は印判手の磁器であるため19世紀後半と推測する。

11は硯である。海と陸の間の部分の破片とみられる。材質は黒色粘板岩製で、時期は近世以降と推測する。

12は青銅製の板状製品の一部である。X線撮影を実施したが文様等の装飾等はみられなかった。弥生時代のものの可能性もあるが、現時点では判断し難く、古代以降の遺物と判断しておく。

### 2. 下層出土（弥生時代）遺物（第20図 写真図版12、13）

弥生土器、土製品、石製品が出土した。弥生時代中期と後期の遺物であり、遺構からの出土は調査区の中央に位置するSD965のみである。

#### SD965出土遺物

SD965からは弥生時代中期と後期の土器が出土した。13は壺の口縁部である。口縁部の内面に羽状に列点文が付される。調整はヨコ方向のハケメが施される。外面は欠損しており調整、文様等は不明である。時期は弥生時代中期後半、八日市地方8期並行（小松市教委2003）である。

14は壺で口縁から体部上半が残存する。口縁部の外面上には刻目が付され、内面には羽状に列点文がふされている。調整は外面の口縁部に近いところでヨコ方向のハケメを施し、その下からは右ナメ下方向のハケメが密になされる。内面はヨコ方向のハケメである。時期は13と同じく中期後半で八日

市地方8期並行と考える。15は壺で体部下半から底部が残存する。16は有段口縁の壺である。口縁外面の段に刻目を付す。調整はハケメで体部に列点文を配する。猫橋式の土器で弥生時代後期前半にあたる。17は天王山式土器であり、壺の体部片とみられる。外面に重菱形文を施す。時期としては16と同じ弥生時代後期前半の猫橋式の後半段階に並行する。

### 包含層出土の遺物

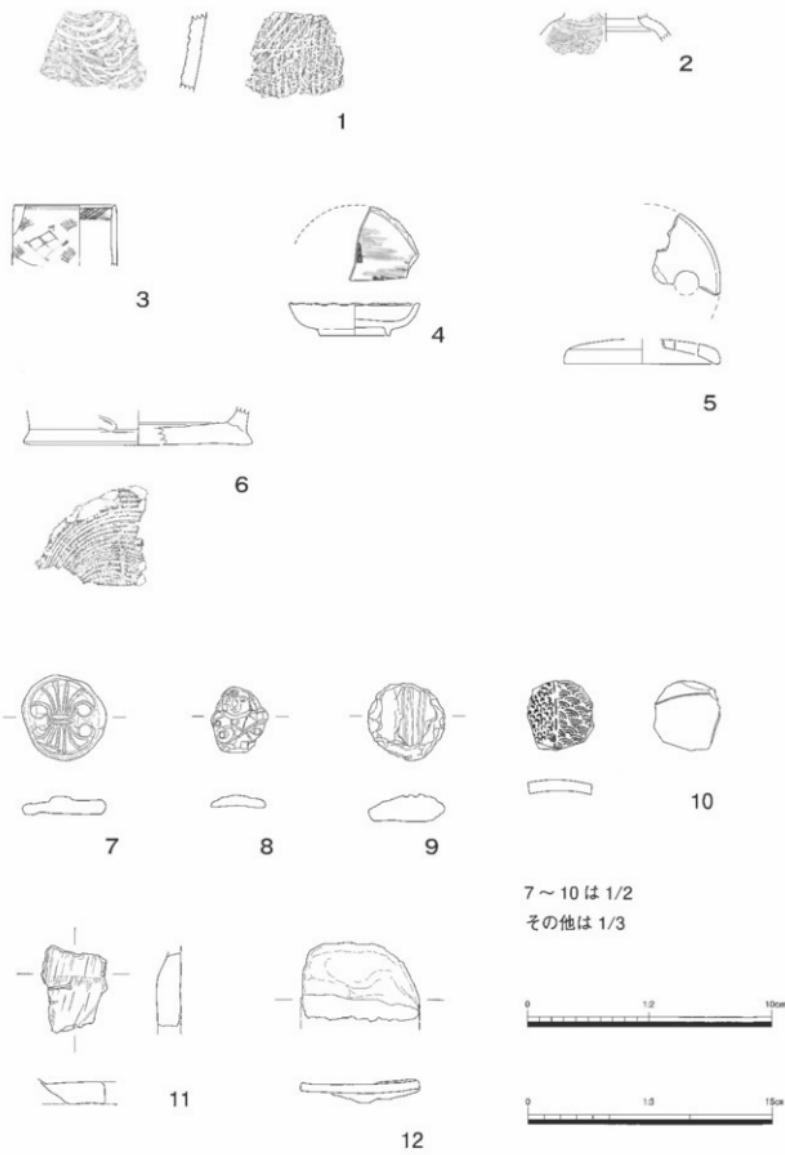
18は壺である。口縁部は内面に羽状に列点文を3段に巡す。外面は刻み目を付す。体部外面にはハケメ調整の後、直線文と波状文を付す。19は壺の底部である。調整はタテ方向のハケメがなされる。胎土に粒の大きな長石を多く含んでいることから、能登の邑智地溝帯周辺よりもたらされたと考える。時期は中期後半で八日市地方8期並行である。20~25は天王山式土器である20は壺の口縁部である。体部との境で屈曲するもので天王山式によく見られる壺である。口縁端部に21は縄文の地に沈線文、22は同じく縄文の地に沈線文で文様を付す、23は二本引きで沈線文を付す。24、25は直線と連弧状の沈線を施している。天王山式土器20~25までの時期としては17と同じく猫橋式後半に並行すると考えられる。26は円盤状土製品。壺の体部片を円盤状に加工する。時期は中期後半と推測する。27は石錐である。素材は鉄石英である。時期は中期とみられる。

表11 遺物観察表  
土器・陶磁器類

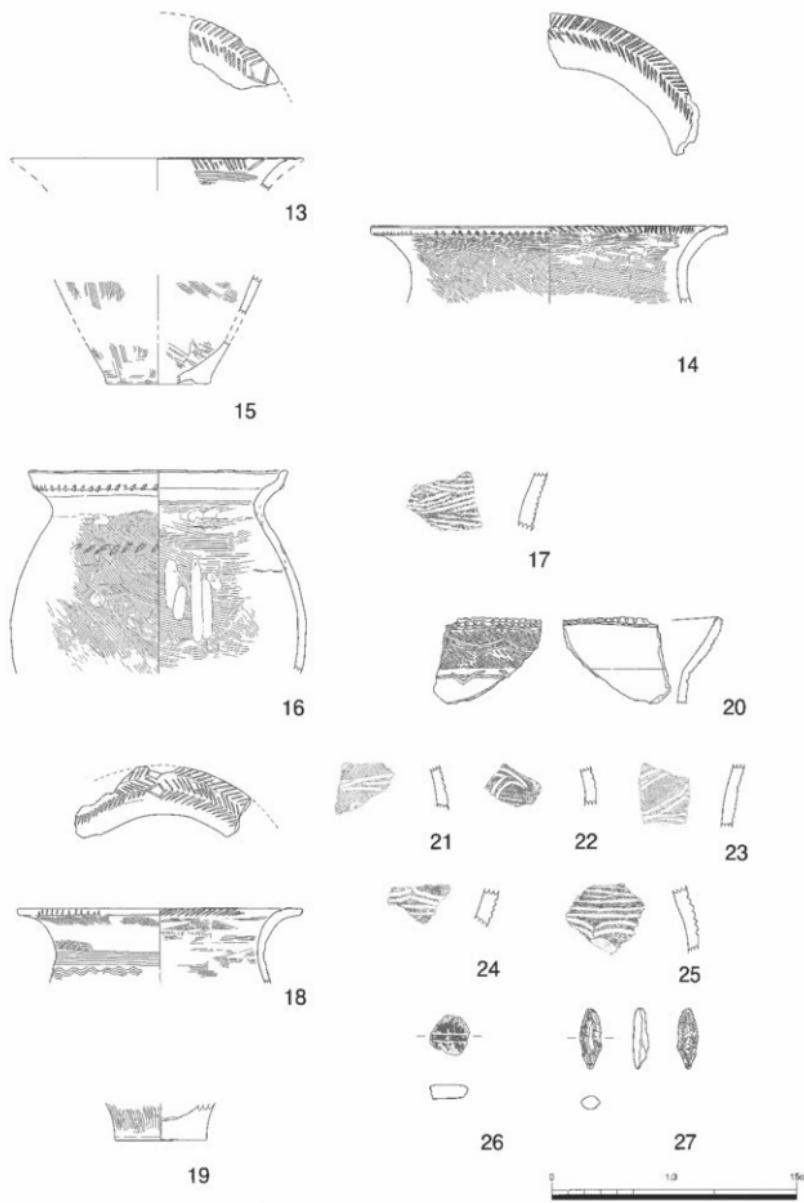
遺物 No.	分類	部種	法量 (cm)		色調		胎土	焼成	遺存率	調整			備考
			口径	底径	裏面	外面				口縁	底径	外面	
1	埴芯器	壺	(4.8)	2.5	YR7/3浅黄	2.5YR7/3浅黄	密	不良	-	-	当て具痕	タタキ・カキメ	赤焼け気味
2	珠陶	微	(1.7)	10	YR7/1灰	N6灰	衝	普通	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	波状文あり
3	器部	碗	(6.2)	(3.8)	N8灰	N8灰	密	良好	2/12	-	輪廻	井桁文	
4	器部	瓶	(8.0)	(4.4)	(2.0)	N8灰	衝	良好	2/12	2/12	輪廻	輪廻	穂花・松
5	無釉陶器	蓋(2枚合) (9.6)	(1.5)	2.5	YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	密	良好	2/12	-	ナデ	ナデ	
6	地中窓戸	尼体	(14.0)	(2.3)	5YR7/3c.5d.4e.4f	5YR7/3c.5d.4e.4f	並	良好	-	2/12	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
13	弥生土器	壺	(17.8)	(2.0)	7.5YR7/4c.5d.5e	7.5YR7/4c.5d.5e	衝	不良	1/12	-	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	口縫内側に羽状文
14	弥生土器	壺	(21.8)	(4.8)	7.5YR8/4浅黄	7.5YR8/4浅黄	密	良好	2/12	-	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	口縫内側に羽状文
15	弥生土器	壺	(6.4)	(6.7)	7.5YR5/1頗灰	7.5YR6/2頗黄	衝	良好	-	2/12	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	
16	弥生土器	壺	(15.8)	(12.5)	10YR7/3c.5d.4e.4f	10YR7/3c.5d.4e.4f	密	良好	5/12	-	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	口縫に刻印、体部に羽状文
17	弥生土器	壺	(3.5)	10	YR7/6橙	7.5YR7/6橙	並	良好	-	-	ナデ?	ナデ	天王山式土器 重菱形文
18	弥生土器	壺	(17.4)	(4.6)	7.5YR7/4c.5d.4e.4f	7.5YR6/3c.5d.4e.4f	並	普通	1/12	-	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	
19	弥生土器	壺	(3.8)	(2.9)	10YR7/6橙	7.5YR6/4c.5d.4e.4f	並	良好	-	4/12	ハケメ・ナデ	ナデ	
20	弥生土器	壺	(5.4)	10YR6/3c.5d.4e.4f	10YR6/3c.5d.4e.4f	並	普通	以下	-	楕文・ナデ	ナデ	天王山式土器	
21	弥生土器	壺	(2.6)	10	YR7/4c.5d.4e.4f	10YR7/4c.5d.4e.4f	並	良好	-	-	楕文・ナデ	ナデ	天王山式土器
22	弥生土器	壺	(2.6)	7.5YR6/4c.5d.4e.4f	7.5YR6/4c.5d.4e.4f	並	良好	-	-	楕文・ナデ	ナデ	天王山式土器	
23	弥生土器	壺	(3.6)	7.5YR5/3c.5d.4e.4f	7.5YR5/3c.5d.4e.4f	密	良好	-	-	楕文・ナデ	ナデ	天王山式土器	
24	弥生土器	壺	(2.2)	7.5YR6/6c.5d.4e.4f	7.5YR5/4c.5d.4e.4f	並	良好	-	-	楕文・ナデ	ナデ	天王山式土器	
25	弥生土器	壺	(4.1)	5YR6/6橙	7.5YR5/3c.5d.4e.4f	並	良好	-	-	ナデ	ナデ	天王山式土器	

### 土製品・金属製品・石製品・木製品

遺物 No.	分類	部種	法量 (cm)		備考		
			最大長	最大幅			
7	土製品	泥面子	3.5	3.4	0.8	衝突あるいは擦文	
8	土製品	泥面子	2.7	2.3	0.8	大黒天か朱色	
9	土製品	加工円盤	3.1	3.1	1.1	珠陶の転用	
10	土製品	加工円盤	2.7	2.7	0.5	器部(印押手)の転用	
11	石製品	鏡	5.3	4.0	1.5	船板岩質	
12	金属製品	板状製品	4.3	7.3	2.5	青銅製品 文様溝認出せず	
26	土製品	加工円盤	2.5	2.5	0.9	弥生土器の転用	
27	石器	石錐	4.2	1.3	1.0	鉄石英	



第19図 出土遺物実測図（上層遺物 古代～近世）



第20図 出土遺物実測図（下層遺物 弥生時代中期・後期）

## 第IV章 自然科学分析

はじめに

高橋敦・田中義文・馬場健司・堀内誠示・矢作健二（パリノ・サーヴェイ株式会社）

四方荒屋遺跡（富山市四方荒屋地内）は、現在の神通川河口の左岸の海岸砂丘内側に立地する。なお、本遺跡一帯の土地条件図および発掘調査成果等によれば、旧神通古川右岸の氾濫原に位置する。本遺跡は、過去にも発掘調査が実施されており、弥生時代～近世までの遺構や遺物が確認されている。今回の発掘調査では、上層と下層の遺構検出面が確認されており、中世後半～近世とされ上層からは畝跡と考えられる耕作溝をはじめとして、土坑やピットが多数確認されている。弥生時代後期頃とされ下層からは溝跡やピットなどが確認されている。

本報告では、遺構の年代、上記した下層から上層における古環境や植物利用、弥生土器の胎土の特徴（地質学的背景）の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

### 第1節 放射性炭素年代測定

矢作健二（パリノ・サーヴェイ株式会社）

#### 1. 試料

試料は、SD976とSK855の覆土より採取された土壌2点である。試料の観察では、SD976が炭化材が混じる灰～暗黄灰色シルト質（極細粒）砂、SK855が炭化材が混じる暗灰色～黒灰色（極細粒）砂質シルトからなる。測定には、上記した2試料の土壌中より抽出した炭化材片を供している。なお、測定に供した炭化材については、試料の履歴（樹種）に関わる情報を得るために、樹種同定も行った。

#### 2. 分析方法

試料は、目的物と異なる年代を持つもの等が付着、あるいは混入している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C(30分) 850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3 MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9 SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いて δ<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1 [Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer] を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5,730

±40年)を較正することである。曆年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に曆年較正プログラムや曆年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、1年単位で表している。

曆年較正結果は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$  ( $\sigma$ は統計的に真の値が68%、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表1 放射性炭素年代測定および曆年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (曆年較正用) (yrBP)	曆年較正結果				相対比	測定機関 CodeNo.
				$\sigma$	$2\sigma$	$\sigma$	$2\sigma$		
SD976 炭化材 (エノキ属)	2,180 ± 20	-25.17 ± 0.51	2,180 ± 24	cal BC 352	-	cal BC 295	cal BP 2,301 - 2,244	0.724	IAAA - 132981
				cal BC 229	-	cal BC 219	cal BP 2,178 - 2,168	0.087	
				cal BC 213	-	cal BC 196	cal BP 2,162 - 2,145	0.189	
				cal BC 358	-	cal BC 277	cal BP 2,307 - 2,226	0.593	
SK845 炭化材 (エノキ属)	2,210 ± 20	-26.30 ± 0.52	2,210 ± 24	cal BC 259	-	cal BC 173	cal BP 2,208 - 2,122	0.407	IAAA - 132982
				cal BC 358	-	cal BC 347	cal BP 2,307 - 2,296	0.102	
				cal BC 318	-	cal BC 279	cal BP 2,267 - 2,228	0.386	
				cal BC 257	-	cal BC 207	cal BP 2,206 - 2,156	0.512	
				2 $\sigma$	cal BC 362	-	cal BC 203	cal BP 2,311 - 2,152	1.000

### 3. 結果および考察

遺構覆土より採取した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、SD976炭化材が $2,180 \pm 20$  yrBP、SK845 炭化材が $2,210 \pm 20$  yrBPである。これらの補正年代に基づく曆年較正結果( $1\sigma$ )は、SD976がcalBC 352 - calBC 196、SK845がcalBC 358 - calBC 207を示す(表1)。

SD976およびSK845から出土した炭化材の示した較正曆年代( $1\sigma$ )は、おおむね近似しており紀元前4世紀中頃から紀元前3世紀初頭前後に相当し、小林(2009)等を参考とすると、弥生時代中期頃に相当する。

## 第2節 古環境および植物利用

高橋敦・田中義文・馬場健司・堀内誠示(パリノ・サーヴェイ株式会社)

### 1. 試料

試料は、A区東側調査区の西壁2ヵ所(2地点、3地点)より採取した土壤10点と、担当者より提供された土壤2点(SD976、SK845)の計12点である。以下に、各地点の観察所見および採取試料の概要を記す。また、各地点の模式柱状図および試料採取位置を図1に示す。なお、図1には、埴砂に伴う砂脈の確認のために設定された調査坑(1地点)内の堆積層(以下、基本土層)の模式柱状図も図示し、調査所見に基づく基本土層名および遺構覆土の土層名も併記した。

#### (1) 1地点

1地点はA区東南に確認された砂脈の断割り調査のために確認された調査坑に相当する。調査坑に認められた基本土層は、地表面より深度約116cmを測る。基本土層の最下部は灰白色シルト～粘土である。これより上位には、灰色砂質シルト、褐灰色極細粒砂、褐灰色極細粒砂～細粒砂、褐灰色シルト質極細粒砂、やや腐植質な褐灰色シルト質極細粒砂、黒～黒褐色シルト、現在の(水田)耕作土に相当する細粒や砂分が混じる(暗)灰色シルトが累重する。このうち、堆積層下部の灰白色シルト～粘土と灰色砂質シルトには管状酸化鉄が認められ、これらと褐灰色極細粒砂との間には斑状に酸化鉄が発達する。また、やや腐植質な褐灰色シルト質極細粒砂や黒～黒褐色シルトは、それぞれ上位と堆

植物との層界が明瞭であるほか、植物根痕が認められるほか下位の堆積物に由来するとみられる偽礫（ブロック）が混じるなど擾乱が著しい。

これらの堆積物は、調査所見を参考とすると、現在の（水田）耕作土に相当する（暗）灰色シルトがI～II層（下部の管状、斑状酸化鉄が発達する層位がIV層）、黒～黒褐色シルトが上層包含層に相当するV層、やや腐植質な褐灰色泥質極細粒砂が下層包含層に相当するVI層に対比される。

なお、砂脈は、調査坑の基底付近において最大径約2cm程度の円～亜円礫が混じる極粗粒砂～細礫からなる。砂脈を構成する堆積物は、これより上方に向かって粒径が細粒化する傾向にあり、調査坑基底より約75cm付近では灰白色細粒砂～極細粒砂に変化し、この堆積物は約90cm付近まで確認できる。これより上位の砂脈は、擾乱等の影響により不鮮明となっている。

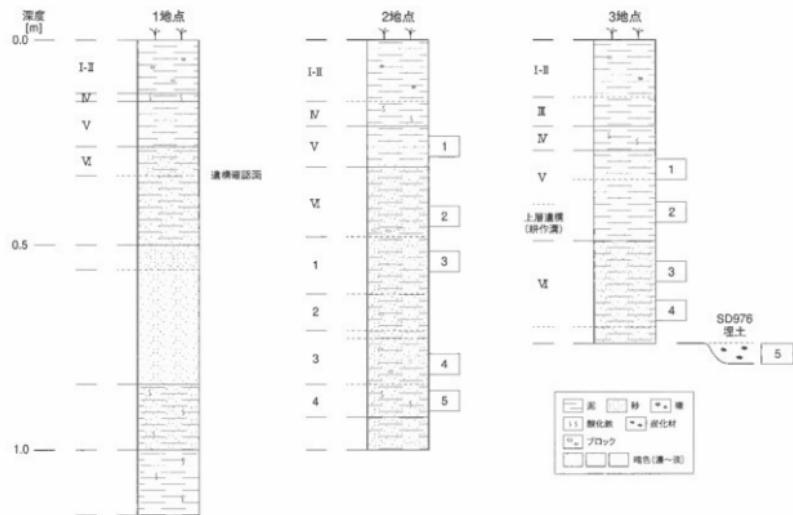


図1 各地点の模式柱状図および試料採取位置

本遺跡周辺では、四方背戸割遺跡や打出遺跡においても砂脈等の地震痕跡が認められており、地震の発生年代や砂脈の給源についての検討がなされている。1地点に認められた砂脈は、調査坑基底の状況から、さらに以深の堆積層に起因すると判断される。また、砂脈はVI層まで明瞭に観察できたものの、V層およびV層より上位は擾乱の影響により不鮮明であったため、その形成年代についてはVI層形成段階およびそれ以降という想定に留まる。

## (2) 2地点

2地点は、A区に検出された弥生時代後期の溝の土層断面と基本土層が確認できる、A区東側調査区の西壁に相当する。

観察対象とした堆積層は深度約100cmを測り、下位より、褐灰～灰白色シルト質極細粒砂、灰色～

褐灰色シルト質極細粒砂、レンズ状に堆積する黄灰色～褐灰色シルト質極細粒砂、褐灰色シルト～極細粒砂質シルト、黒色～黒褐色シルト、現在の（水田）耕作土に相当する中粒砂～細礫が混じる暗灰色シルトが累重する。

調査所見によれば、褐灰～灰白色シルト質極細粒砂が溝の基底を構成する堆積物、灰色～褐灰色シルト質極細粒砂のやや酸化鉄が発達する下部が4層、上部の褐灰色および灰白色泥質砂～砂質泥の偽礫（ブロック）が混じる上部が3層、褐灰色シルト～極細粒砂質シルトの下部が2層、上部が1層に対比される。また、これより上位の褐灰色シルト～極細粒砂質のやや腐植質な層位が基本土層のVI層、黒色～黒褐色シルトがV層、暗灰色シルトがI～II層、同堆積物の酸化鉄が発達層位がIV層に対比される。

試料は、上層の包含層に相当するV層（試料番号1）、下層の包含層に相当するVI層（試料番号2）、溝覆土1層（試料番号3）、溝覆土4層の上部（試料番号4）および下部（試料5）より、土壤5点を採取している。

### （3）3地点

3地点は、A区より検出されたSD976の南側に隣接するA区東側調査区の西壁に相当する。観察対象とした堆積層は、深度約74cmを測る。下位より、褐灰～灰褐色極細粒砂、灰～褐灰色シルト～シルト質極細粒砂、黒灰色～暗褐灰色シルト、黒褐色シルト、灰褐色シルト、暗灰色～灰色シルトが累重する。

調査所見によれば、灰～褐灰色シルト～シルト質極細粒砂が基本土層のVI層、黒灰色～暗褐灰色シルトが上層の耕作溝埋積物、黒褐色シルトがV層、灰褐色シルトがIV層、暗灰色～灰色シルトがI～III層に対比される。

試料は、上層包含層に相当するV層（試料番号1）、耕作溝埋積物（試料番号2）、下層包含層のVI層の上部（試料番号3）と下部（試料番号4）より、土壤4点を採取している。なお、本地点ではVI層下部より検出されたSD976埋積物（最大約1cm角の炭化材が混じる褐灰色～灰色シルト質極細粒砂）からも土壤を採取しており、本試料については試料番号5として扱っている。

本分析では、上述した分析目的等を考慮し、溝覆土下部（2地点：試料番号5）を対象に珪藻、花粉、植物珪酸体分析、上層包含層および下位の基本土層とSD976埋積物（3地点：試料番号1～3.5）を対象に植物珪酸体分析を実施した。また、土壤試料2点（SD976、SK845）については微細物分析、SD976および同構造埋積物相当試料（3地点：試料番号5）に確認された約1cm角以上の炭化材を対象に樹種同定を実施した。

## 2. 分析方法

### （1）珪藻分析

湿重約5gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行う。その後検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のブリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い同定・計数した。珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot (2000)、Hustedt (1930-1966)、Krammer & Lange-Bertalot (1985～1991)、Desikachari (1987)などを参考にした。

## (2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman (1952, 1957)、Faegri and Iversen (1989) 等の花粉形態に関する文献や、島倉 (1973)、中村 (1980)、藤木・小澤 (2007) 等の邦産植物の花粉写真集等を参考にする。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。

## (3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタンゲスタン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュエラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土1 gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土1 gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」で表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

## (4) 微細物分析

観察の結果、炭化試料が脆弱であったため、以下の方法で抽出を行った。まず試料を肉眼で観察し、炭化種実や炭化材などの炭化物を拾い出す。拾い出した炭化物の一部を年代測定対象とする。次に試料を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や、炭化材（主に径4 mm以上）などの遺物を抽出する。

抽出物と分析残渣は、常温乾燥後の重量を記録後、袋に入れて返却する。炭化材は最大径を記録する。

## (5) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) や Wheeler他 (1998) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

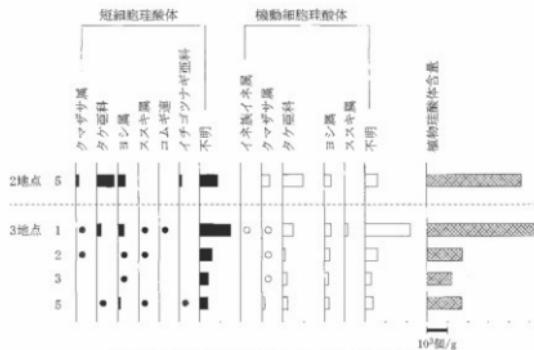
表2 花粉分析結果

分類群	A区東側	西壁	2地点
草本花粉		5	
イネ科	1		
クワ科	1		
シダ類胞子			
シダ類胞子	3		
合計			
木本花粉	0		
草本花粉	2		
シダ類胞子	3		
合計	5		

表3 植物珪酸体含量

分類群	(個/g)				
	A区東側		東壁		
	2地点	5	1	2	3
イネ科葉短胞硅酸体					
クマザサ属	200	<100	<100	-	-
タケ類科	800	200	-	-	<100
ヨシ属	400	300	<100	<100	100
ススキ属	-	<100	<100	-	<100
コムギ属	-	<100	-	-	-
イチゴツナギ亞科	100	-	-	-	<100
不明	900	1,500	600	400	400
イネ科葉身機動細胞硅酸体					
イネ族イネ属	-	<100	-	-	-
クマザサ属	400	<100	<100	<100	100
タケ亜科	1,000	500	100	200	200
ヨシ属	300	300	300	200	200
ススキ属	-	200	-	-	-
不明	600	2,200	600	300	400
合計					
イネ科葉部短胞硅酸体	2,300	2,300	700	500	700
イネ科葉身機動細胞硅酸体	2,300	3,300	1,000	800	1,000
植物珪酸体合計	4,600	5,600	1,700	1,300	1,700

[&lt;100] : 100個/g未満



統計1gあたりの個数です。●○は100個未満を定性的に示す。

図2 植物珪酸体含量

表4 微細物分析結果

種類	A区		備考
	SD976 覆土	SK845 覆土	
水洗前抽出			
炭化材(泥付着)	1.8 g	0.9 g	放射性炭素年代測定試料を抽出
水洗後抽出			
炭化材(泥付着)	14.4 mm	11.7 mm	最大径
	4mm以上	0.5 g	0.9 g
炭化材主体(泥付着)	4.2 mm	0.2 g	1.8 g
土粒主体	2.1 mm	1.5 g	1.1 g
	1.0-0.5 mm	2.3 g	3.2 g
分析量	150 cc	185 cc	
	218 g	275 g	湿重

### 3. 結果

#### (1) 珪藻分析

溝覆土（2地点；試料番号5）からは、珪藻化石が全く検出されなかった。

#### (2) 花粉分析

結果を表2に示す。溝覆土（2地点；試料番号5）からは、花粉化石はほとんど検出されず、わずかにイネ科とクワ科が1個体ずつ検出されたのみである。保存状態は、いずれも潰れているもの、花粉外膜は破損しておらず、溶解の影響も少ない。なお、分析残渣中には微細な炭化植物片（いわゆる微粒炭）が多く認められたが、母材を特定できる特徴を有するものは認められない。

#### (3) 植物珪酸体分析

結果を表3、図2に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど保存状態が悪い。

##### 1) 2地点

溝覆土（2地点；試料番号5）の植物珪酸体量は4,600個/gである。クマザサ属を含むタケア科、ヨシ属、イチゴツナギア科等が検出される。クマザサ属を含むタケア科の産出が目立つものの、その含量は低い。

##### 2) 3地点

基本土層（試料番号1～3）とSD976埋土（試料番号5）の植物珪酸体含量は、1,300～5,600個/gであり、V層（試料番号1）が最も含量が高く、VI層上部（試料番号3）が最も低い。

植物珪酸体群集は、各試料を通じてヨシ属が検出されるが、その含量は低い。この他、クマザサ属を含むタケア科、ススキ属が認められ、V層（試料番号1）からは栽培植物のイネ属（機動細胞珪酸体）や栽培種を含む分類群であるコムギ連（短細胞珪酸体）も検出される。

#### (4) 微細物分析

結果を表4に示す。分析には、試料のほぼ全量（SD976：150cc、SK845：185cc）を供した。2試料を通じて、同定が可能な種実遺体は出土せず、炭化材がSD976から2.5g（最大1.4cm）、SK845から3.6g（最大1.2cm）が検出された。分析残渣（土粒主体）は、SD976が3.8g、SK845が4.3gである。

#### (5) 樹種同定

同定結果を表5に示す。1章の放射性炭素年代測定に供した炭化材2点と、SD976埋積物（3地点；試料番号5）の炭化材は、すべて広葉樹のエノキ属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

##### ・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、道管は孔圈外でやや急激に径を減じたのち、塊状に複合して接続・

表5 樹種同定結果

調査区	遺構/地点	名称/取上No	形状	数量	種類 (分類群)	備考
A区	SD976	土壤	破片(板状)	1	エノキ属	放射性炭素年代測定試料
	SK845		破片(板状)	1	エノキ属	放射性炭素年代測定試料
A区	3地点	試料番号5 (SX517埋積物)	分割材状	10	エノキ属	約1cm角以上の破片を対象

斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で鞘細胞が認められる。

#### 4. 考察

##### (1) 古環境

弥生時代後期の溝の覆土4層下部（試料番号5）からは珪藻化石は、全く検出されなかった。そのため珪藻化石による堆積環境の推定は困難である。珪藻化石が産出しなかった要因としては、おそらく堆積後の続成作用によって、完全に分解消失したものと思われる。また、珪藻殻が分解されやすい原因としては、堆積した場所が水域ではなく、陸域における好気的環境下にあった可能性がある。また、花粉化石も珪藻化石同様に産状が悪かった。珪藻化石の産状から推定されているように、水が少ない好気的環境であった場合、酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされることから（中村, 1967; 徳永・山内, 1971; 三宅・中越, 1998など）、堆積後に消失した可能性が高い。なお、僅かに検出されたイネ科、クワ科は、保存状態はそれほど悪くないため、後代の擾乱等の影響で混入した可能性がある。

一方、植物珪酸体は、溝覆土および基本土層試料等のすべての試料より検出が認められた。弥生時代後期の溝（2地点：試料番号5）からは、クマザサ属等を含むタケ亜科やヨシ属等が検出された。ヨシ属は河川沿い沼沢域など、氾濫等によって植生が失われたり、土地条件が悪く植物が生育できないような場所に先駆的に侵入して草地を作る。また、クマザサ属を含むタケ亜科は、山地の林床に生育するほか、災害、伐採等により森林が失われた場所に侵入する。なお、四方沖や神通川河口付近では、繩文時代晩期および弥生時代頃とみられる埋没林の存在が確認されていることや、発掘調査に伴う自然科学分析等により本遺跡周辺に平地林と呼べる林分が成立していたことが推定されている（田中ほか, 2007）。おそらく、ヨシ属やタケ亜科等は、本遺跡周辺の沼沢域や比較的安定した河畔や微高地等の林縁に生育したものに由来する可能性がある。また、基本土層におけるこれらの分類群の産状についてみると、植物珪酸体含量の多寡が乏しく、全体的に含量が低い。さらに遺跡の立地等を考慮すると、集水域よりもたらされた堆積物の影響も想定され、広範囲の植生を反映している可能性もある。

なお、上層包含層に相当する堆積物（3地点：試料番号1）からは、栽培植物のイネ属（機動細胞珪酸体）が検出された。また、同試料より検出されたコムギ連には野生種のほか、栽培種のムギ類が含まれる。いずれも含量が極めて低いため畑跡の栽培植物としての判断は難しいが、イネの植物体の利用、ムギ栽培の可能性も考えられる。

##### (2) 木材利用

SD976やSK845からは、炭化種実等は認められず、炭化材のみが検出された。また、SD976埋積物（3地点：試料番号5）に混じる炭化材の観察では、最大1.0~1.5cm角程度の破片が多く認められた。樹種同定の結果、SD976およびSK845の炭化材は、すべてエノキ属であった。この結果から、SD976の炭化材のうち分析対象外とした小破片の一部について、改めて実体顕微鏡による観察を行ったが、この他の分類群は確認できなかった。このような状況から、とくにSD976より出土した炭化材はエノキ属を主体とする構成であった可能性が高い。

エノキ属は、国内にはエゾエノキ、エノキ、コバノチョウセンエノキ、クワノハエノキ等の4種がある。このうち、コバノチョウセンエノキは近畿以西、クワノハエノキは山口県に分布し、本地域に

は分布していないため、今回確認されたエノキ属はエゾエノキあるいはエノキのいずれかと推定される。いずれも落葉大高木で、エゾエノキは向陽の山地や渓谷、エノキは向陽適潤の地に生育する。エゾエノキとエノキの木材は、やや重硬な部類に入るが、強度は低く、また腐りやすい。

エノキ属は沿海地の沖積地によくみられることから、本遺跡周辺に生育していた可能性が高い。また、炭化材として出土したことから、人為的関与も推定される。ただし、炭化材が多く出土したSD976埋積物では、焼土等の痕跡が確認できなかったこと、この他に大型植物化石を認めることができなかったため、木材の用途については課題が残る。

### 第3節 胎土分析

矢作健二（パリノ・サーヴェイ株式会社）

#### 1. 試料

試料は、SD965から出土した弥生土器2点（No53, 71）であり、No53が弥生時代後期の甕、No71が弥生時代中期の甕とされている。以下に、各試料の観察所見を記す。

##### (1) SD965 No53

試料の外観を図版2-2に示す。土器片の岩石・鉱物の観察では、外面には径0.2mm以下の黒雲母片微量認められる。また、内面には径0.2mm以下の黒雲母片が微量、径0.5～2.0mmの灰白色岩片微量が認められる。

##### (2) SD965 No71

試料の外観を図版2-3に示す。土器片の外面には径1.0～1.5mmの灰白色岩片が極微量、径0.2mm以下の黒雲母片が極微量認められる。また、内面には径1.0mmの灰白色岩片が極微量、径0.2mm以下の黒雲母片と石英粒が微量認められる。

#### 2. 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法がある。前者は切片による薄片作製が主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている。前者の方法は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点があり、胎土中における砂粒の量や、その粒径組成、砂を構成する鉱物片、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であるなど、得られる情報が多い。今回の分析では、弥生土器の特性、とくに地質学的背景等の検討を目的としたことから、薄片作製観察による分析を実施する。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにする。

薄片観察結果は、松田ほか（1999）の方法に従って表記する。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるするために、同一の地質分布範囲内にある接続した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。以下にその手順を述べる。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子

をポイント法により200個あるいはプレバラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

### 3. 結果

観察結果を表6、図3～5に示す。以下に、鉱物・岩石組成、粒径組成、碎屑物・基質・孔隙の順に各試料の特徴を述べる。

#### (1) 鉱物・岩石組成

SD965 No53, 71の2点は、ほぼ類似した組成を示す。砂粒の主体は石英と斜長石の鉱物片であり、これに少量のカリ長石の鉱物片を伴い、他に白雲母や黒雲母等の鉱物片と、チャート、凝灰岩、流紋岩・ディサイト、安山岩、花崗岩類等の多種類の岩石片が、いずれも微量含まれる。なお、いずれも凝灰岩と流紋岩・ディサイトには結晶質なものと非晶質なものが混在する。一方、安山岩については、SD965 No53のものは新鮮であり、第四紀の火山噴出物に由来するが、SD965 No71のものは変質を受けており、新第三紀の地質に由来するという違いが認められた。

#### (2) 粒径組成

SD965 No53のモード粒径は極細粒砂であり、次いで細粒砂、中粒砂、粗粒砂の順に多く、これらの粒径間の割合の差は小さい。一方、SD965 No71のモード粒径は粗粒シルトであり、この段階の粒径が突出して多く、他の粒径の割合は小さく、それらの差も小さい。

#### (3) 碎屑物・基質・孔隙の割合

碎屑物の割合は、SD965 No53が約20%であり、SD965 No71は、それよりも若干少ない約15%を示す。

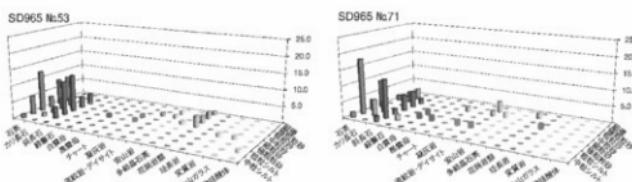


図3 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度

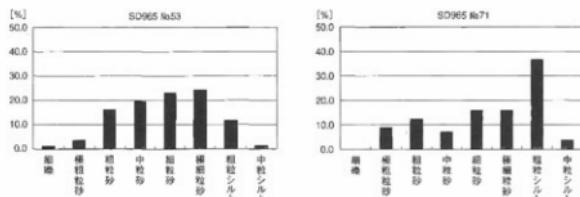


図4 粒径組成

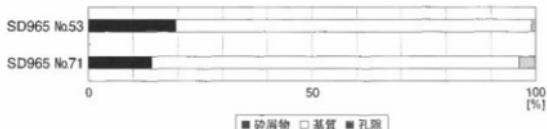


図5 碎屑物・基質・孔隙の割合

表6 薄片観察結果

試料名	砂粒区分	砂粒の種類構成												合計		
		軽物			片岩			石片			その他					
		石英	カリ長石	斜長石	隕石	白雲母	黒雲母	チャート	凝灰岩	流紋岩	安山岩	多結晶岩	花崗岩類	珪長岩	変質岩	火山ガラス
SD965 No.53	細粒														1	1
	極粗粒砂														1	3
	粗粒砂	7	3							1	1				2	14
	中粒砂	7	2	3					1						3	17
	細粒砂	3	3	10				1	1						1	20
	細緻粒砂	11	1	9												21
	粗粒シルト	5	1	3											1	10
	中粒シルト	1														1
	基質															354
	孔隙															4
SD965 No.71	備考	基質は褐色粘土軽物、蛋白質物、炭質物などで埋められる。凝灰岩は非晶質なものと結晶質なもののが混在する。火山ガラスはパブル型。絆縫石あり。														
	細粒															0
	極粗粒砂		2													5
	粗粒砂	1	2	1					1	1	1					7
	中粒砂				3										1	4
	細粒砂	5	3		1											9
	細緻粒砂	2	2	1	1	1			1	1						9
	粗粒シルト	10	3	7	1										1	21
	中粒シルト	1	1													2
	基質															330
	孔隙															15
	備考	基質はややシルト質で、褐色粘土物、セリサイト、石英、長石類などで埋められる。流紋岩は結晶質なものと、非晶質ものが混在する。酸化角閃石あり。														

## 4. 考察

土器胎土中に含まれる砂粒の鉱物組成および岩石組成は、土器の材料となった粘土や砂の採取地の地質学的背景を示している。したがって、土器出土地の地質学的背景と土器胎土の鉱物・岩石組成とを比較することにより、その土器の製作や移動に関わる事情を推定することができる。四方荒屋遺跡は、神通川の河口に近い左岸の沖積低地に位置するから、その地質学的背景とは、神通川の中～上流域に分布する地質が想定される。

富山県（1992）や山田ほか（1989）、日本の地質「中部地方Ⅱ」編集委員会（1988）等により、神通川流域の地質を概観してみると、上流域になる富山平野背後の山地は、新第三紀の砂岩・泥岩や安山岩およびデイサイト質の火碎岩や溶岩から構成されており、それらの分布域のさらに上流側には中生代ジュラ紀に貫入した津波花崗岩類と中生代白亜紀の砂岩・泥岩・礫岩からなる手取層群が分布する。このような地質分布から、四方荒屋遺跡の立地する神通川河口付近の堆積物中には、堆積岩類から凝灰岩、火山岩および深成岩類までの様々な地質に由来する碎屑物が混在していると考えられる。

また、河口付近であることから、その碎屑物中では、物理的化学的な破壊作用に対する抵抗性の強い石英粒が卓越するという組成が想定される。

今回の分析に供された弥生土器 2 点の胎土における鉱物・岩石組成をみると、多種類の岩石が含まれることと、その種類が堆積岩や新第三紀の凝灰岩、流紋岩・ディサイトおよび花崗岩類であることなどにおいて神通川流域の地質学的背景と整合していると言える。ただし、斜長石の割合が石英と同じくらい多いことから、四方荒屋遺跡の位置する神通川河口付近の堆積物には由来しない可能性が高い。さらに、SD965 No.53は第四紀の火山噴出物由來の安山岩を含むことも、神通川河口付近の堆積物の岩石組成とは異質と言える。斜長石の由來する地質としては、主に火山岩類や深成岩類が考えられるが、SD965 No.53の場合は、新鮮な安山岩片が伴われることから、斜長石は第四紀の安山岩質火山噴出物に由来すると考えられる。すなわち、安山岩質火山噴出物からなる地質の分布域周辺の堆積物に由来する可能性がある。そのような地質を神通川流域とその周辺地域でみると、最も近い地質として奥羽丘陵北端部と同丘陵北西縁辺部に分布する北代砂層があげられる。北代砂層は、安山岩質の火碎岩からなり（富山県、1992）、焼岳起源の火山泥流堆積物であるとされている（田村ほか、2001）。

SD965 No.71は、No.53と同様に斜長石の量比が比較的高いが、新鮮な安山岩は認められなかったことから、その胎土の由来が北代砂層になる可能性は低い。斜長石はおそらく共伴する岩石である新第三紀の凝灰岩や流紋岩・ディサイトおよび安山岩に由来すると考えられる。すなわち、SD965 No.71 の胎土は、それらの地質が分布する地域の縁辺でかつ、その背後には多種類の地質も分布するような場所の堆積物に由来する可能性がある。広義の富山平野でみれば、新第三紀の流紋岩質火碎岩からなる医王山層や新第三紀の安山岩質火碎岩からなる岩稈層により構成されている山地縁辺が迫っている、庄川扇状地の扇頂部付近の堆積物の組成が、No.71のような組成に類似することが想定される。

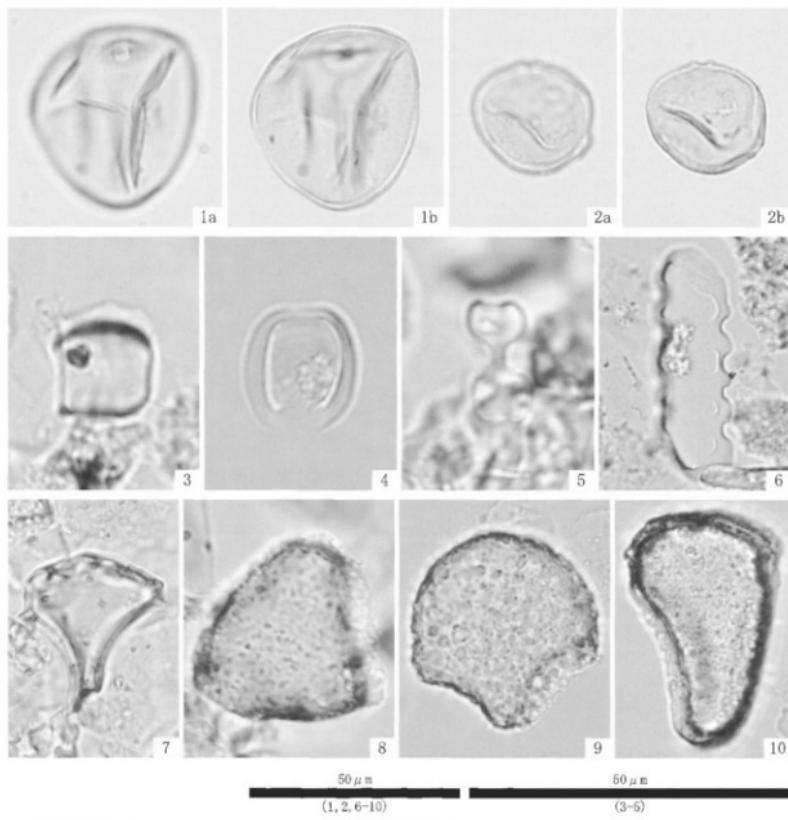
今回の分析に供された 2 試料については、神通川流域と広義の富山平野周縁の地質を参考として、胎土の地質学的背景について検討した。なお、現段階では、弥生土器片の考古学的所見と合わせた検討には至っていないため、今後これらの所見から想定される製作地の地質学的背景との比較による評価も必要と考える。

#### 引用文献

- Desikachari, T. V., 1987, *Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean*. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates: 401-621.
- Erdtman G. 1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist & Wiksell, 539p.
- Erdtman G. 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p.
- Feagri K. and Iversen Johs. 1989, *Textbook of Pollen Analysis*. The Blackburn Press, 328p.
- 藤木利之・小澤智生. 2007. 球形列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 林 昭三. 1991. 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- Horst Lange-Bertalot. 2000, *ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA: Annotated diatom micrographs*. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume1. 219 plts. 4504 figs, 925 pgs.
- Hustedt, F. 1930, *Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz*. unter Berücksichtigung der übrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr.Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz. 7, Leipzig. Part 1, 920p.

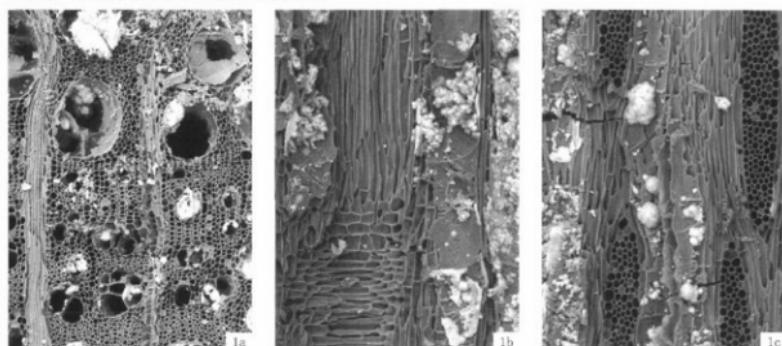
- Hustedt, F. 1937-1938. Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ II. Arch. Hydrobiol. Suppl. 15, 131-809 p.1-155 p.274-349 p.
- Hustedt F. 1959. Die Kieselalgen Deutschlands, Österreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Österreichs und der Schweiz. 7. Leipzig. Part2, 845p.
- Hustedt, F. 1961-1966. Die Kieselalgen Deutschlands, Österreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Österreichs und der Schweiz. 7. Leipzig. Part3, 816p.
- 伊東隆夫. 1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料. 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫. 1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料. 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫. 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料. 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫. 1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料. 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫. 1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料. 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 近藤謙三. 2010. ブラント・オバール園図. 北海道大学出版会, 387p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot. 1985. Naviculaceae. Bibliotheca Diatomologica, vol9, p.250.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot. 1986. Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa. 2(1): 876 p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot. 1988. Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa. 2(2): 596 p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot. 1990. Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576 p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot. 1991. Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2(4): 437 p.
- 小林謙一. 2009. 近畿地方以東の地域への拡散 洋生農耕のはじまりとその年代 西本豊弘編. 新跡生時代のはじまり. 第4巻, 55-82.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高. 1999. 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－. 日本国際学会第16回大会発表要旨集, 120-121.
- 三宅 岌・中越信和. 1998. 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態. 植生史研究. 6, 15-30.
- 中村 純. 1967. 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 中村 純. 1980. 日本産花粉の種類 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12. 13集, 91p.
- 日本の地質「中部地方II」編集委員会. 1988. 日本の地質5 中部地方II. 共立出版, 310p.
- 島地 謙・伊東隆夫. 1982. 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 島倉巳三郎. 1973. 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- 田村糸子・山瀬耕太郎・及川輝樹・山崎晴雄. 2001. 吾羽山丘陵で見出された焼岳起源火山泥流堆積物 (演 旨). 地球惑星科学間連学会合同大会予稿集, 2001, Qm-002.
- 田中義文・伊藤良水・千葉博俊. 2007. 神通川下流域における古環境変遷. 富山市考古資料館紀要, 第26号, 富山市考古資料館, 25-36.
- 徳永重元・山内輝子. 1971. 花粉・胞子・化石の研究法. 共立出版株式会社, 50-73.
- 富山県. 1992. 1 /10万 富山県地質図. 内外地图株式会社.
- 山田直利・野沢 保・原山 智・滝沢文教・加藤頼一. 1989. 20万分の1地質図幅 高山. 地質調査所.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (編). 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井 聰・佐伯 浩 (日本語版監修). 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 花粉化石・植物珪酸体



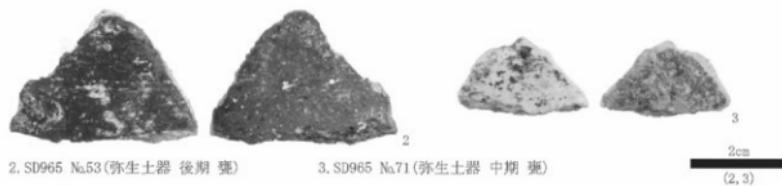
1. イネ科(2地点;5)
3. クマザサ属短細胞珪酸体(2地点;5)
5. ススキ属短細胞珪酸体(3地点;1)
7. イネ属機動細胞珪酸体(3地点;1)
9. ヨシ属機動細胞珪酸体(2地点;5)
2. クワ科(2地点;5)
4. ヨシ属短細胞珪酸体(2地点;5)
6. コムギ連短細胞珪酸体(3地点;1)
8. クマザサ属機動細胞珪酸体(2地点;5)
10. ススキ属機動細胞珪酸体(3地点;1)

図版2 炭化材・弥生土器（胎土分析試料）



1. エノキ属 (3地点;6)  
a:木口, b:胚目, c:板目

100  $\mu$ m:1a  
100  $\mu$ m:1b, 1c

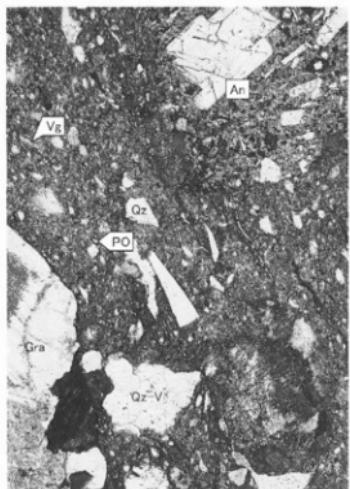


2. SD965 Na53 (弥生土器 後期 壺)

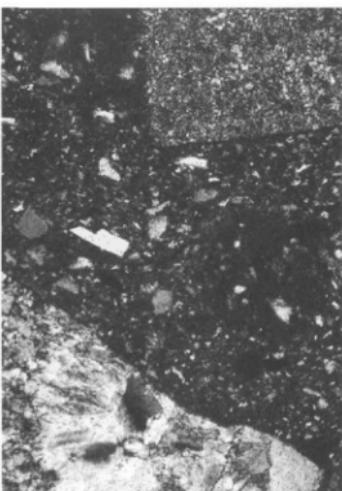
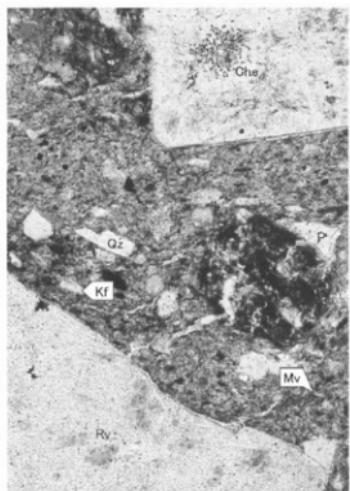
3. SD965 Na71 (弥生土器 中期 壺)

2cm  
(2, 3)

図版3 胎土薄片



1. SD965 No.53(弥生土器 後期 壺)



2. SD965 No.71(弥生土器 中期 壺)

Qz:石英, Kf:カリ長石, Mv:白雲母, Che:チャート, Ry:流紋岩, An:安山岩,  
Gra:花崗岩, Qz-V:脈石英, Vg:火山ガラス, PO:植物珪酸体, P:孔隙。  
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

## 第V章 総括

### 第1節 番跡について（第22図・第23図）

本調査区で確認した畠跡は、畠溝の方向が東西方向と南北方向の2群に集約され、その新旧関係においては東西方向のほうが新しい。これまでの四方荒屋遺跡の調査で、今回A群・B群と分類した畠溝群を確認している。A群とした畠溝群は平成8年調査の第1～第3地区で確認された溝群と、B群とした畠溝群は平成11年調査のF地区、G地区の南側で確認されている溝群と同じような向きをなしている。本調査区はA、Bの調査区ともに近世段階には継続した耕作地として安定した土地利用がなされていたとみられる。本調査区の上層の主体となる時期については近世、18世紀後半から19世紀にかけての時期と推測でき、近世段階では本遺跡は荒屋村の耕作地としてなっていたとみられる。

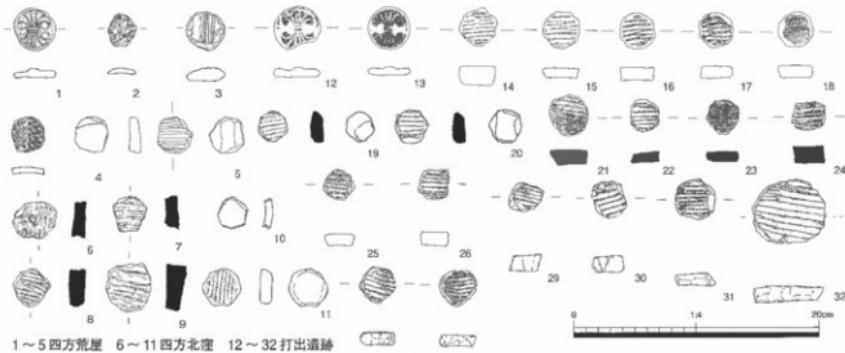
### 第2節 泥面子の出土について（第21図）

遺物から耕作地としての土地利用がなされていたことを示すものとして、遺構上面を形成していたV層より出土する泥面子2点がある。V層の堆積は人為的に形成された層と見られ、耕地整理の際、近世の畑を改変した時に生じたと考えられる。

泥面子は本来、遊戯具であり、今も残る紙製のメンコと同様の使い方が想定されている。18世紀後半から19世紀にかけて盛行する。通常は城下町など都市遺跡での出土が多い遺物である。遊戯具である泥面子が畑より出土する事例としては、近世の江戸近郊の農村で出土した例があり、川名楨氏をはじめ金刺伸吾氏、綿貫啓一氏らによると肥料となる排泄物のなかに混じって持ち込まれ散布することから畑で出土するという見解や（川名1996、金刺1973、綿貫1991）、土人形などと同じように五穀豊穣を願って撒くという民俗事例（金刺1993、増子1978）もある。

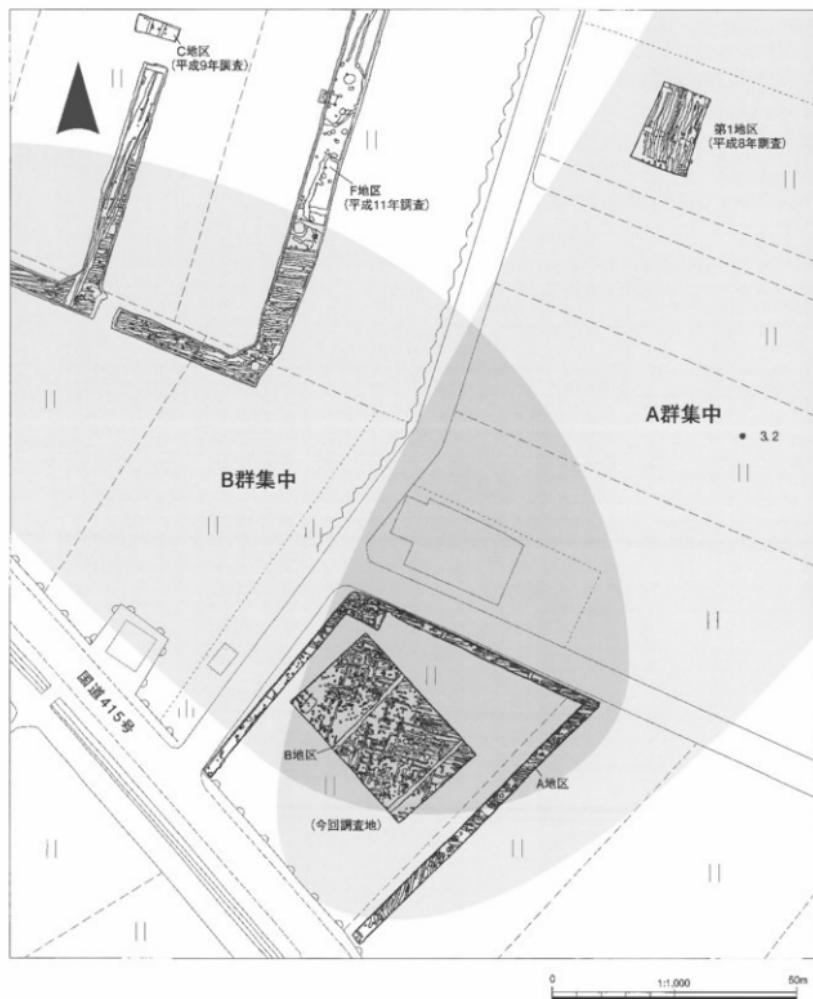
本遺跡からの出土もこれらの同じ理由からではないかと推測する。このようにして見ると当時の都市である富山城下町より肥料となる排泄物に混入して本遺跡で持ち込まれたか、農耕儀礼として畑に撒かれたと推測する。

周辺においても、本調査区で出土した面子と同型で製作されたものが打出遺跡で出土しており、関

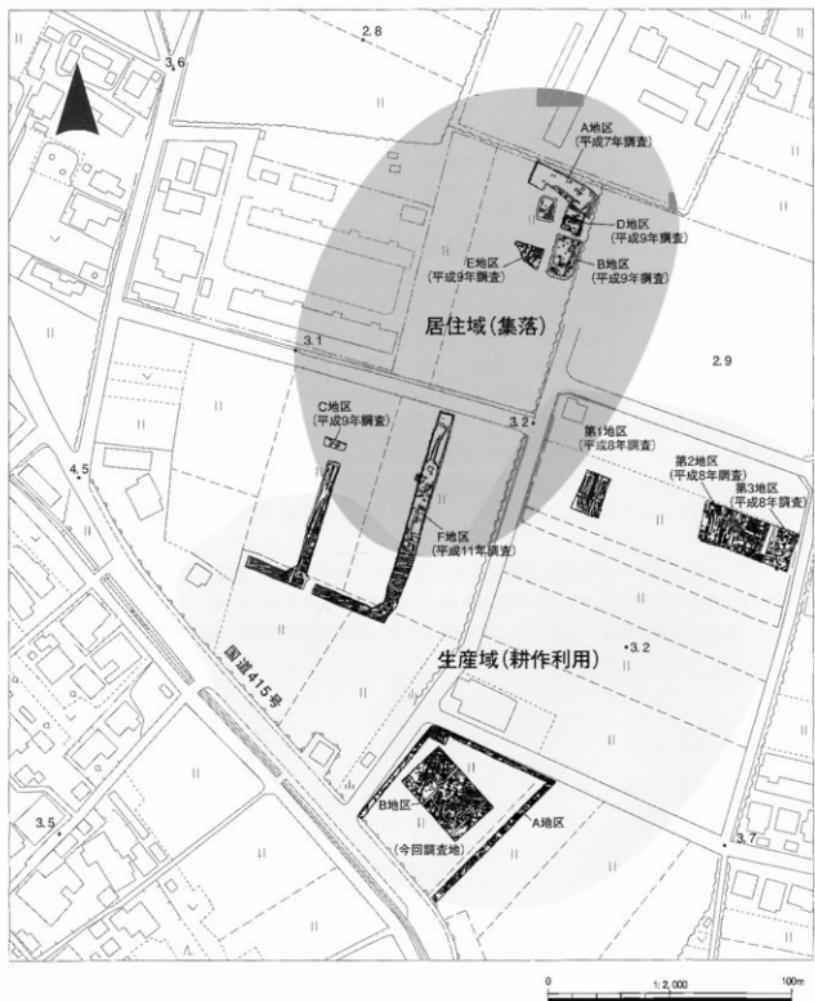


第21図 本遺跡とその周辺で出土した泥面子・加工円盤

連のものと考える。また、陶磁器片の角をとった加工円盤と呼ばれる遺物があり、四方荒屋遺跡、四方北窪遺跡、打出遺跡など痕跡を確認した遺跡で出土している。こちらは泥面子の代用として、同じようにつかわれていた可能性がある。



第22図 四方荒屋遺跡畝状造構集中部分



第23図 中世～近世にかけての四方荒屋遺跡

### 第3節 平地式建物について

#### 1. 平地式建物の想定

下層遺構で確認されたSD959・960は環状にとりまく周溝の一部とみられ、平地式建物の一部の可能性がある。遺物が伴わないが時期は弥生時代後期と推測する。隣接する四方背戸割遺跡でも同様の遺構を確認しており、住居跡の可能性を示唆している（富山市教2006）。

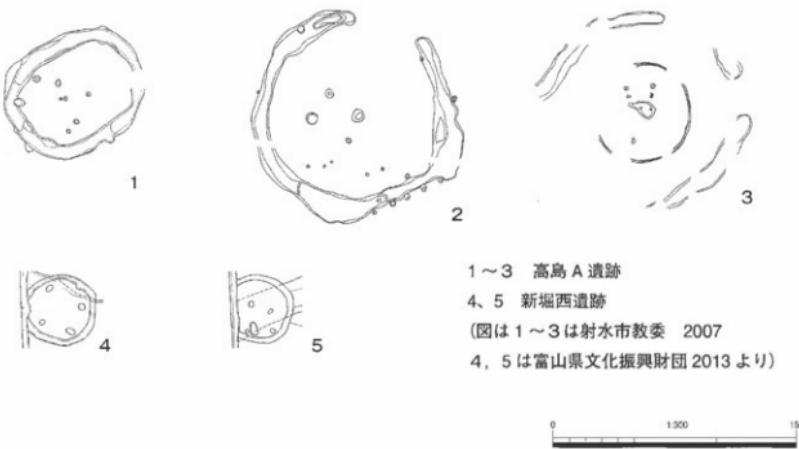
平地式建物は、4本、6本、8本の主柱で構成された建物を周堤帯で囲みその周間に溝を巡らせている。周堤帯については多くの遺跡で削平を受けているため、多くは周溝と建物を構成する柱穴のみで検出される。

今回の調査で確認したものは、周溝と推測される部分のみであるが、規模は周溝の外縁で直径9m前後の円形が推定されることから規模としては射水市高島A遺跡や新堀西遺跡での確認例に近い。

#### 2. 平地式建物の立地および下層遺構のまとめ

SD959・SD960は南北方向に流れるSD965に近接して位置する。平地式建物河川や流路など、水辺に立地する傾向がある。上市町の江上A遺跡、江上B遺跡（上市町教委1982）では、単棟の検出となるが、弥生時代後期の流路に近接して平地式建物が所在する。射水市高島A遺跡（射水市教委2006）についても同様である。また、久田氏の住居復元（射水市教委2006、久田2007）によって構成された作道遺跡についても、平地式建物に流路（鞍部）が近接している。また、高岡市下老子笠川遺跡（富山県文化振興財団2006）や富山市新堀西遺跡（富山県文化振興財団2013）のように、複数の平地式建物や竪穴建物を有する集落群においても河川や流路に近接し、集落の大小を問わず立地状況は共通する。

以上のように立地からもSD959・960が平地式建物の一部であった可能性があり、調査区内の弥生時代後期前半は小集落であったことが想定出来る。ただ、弥生時代後期以降、耕作地としての土地利用など、大きな改変を受けているため、本来はもう少し明確な集落様相を備えていたと推測する。



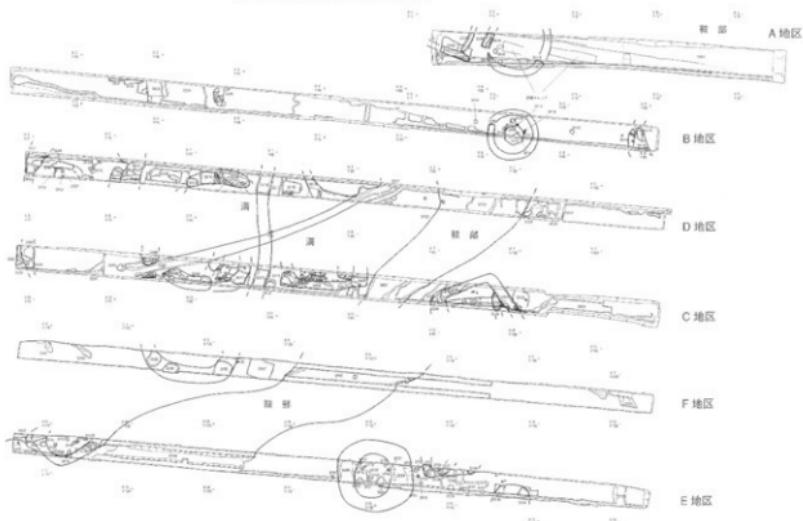
第24図 富山県内で確認された平地式建物の一例



江上A遺跡  
S=1/1000  
(上市町教委1982より)



江上B遺跡  
S=1/1000  
(上市町教委1982より)



作道遺跡  
S=1/300  
(久田 2007より)

第25図 平地式建物を伴う弥生遺跡（1）



下老子笹川遺跡  
S=1/2000



新堀西遺跡  
S=1/800

第26図 平地式建物を伴う弥生遺跡（2）

## 第4節 神通川下流域の弥生時代

本遺跡とその周辺遺跡は神通川下流域に立地する。この地域は縄文時代晩期から形成されてきた自然堤防などの微高地を利用し営みがなされたと考える。打出遺跡では晩期末の土器がわずかであるが出土した（富山市教委2004）。ただ川の下流域という特色から度重なる洪水等があり弥生時代中期後半までは今の所人々の営みが見られない。中期後半は四方荒屋遺跡、打出遺跡で当該期の土器が出土しているが短期間での営みが確認出来ただけである。

後期になると猫橋式前半期までは人々活動が見られないようで大きな洪水等の自然環境の変化が大きく起因するものと見られている。猫橋式後半期、天王山式土器も伴うこの時期に四方荒屋遺跡や江代割遺跡での営みが確認されている。この後の弥生時代後期後半以降、四方背戸割遺跡、打出遺跡、江代割遺跡が古墳時代前期まで継続して人々の営みがなされており、以降のこの地域への定着化へと進んでいくように思われる。本遺跡は現況の調査の中においては定着化が進む後期後半以降の展開は見られないため、弥生時代後期後半以降は隣接する四方背戸割遺跡や江代割遺跡で安定した微高地が形成されたためか両遺跡のほうへ営みの中心を移したと考える。

表12 遺跡消長表

時代	時期	様式	型式	四方荒屋遺跡	四方背戸割遺跡	江代割遺跡	打出遺跡	今古遺跡
縄文	晩期		長竹				■	
弥生	前期	I	柴山出村					
	中期	II	矢木ジワリ					
		III	小松					
		IV	磯部 専光寺 戸木B	■			■	
後期 終末期	V	磐梯 法仏 月影		■	■	■	■	
	古墳 前期	白江			■			
		古府クルビ			■			
		高島				■		■

■遺物遺構を伴う ■遺物のみの出土

## 第5節 天王山式土器について

### 1.はじめに

今回の調査では7点の天王山式土器が出土した。天王山式土器は福島県白河市天王山遺跡出土の土器を指標とする弥生時代後期の土器型式である。富山県内の事例としては1974年に上野章氏が高岡市頭川遺跡（現：間尽遺跡）出土の天王山式土器を紹介したこと（上野 1974）を端として認識されるようになった土器である。その後、石川日出志氏による下老子笹川遺跡から出土した天王山式土器の

検討、考察（石川 1998、2006）や久田正弘氏による石川、富山両県での出土資料の集成や検討（久田 2008、2009）、拙論では富山県内出土の天王山式土器を集成し、東北や越後との交流についての検討を行った（藤田 2013）。

## 2. 最近出土の天王山式土器について（第27図）

北陸新幹線建設に伴う調査の報告が最近増加したことにより拙論の集成（藤田 2013）以降の新出土資料をとりあげながら今回の調査の出土した天王山式土器を考えていきたい

### ・四方荒屋遺跡（本報告）

今回の調査で7点が出土した。SD965から出土した遺物が猫橋式の土器と共に伴っている。

### ・北堀切遺跡（黒部市教委 2013）

黒部扇状地の先端部に立地し、海岸からはさほど離れていない。遺物包含層となるV層より出土した。報告書では繩文時代後期の土器とあるが、図面および遺物写真から天王山式土器であると判断した。調査区内では単独の出土である。また、2007年の調査においても天王山式土器が1点出土した（黒部市教委2009 藤田2013）。

### ・新堀西遺跡（富山県文化振興財團 2013）

常願寺川扇状地の先端部に立地し、海岸からは4、5km離れた場所となる。いずれも小片であるが弥生時代後期の遺構から出土した。遺跡の主体は弥生時代後期後半の法仏式であるが、一部猫橋式となるものが確認出来、同時期に存在していた可能性もある。

### ・上梅沢遺跡（富山県文化振興財團 2013）

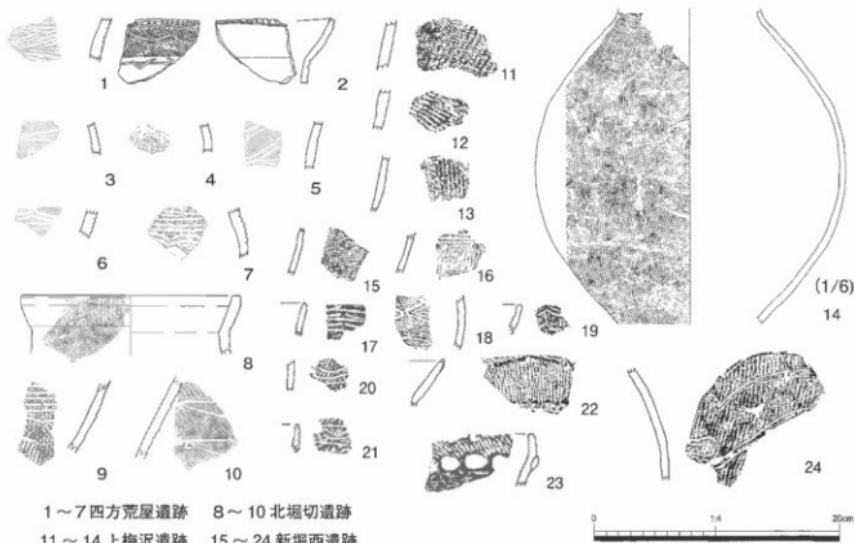
早月川によって形成された扇状地先端部に立地し、海岸からは2、3km離れた場所となる。遺構から壺が一点出土した。壺は頸部付近に直線や弧状の沈線を繩文の地紋の上から付している。同時期の在地系の土器の出土は無い。

## 3. 天王山式土器の出土状況と土器の特色

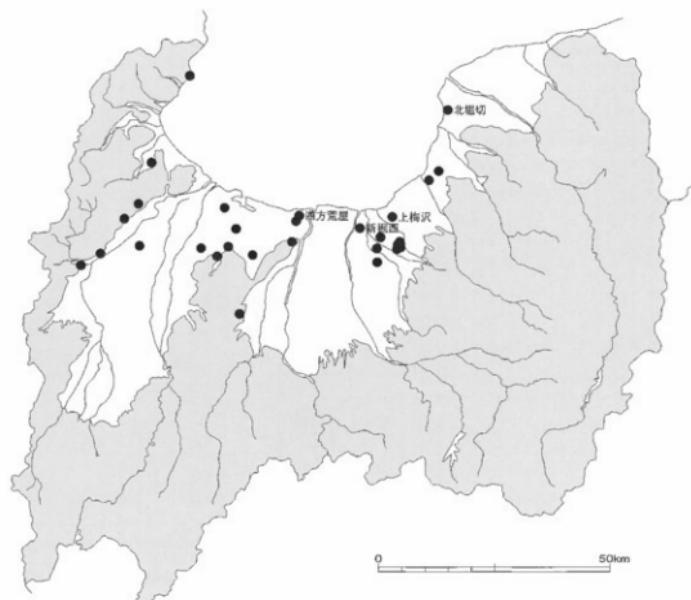
新出の4遺跡のうち、四方荒屋遺跡・北堀切遺跡・上梅沢遺跡は、天王山式土器単独あるいは出土量の大半を占め、新堀西遺跡は在地土器が主体の遺跡で少量の天王山式土器が出土する。四方荒屋遺跡は、周辺に在地系土器が主体となる同時期の江代割遺跡や四方背戸割遺跡があり、今回の調査区はこれらの遺跡と関わる一時的な交易目的のキャンプサイトであったと考えられる。他の2遺跡についても北堀切遺跡は周辺に堀切遺跡など法仏式前半段階の土器が出土する遺跡があり、上梅沢遺跡は周辺にそのような遺跡が確認されていないが、佐伯遺跡を想定する。新堀西遺跡については古墳時代まで続く長期的な集落であり、交易拠点として天王山式土器が持ち込まれたと考える。

また、四方荒屋遺跡出土の土器は明らかに在地土器とは胎土が異なり、越後や東北でつくられた土器とみられる。他の遺跡から出土した土器についても、実際の観察や掲載写真的判断から在地とは異なる胎土であるものが多くを占める。年代は弥生時代後期前半の猫橋式に並行すると考えており、他の新出土資料も含めて概ねその時期に並行し、新しくとも法仏式の前半段階となる。

四方荒屋遺跡の天王山式土器の出土は、弥生時代後期前半に越後あるいは東北の人々が交易にために移動し、在地の集落から離れた場所をキャンプサイトに交易活動に従事していたことを示している。また、この時期を境にして越後や東北との交流を示す遺物は四方荒屋遺跡をはじめ、富山県内各地の弥生時代・古墳時代の遺跡でみられなくなり、むしろ越後や東北で北陸の土器の出土が見られることから、交易や人々の移動に変化があったことも推測出来る。



第27図 最近出土の天王山式土器



第28図 天王山式土器出土地

## 引用・参考文献

- 石神裕之 2000 「近世遺跡出土の泥面子について」『史学』69-3
- 石川日出志 1990 「天王山式土器編年研究の問題点」『北越考古学』3
- 石川日出志 1998 「下老子釜川遺跡の天王山式土器」「下老子釜川遺跡発掘調査報告」福岡市教育委員会
- 石川日出志 2006 「下老子釜川遺跡の天王山式がもつ意義」「下老子釜川遺跡発掘調査報告」財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 市川市歴史博物館 1983 「資料集 泥めんこ」
- 射水市教育委員会 2006 「作道遺跡発掘調査報告」
- 射水市教育委員会 2007 「高島A遺跡発掘調査報告」
- 上野章 1974 「高岡市頭川遺跡」「大境」5
- 江戸遺跡研究会 2001 「圖説江戸考古学研究事典」柏書房
- 岡田一広 2012 「越中西部における弥生時代前半期の土器について」『大境』31
- 岡本淳一郎 1968 「弥生時代陶器遺構に関する一考察」『富山考古学研究』創刊号
- 岡本淳一郎 2003 「「周溝をもつ建物の基礎的研究」『富山大学考古学研究室論集 暑氣樓－秋山進午先生古希記念論集－』
- 金則伸吾 1974 「どろめんこのはなし」「李刊 どろめん」3
- 金則伸吾 1993 「近世庶民文化の遺物－泥めんこ小論－」「資料館だより」58 船橋郷土資料館
- 加藤 理 1996 「〈めんこ〉の文化史」久山社
- 金沢市教育委員会 1996 「西念南新幹線跡Ⅳ」
- 上市町教育委員会 1981 「北陸自動車遺跡調査報告－上市町遺構編－」
- 上市町教育委員会 1982 「北陸自動車遺跡調査報告－上市町土器・石器編－」
- 上市町教育委員会 1984 「北陸自動車遺跡調査報告－上市町木製品・包装編－」
- 川名 権 1996 「泥面子分布にみる江戸周辺の肥料流通－東京湾東岸地域を中心に－」『利根川文化研究』10
- 久保尚文 2008 「越中富山 山野川渓の中世史」桂書房
- 黒都市教育委員会2009「北堀切遺跡Ⅱ-2区発掘調査報告書」
- 黒都市教育委員会 2013 「北堀切遺跡Ⅱ-4区発掘調査報告」
- 小松市教育委員会 2003 「八日市地方遺跡I」
- 寒川旭 1992 「地裏考古学」中央公論社
- 七越市教育委員会 2006 「吹上遺跡」
- 新宿市谷本村町遺跡調査会 1995 「市谷本村町遺跡」
- 新宿区教育委員会 1988 「三栄町遺跡」
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 「内藤町遺跡」
- 高岡市教育委員会 2013 「石塙崎絆遺跡調査報告」
- 田嶋明人 2007 「法仏式と月影式」「石川県埋蔵文化財情報」18
- 中世岩瀬湊調査研究グループ 2005 「海中から中世岩瀬湊を探る」15年度海底探査報告」「富山市日本海文化研究所報」33
- 砺波市教育委員会 2014 「御館山遺跡発掘調査報告」
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006 「下老子釜川遺跡発掘調査報告」
- 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2013 「上梅沢遺跡・水橋金広・中馬場遺跡・新御西遺跡発掘調査報告」
- 富山県教育委員会1982「北陸自動車遺跡調査報告－魚津市編－」
- 富山県教育委員会1984「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（2）南太閤山Ⅰ遺跡 南太閤山Ⅱ遺跡」
- 富山県教育委員会1985「小杉流通業務団地内遺跡群 第7次緊急発掘調査概要」
- 富山県埋蔵文化財センター 大門町教育委員会1992「大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（2）」
- 富山市教育委員会 1988 「昭和62年度富山市埋蔵文化財発掘調査概要」
- 富山市教育委員会 1998 「富山市内遺跡発掘概要 I 四方北庄遺跡」
- 富山市教育委員会 1999 「富山市内遺跡発掘概要 II 四方北庄遺跡」
- 富山市教育委員会 1999 「富山市四方背戸割遺跡発掘調査報告」

- 富山市教育委員会 1999 「富山市内遺跡発掘調査概要Ⅱ 四方北窪遺跡」
- 富山市教育委員会 1999 「富山市千原崎遺跡発掘調査概要」
- 富山市教育委員会 2000 「富山市四方北窪遺跡」
- 富山市教育委員会 2000 「富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2001 「富山市千原崎遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2004 「富山市打出遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2006 「富山市向野池遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2006 「富山市打出遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2006 「富山市四方背戸削遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2006 「富山市金屋南遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2007 「富山市打出遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2008 「富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2013 「富山市四方背戸削遺跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2013 「富山市今市遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 2013 「富山市小竹貝塚発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 富山市埋蔵文化財調査委員会 1999 「富山市四方荒屋遺跡発掘調査概要」
- 西本豊広編 2009 「新弥生時代のはじまり 4」 雄山閣
- 布目久三 1982 『四方郷土史話』
- 野田豊文 2012 「弥生時代後期北陸地方の東北系土器と砂山式土器に関する予察」『三西河流域の考古学』10奥三面を考える会
- 早崎薰・宮満文二 1985 「泥面子について」『新湘南道路国道理藏文化財調査報告』
- 久田正弘 2007 「弥生住居の想定復元」『石川県埋蔵文化財情報』
- 久田正弘 2008 「北陸地方の農耕社会の形成」「弥生ムラの風景」石川県立歴史博物館
- 久田正弘 2009 「弥生時代の東日本系土器集成」『石川考古学研究会々誌』52
- 水見市教育委員会 2006 「正保寺遺跡」
- 水見市史編さん委員会 2002 『水見市史7 資料編五 考古』
- 古川知明 2005 「神通川底出土遺物のこと」「草島校下の歴史」50 草島校下郷土史会
- 福岡町教育委員会 1998 「下老子堂川遺跡発掘調査報告書」
- 福岡町教育委員会 2003 「上野A遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
- 藤田慎一 2013 「富山県出土の天王山式土器から見た越後、東北との交流」「大境」32
- 北陸中世土器研究会編 1997 「中・近世の北陸－考古学が語る社会史」杜書房
- 増子陽子 1978 「『泥めんこ』についての一考察」『日本考古学研究所集報』1
- 弥生時代研究会 1990 「天王山式期をめぐって」の検討会記録
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 綿貫啓一 1991 「ゴミ・尿屎・泥メンコ」『資料館だより』55 船橋郷土資料館





調査区遠景（南東から）



調査区遠景（東から）



調査区全景（上層）



調査区全景（下層）



B地区北側上層溝群（東から）



B地区中央上層溝群（東から）



B地区東側上層溝群（東から）



A地区中央上層溝群（東から）



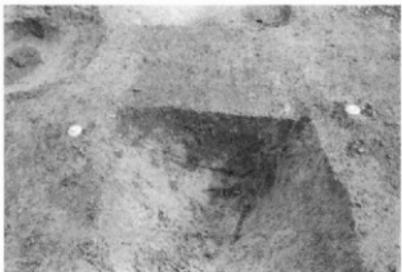
B地区 煙跡 SD242、241断面（東から）



A地区 煙跡 SD63~66断面（東から）



A地区 SD19断面（南から）



B地区 SD237断面（西から）



A地区 煙跡 SD42~46完掘（西から）



A地区 煙跡完掘 SD50~56（南から）



A地区 煙跡完掘（西から）



A地区 煙跡完掘（西から）



B地区東側溝群完掘状況（西から）



B地区西側溝群完掘状況（東から）



SK632完掘状況（東から）



SK632完掘状況（北東から）



SE140断面（東から）



SE140完掘状況（南東から）



SE258断面（南東から）



SE258完掘状況（東から）



SD801・804完掘状況（西から）



SD801断面（東から）



SD804断面（西から）



SD959断面（北から）



SD976断面（南東から）



SD959・960完掘状況（西から）



SD965完掘状況（南東から）



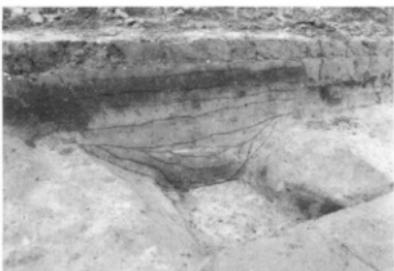
SD965断面a-a' (南東から)



SD965断面b-b' (南東から)



SD965断面d-d' (南東から)



SD965断面e-e' (南東から)



SD965完掘 A地区北側 (南東から)



SD965完掘 A地区南側 (南東から)



SD965出土状況 (1) (南から)



SD965出土状況 (2) (南から)



SK855断面（南東から）



SK855完掘（北から）



SX900断面（東から）



SX900完掘（北東から）



SX905断面（東から）



SX905断面（南から）

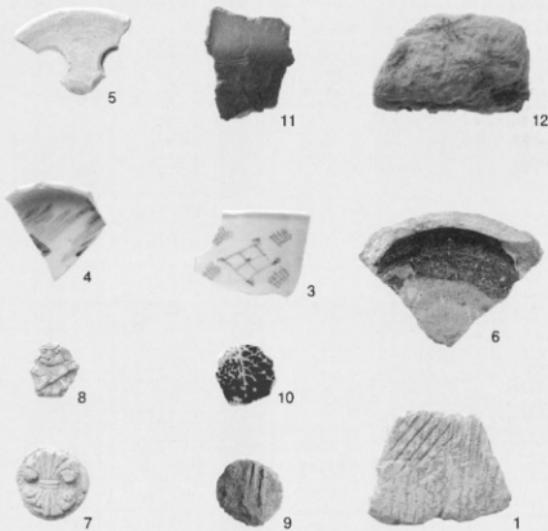


天王山式土器出土状況（南西から）

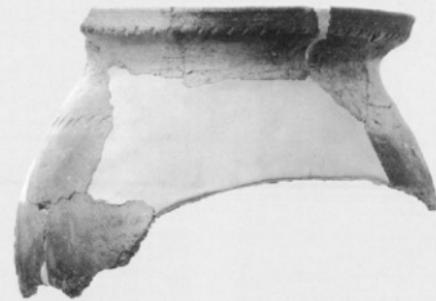


SX907断面（東から）



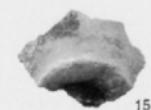


上層出土遺物

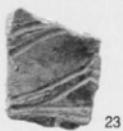


16

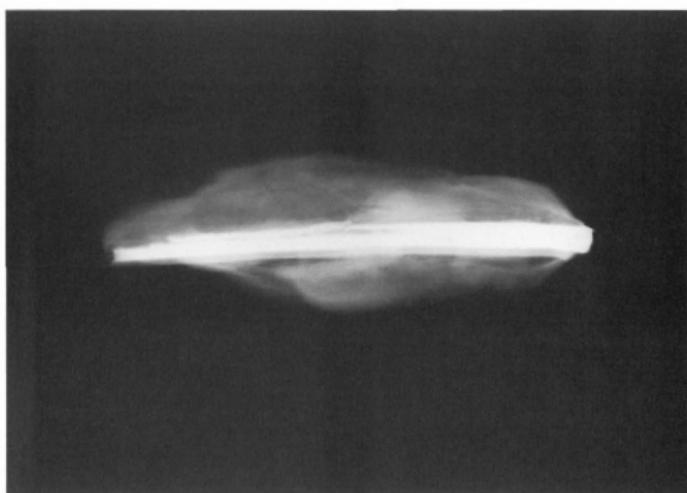
下層出土遺物



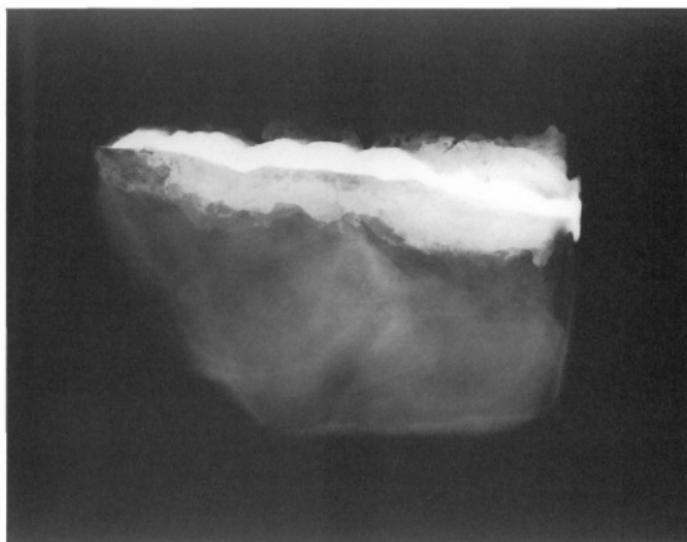
下層出土遺物 (2)



下層出土遺物 (3)



青銅製品 X 線写真 (No.12)



青銅製品 X 線写真 (No.12)

報告書抄録

ふりがな	とやましよかたあらやいせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書						
副書名	富山北消防署和合出張所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	64						
編著者名	近藤顯子・藤田慎一・高橋敦・田中義文・馬場健司・堀内誠示・矢作健二						
編集機関	株式会社上智富山支店						
編集機関住所	〒939-8253 富山市新保44-1 TEL076-429-9788						
発行機関	富山市教育委員会埋蔵文化財センター						
発行機関所在地	〒930-0091富山市愛宕町1丁目2-24 TEL076-442-4246						
発行年月日	2014年3月28日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ○'○"	東經 ○'○"	調査期間	調査面積	調査原因
よかたあらや いせき 四方荒屋遺跡	とやまし 富山市 よかたあらや 四方荒屋	16201 201014	36度 45分 9秒	137度 12分 3秒	2013.10.05 ～ 2013.12.20	2058m <sup>2</sup>	消防署建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
四方荒屋遺跡	集落	弥生時代 中期～後期	溝、土坑、 不明遺構	弥生土器、加工 円盤、石錐	天王山式土器の 出土		
		古代		須恵器			
		中世・近世	畑、溝、井戸、 土坑	珠洲、越中瀬戸、 近世陶磁器、泥面 子、加工円盤、硯、 板状青銅製品	2時期の畠跡が ある。		
要約	<p>上層、下層2面の遺構面を確認した。上層遺構面は近世の畠溝を主体とした耕作地部分を確認した。畠跡は東西と南北方向の2群があり、既往の調査で確認した溝群と同方向であった。中世後半から近世にかけての荒屋村の集落域を支える生産域の広がりを確認した。</p> <p>下層遺構面では、13条の溝を確認した。そのうち、1条について放射性炭素年代測定を行い、弥生時代中期の年代を得られた。また、2条は環状にとりまく周溝の一部とみられ、平地式建物が所在する可能性がある。</p> <p>弥生時代後期前半の天王山式土器が出土した。胎土の観察から東北あるいは下越地域のものと見られ、北日本地域との交流を示す資料となった。</p>						

富山市埋蔵文化財調査報告64

富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書  
- 富山北消防署和合出張所新築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 -

発行日 2014（平成26年）3月28日

編集 株式会社上智富山支店

発行者 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

T930-0091

富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246

FAX 076-442-5810

印 刷 能登印刷株式会社

